

2004(平成16)年度

講義内容

医療健康科学部

 駒澤大学

講 義 内 容

目 次

I	全 学 共 通 科 目	
	1 宗 教 教 育 科 目	9
	2 教 養 教 育 科 目	21
	(1) 人 文 分 野	21
	(2) 社 会 分 野	41
	(3) 自 然 分 野	64
	(4) 総 合 分 野	72
	3 外 国 語 科 目	81
	4 保 健 体 育 科 目	113
II	専 門 教 育 科 目	127
III	「日本語」・「日本事情」科目	153

全	宗	教	教	育	科	目	
	学	教	養	教	育	科	人
							文
							分
共	通	科	目	社			
				会			
				分			
				野			
科	目	目	自				
			然				
			分				
			野				
目	目	目	総				
			合				
専	門	教	育	科	目	保	
						健	
専	門	教	育	科	目	日	
						本	
専	門	教	育	科	目	本	
						事	
専	門	教	育	科	目	情	
						情	
専	門	教	育	科	目	日	
						本	
専	門	教	育	科	目	語	
						語	
専	門	教	育	科	目	日	
						本	
専	門	教	育	科	目	事	
						情	

「日本語」
「日本事情」

I 全学共通科目

1. 宗教教育科目

1. 宗教教育科目

仏教と人間	〈岡本一平〉	9
仏教と人間〔再クラス〕	〈池田魯参〉	9
仏教と人間〔再クラス〕	〈晴山俊英〉	10
仏教と人間〔再クラス〕	〈福田孝雄〉	10
仏教と人間〔再クラス〕	〈吉津宜英〉	11
文化と宗教	〈長谷部八朗〉	11
社会と宗教	〈池上良正〉	12
自然と宗教	〈小川順敬〉	12
坐禅	〈佐藤秀孝・熊本英人〉	13

宗教教育科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教と人間	おかもと いっぺい 岡本 一平	放1必	4

講義のねらい

仏教は、インドの釈尊の教えにはじまり、長い歴史を経て、広大な地域へと展開しました。現在では、仏教はキリスト教、イスラム教とともに、世界三大宗教の一つと見做されています。本講座の目的は、東アジアに展開した仏教の諸相を中心にして、その特質を考え、理解することにあります。

講義の内容・授業スケジュール

仏教の基本教義を概説し、インド・中国・韓国・日本に展開した伝統的仏教の思想と歴史を講義します（前期）。その後、可能な限り現代・近代における仏教受容のあり方についても考えてみたい（後期）。

履修上の留意点

疑問があれば、何でも質問していただきたい。

成績評価の方法

平常点と学年末の試験により評価します。試験の内容については、授業の理解度・進行状況を考え、学年末に指示します。

教科書

随事配布します。

参考書等

授業にて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教と人間〔再クラス〕	いけだろさん 池田 魯参	全学科2・3・4年	4

講義のねらい

一年間の講義を通じて、世界の諸宗教と比較して仏教にはどのような特色があるのか考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、世界の代表的な諸宗教が成立する歴史的文化的背景を明らかにし諸宗教の特質を意義づけ、その上で仏教成立の史的意義を明らかにし、釈尊（ブツダ）の人間観はどういうものであったのか考えてみたい。

後期では、釈尊滅後の教団史的展開の諸問題を、インド・チベットを始め中国・朝鮮・日本などの東アジア諸地域における仏教の伝播と変容の歴史的意義を明らかにし、仏教信仰に生きた人々の人生観はどういうものであったのか、具体的に考えてみたい。

履修上の留意点

日頃から宗教の問題に関心を持って、宗教に関して見識のある教養人を目指して学んで欲しい。虚心に見聞し自分の頭で考える習慣を身につけて欲しい。

成績評価の方法

夏休みの課題レポートと学年末試験（論文形式）を中心に評価する。

教科書

適宜、講義資料をコピーして、課題毎に参考書等を紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏教と人間〔再クラス〕	ほれ やま しゆん えい 晴 山 俊 英	全学科2・3・4年	4

講義のねらい

仏教と一口に言っても、場所により宗派により様々な相違があり、場合によっては同じ仏教でも180度違う主張をする。これは人間が人間として生きることの多様性を示していることに他なるまい。仏教を信じる信じない、そして何が「正しい仏教」なのかは、最終的には個人の信念に依ろうが、一社会人としてその予備知識を養っておきたい。その意味も込めて、本講義のねらいは各国・各宗派の特徴とその背景を、大きな仏教史の中で概観して貰うことにある。

講義の内容・授業スケジュール

釈尊の生涯とその教えに始まり、インド・中国・日本における仏教の展開と主な人物、特徴を概説していく。

履修上の留意点

仏教が何らかの展開する際には、必ず人間の何らかの要請が内在していると思われる。本講義を通じて、そういった人間の要請というものを考察されたい。

成績評価の方法

期末試験に出席の状況（不定期に出欠をとります）を加味して評価する。

参 考 書 等

授業において適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏教と人間〔再クラス〕	ふく だ たか お 福 田 孝 雄	全学科2・3・4年	4

講義のねらい

無数に存在する世界の諸宗教の中で、仏教とは一体どういう宗教であり、その特徴、特質は何であり、いかなる可能性をもっているのか。それらを学んでいく上でまず、一般的宗教現象を一通り学び、宗教の共通の要素や性格を知っておくことも必要であるから、宗教学的基礎を学ぶことから始め、最終的に、仏教の基本的特色や特質を概観していくことにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教学の基礎的な構造としての宗教現象、宗教経験、宗教儀礼などを概説し、最終的に仏教思想の基本構造、仏教々団、經典の組織などについて学んでいくことにする。

成績評価の方法

出席点及びレポートなどにより総合的に評価する。

参 考 書 等

講義の進行に従って、その都度紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教と人間〔再クラス〕	よし づ よし ひて 吉 津 宜 英	全学科2・3・4年	4

講義のねらい

まず最初にこの科目名は「仏教と人間」となっていますが、私は「宗教と人間」という位に広く考えてゆきたいと思います。仏教を含めた宗教に対して皆さんはどのようなイメージを抱き、どのような意見を持っているのでしょうか。すでに特定の宗教を信じている人もいるかもしれませんが、これまで関心の無かった人もあり、また宗教批判者もあるかもしれません。私は宗教に対して肯定的な人にも否定的な方にも先ず宗教や仏教への正しい知識を持ってもらいたいと思います。宗教は政治、経済、科学技術、教育、芸術などと並んで人間の文化の一翼を担っています。太古からいろいろな様々な宗教が存在しています。ある宗教は一神を信仰しますが、他には多くの神を信仰したり、仏教のように仏を主張するものもあります。なぜ人間は宗教を求めるのでしょうか。この講義では先ず様々な宗教の多様性の確認から始めます。そして、宗教は社会の中でどのような機能を果たしているのかを考えます。また、宗教をめぐる様々な問題点を取り上げます。宗教は人々の幸福を成就する目的を持っているのに、民族紛争などと絡んで宗教戦争が起こり、多くの不幸な人々が出てしまう問題もあります。宗教は個人個人が何かを信じていれば他に迷惑をかけないですむと思うのですが、宗教集団が成立すると、公共の福祉に反する社会的問題を引き起こします。講義全体としては、仏教を含めた宗教の功罪両面を考えてゆくことをねらいとします。

講義の内容・授業スケジュール

前期には宗教の様々な形態について概説します。そして、世界の諸宗教の中で仏教の特色を明らかにします。後期は仏教を含めた宗教と人間社会の様々な問題を取り上げます。新新宗教と呼ばれる存在にも注目します。また、政教分離などの宗教と政治の問題、民族紛争絡みの宗教戦争の問題、人権と宗教の関連性、脳死の是非、遺伝子工学など生命倫理の問題と宗教との関わり等のテーマを順次取り上げます。毎回、必ずあるタイトルを明示して、講義を行います。

履修上の留意点

この科目専用のノートを用意して下さい。講義を筆記すると同時に自分の意見や疑問を書き留め、年間を通して受講と思索の軌跡が残るようにしてもらいたいと希望します。質問は大歓迎です。講義中でも挙手して質問して下さい。ただ、私語は厳禁です。厳しく注意します。

成績評価の方法

毎回出席を取り、年間で2～3回の課題提出を御願ひし、最後に期末試験を行い、その結果を総合して成績評価を行います。

教科書

特に使用しないが、出来るだけ参考資料としてのプリントを配布します。

参考書等

授業の中で随時参考図書などを紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文化と宗教	はせ べ はち ろう 長谷部 八 朗	放選	4

講義のねらい

本講義は、我が国の近代以降、各時代状況の中で、宗教が社会とどのようにかわり、近・現代の精神文化の形成に影響を及ぼしたかを、仏教を中心にみていく。具体的には、寺院の中でもいわゆる教会・結社組織に焦点を据え、それらが、仏教と民衆をつなぐ接点として果たしてきた役割を探ってみる。仏教諸宗派の中でも教会・結社活動の盛んであった曹洞宗や日蓮宗を主軸に講述する。

また、そうした教会・結社と新宗教・新新宗教を比較検討し、両者に対する民衆のニーズとそれに対する対応の仕方の類似点および相違点を明らかにしていきたい。

成績評価の方法

未定である。授業時に1、2回小論文を課し、評価の一部に加える予定である。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の中で適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会と宗教	いけがみ よし まさ 池上良正	放選	4

講義のねらい

宗教学・宗教社会学などの理論的成果をふまえて、「近代社会と宗教」というテーマを中心に講義する。近代という特異な時代が成立する過程において宗教はどのような関わりをもったのか、様々な問題を抱えた近現代社会のなかで宗教はどのような形態で存続し、またどのような意義や役割を担っているのか、といった問題を考える手がかりを探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、宗教が近代社会の形成に果たした役割についての考察からスタートして、世俗化論、私事化論などの検討する。後期は、現代世界における宗教の動態的理解、近代日本の社会変動と民衆宗教の展開、といった問題を考える。近年の精神世界ブームや新宗教の動向などにも触れる予定。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
自然と宗教	おがわ としゆき 小川順敬	放選	4

講義のねらい

人間は古来から、自然のいとなみの背後に説明のつかない大きな力を感じ、自然の事物や、自然現象を崇拝の対象としてきたと言われます。それでは、人間は自然の背後にどのような“説明のつかない力”をみたのでしょうか。あるいは、自然を人間とのつながりでどのようにとらえ、考えてきたのでしょうか。
この講義では、宗教と自然との関わりという角度から、これらの問題を考えてゆくことにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

まず最初に、宗教現象を考えていくための宗教学、宗教人類学のいくつかの基本的な概念を概説、紹介します。その後、山と宗教、海と宗教、森と宗教、また仏教と自然、キリスト教と自然などのテーマを立て、具体的事例をあげながら人間と自然との宗教的な関わりを諸相を紹介していくことにしたいと思います。また、環境問題に対する仏教やキリスト教、新宗教、あるいは伝統宗教からの発言や取り組みを紹介し、その考え方や今日的評価・議論を概観、紹介する予定です。

成績評価の方法

評価はレポートと年度末の筆記試験により行います。夏期休暇前にレポート課題を出します。成績評価の具体的な方法、年度末試験の方針、レポートの内容、出席等は最初の授業で詳しく説明します。

教科書

原則として教科書は用いません。

参考書等

講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
坐 (前期)(後期) 禅	さとう しゅうこう くまもと えいじん 佐藤 秀孝・熊本 英人	放選	2

講義のねらい

駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。

今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。

坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしょう。

この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。

講義の内容・授業スケジュール

半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。

1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得)

4～13「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です)

(道元禅師の書かれた坐禅の指導書ともいえる『正法眼蔵-坐禅儀』を通して坐禅の本来の姿を学びます)

履修上の留意点

実習をその主なる内容としますので出席を重視します。また、まじめに授業を受けられることを要望します。

成績評価の方法

出席数、出席態度、レポートを総合して成績評価とします。

教科書

適宜、プリントにて配布します。

参考書等

『坐禅-講本-』(更生社) 2,226円

宗教教育科目

2. 教養教育科目

2. 教養教育科目

(1) 人文分野

文学〔日本文学「古典」〕	〈八島由香〉	21
文学〔日本文学「古典」〕	〈平野由紀子〉	21
文学〔日本文学「近代」〕	〈川島淳史〉	22
文学〔日本のことば〕	〈保明陽子〉	22
文学〔外国文学「アメリカ文学」〕	〈田中保〉	23
文学〔外国文学「ロシア文学」〕	〈杉山秀子〉	23
文学〔外国文学「中国文学」〕	〈清水浩子〉	23
文学〔日本文学「近代」〕	〈小林治〉	24
文学〔日本文学「古典」〕	一フレックスB開講—〈田中伸作〉	24
文学〔日本文学「近代」〕	一フレックスB開講—〈保明陽子〉	25
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	〈鈴木聡〉	25
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	〈河谷淳〉	26
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	〈山口祐弘〉	26
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	〈滝口清栄〉	27
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	〈久保陽一〉	27
論理学〔知の技法〕	〈箭野浩司〉	28
論理学〔知の技法〕	〈伊古田理〉	29
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	一フレックスB開講—〈伊古田理〉	29
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	一フレックスB開講—〈麻生享志〉	30
倫理学(1)〔人間観〕	〈古田知章〉	31
倫理学(2)〔応用倫理学〕	〈黒崎剛〉	32
倫理学(3)〔価値観〕	〈滝沢正之〉	32
倫理学(4)〔応用倫理学〕	〈箭野浩司〉	33
倫理学(5)〔制度とモラル〕	〈滝口清栄〉	33
倫理学(6)〔東洋倫理〕	〈末木恭彦〉	34
倫理学〔現代と倫理〕	一フレックスB開講—〈古田知章〉	35
倫理学〔人生と倫理〕	一フレックスB開講—〈末木恭彦〉	36
宗教学(1)〔比較宗教文化〕	〈池上良正〉	36
宗教学(2)〔聖と俗〕	〈田中かの子〉	37
宗教学(3)〔思想と儀礼〕	〈小川順敬〉	38
宗教学(4)〔組織と運動〕	〈洗建〉	38
宗教学〔聖と俗〕	一フレックスB開講—〈菅原壽清〉	39
宗教学〔比較宗教文化〕	一フレックスB開講—〈田中かの子〉	40

(2) 社会分野

社会学	[現代社会を考える]	〈呉 炳 三〉	41
	[現代文化を考える]		
	[社会生活を考える]		
社会学	[現代社会を考える]	〈金 澤 朋 広〉	41
社会学	[現代文化を考える]	〈金 澤 朋 広〉	42
社会学	[社会生活を考える]	〈小 畑 和 一〉	42
社会学	[現代社会を考える]	—フレックスB開講—〈呉 炳 三〉	43
社会学	[現代文化を考える]	—フレックスB開講—〈橋 爪 敏 一〉	43
文化人類学	[文化と人間]	〈佐 藤 憲 昭〉	44
文化人類学	[文化と人間]	〈藤 崎 康 彦〉	45
文化人類学	[諸民族とコスモロジー]	〈杉 井 純 一〉	46
文化人類学	[諸民族とコスモロジー]	〈鈴 木 一 馨〉	47
文化人類学	[社会変化と価値観]	〈小 川 順 敬〉	47
文化人類学	[社会変化と価値観]	〈内 山 明 子〉	48
文化人類学	[文化と人間]	—フレックスB開講—〈川 上 新 二〉	48
文化人類学	[諸民族とコスモロジー]	—フレックスB開講—〈杉 井 純 一〉	49
法学・憲法	[法と社会生活]	〈長谷川 日出世〉	50
法学・憲法	[法と社会生活]	〈和 知 恵 一〉	51
法学・憲法	[法と社会生活]	〈沼 田 雅 之〉	52
法学・憲法	[法と社会生活]	〈鷄 徳 啓 登〉	53
法学・憲法	[法と権利]	〈沼 田 雅 之〉	54
法学・憲法	[法と国家]	〈佐 藤 多 美 夫〉	55
法学・憲法	[法と国家]	〈新 田 浩 司〉	56
法学・憲法	[法と国家]	〈織 田 晃 子〉	57
法学・憲法	[法と権利]	〈茂 野 隆 晴〉	58
法学・憲法	[法と権利]	—夏季集中—〈藤 本 茂〉	59
法学・憲法	[法と権利]	—フレックスB開講—〈鷄 徳 啓 登〉	60
法学・憲法	[法と社会生活]	—フレックスB開講—〈長谷川 日出世〉	60
経済学	[現代社会と市場経済]	〈嶋 中 貴 一〉	61
経済学	[現代経済と人間]	〈瀬 戸 岡 紘 一〉	61
経済学	[現代経済理解へのガイド]	〈橋 本 泰 明〉	62
経済学	[現代経済と人間]	—フレックスB開講—〈明 瀬 政 治〉	63

(3) 自然分野

基礎数学	学	〈熊坂 さつき〉	64
基礎物理学	学	〈佐藤昌憲・小林久夫〉	64
基礎化学	学	〈原田 和正〉	65
生命科学	学	〈清水 善和〉	66
情報処理技術	術	〈杉田 徹〉	67
物理学序論	論	〈佐藤昌憲・一守俊寛〉	67
化学序論	論	〈山本 祐右〉	68
科学基礎論	論	〈氏家 盛通〉	69
科学基礎論	論	〈熊坂 さつき〉	69
科学基礎論	論	〈杉田 徹〉	70
科学基礎論	論	〈高野 正雄〉	70
科学基礎論	論	〈山本 祐右〉	71
科学基礎論	論	〈吉川 宏起〉	71

(4) 総合分野

総合Ⅲ(1) [人権と社会問題] 〈ピアス, D. M.〉	72
総合Ⅲ(2) [欧米の教育と日本の教育] 〈岡崎 寿一郎〉	73
総合Ⅲ(3) [中国語圏文化の諸相] 〈岩崎 皇〉	73
総合Ⅳ(1) [現代アメリカ事情] 〈林 明人〉	73
総合Ⅳ(2) [米国シアトルNPOの経営研究] 〈西村 祐子〉	74
総合Ⅳ(3) [ポスト・モダンの世界] 〈丸小 哲雄〉	75

科目名	担当者名	配当学科	単位
文学〔日本文学〔古典〕〕	八島由香	放選	4

講義のねらい

『堤中納言物語』を読む。

講義の内容・授業スケジュール

『堤中納言物語』は、十編の短い物語と一つの断章からなる、平安後期を中心とした短編物語集です。

これらの短編物語は、全体が短いため読みやすい上、展開がリズムカルなため、長い時間をかけることなく読み終わることができます。しかしその反面、短編であるがゆえに簡略化された無駄のない物語展開には、物語文学における様々なパターンが踏襲され、表現技法が駆使されていると考えられます。できる限り先行する物語の用例を多く提示することによって、そのパターンや表現技法を学び、当時の社会の習慣や風俗をふまえながら、ひとつひとつの物語を丁寧に読み解いていきたいと思えます。

そのため、まずは平安時代に描かれた物語の概説をし、その後、所収されている物語内で唯一、成立年代と作者がわかっている「逢坂越えぬ権中納言」から読んでいきます。

履修上の留意点

一編ずつ時間をかけて読むため、『堤中納言物語』をすべて読むことはかたがたありませんが、できるかぎり多くの物語を読み解いていきたいと考えています。そのため、新しい物語に入る場合には、その物語を事前に通読してくることを望みます。

成績評価の方法

出席状況とレポートによって評価します。なお、出席数が年間を通じて講義数の三分の二に達しない場合、単位を認定しません。

教科書

大槻修校注『堤中納言物語』（岩波文庫）460円

その他

テキストを用いての講義形式です。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文学〔日本文学〔古典〕〕	平野由紀子	放選	4

講義のねらい

現在、日本は国際社会において重要な役割を担っているが、真の国際人であるためには自国の文化や歴史を知ることが重要である。そこで、日本文学の原点とも言える万葉集の歌をよむことによって、その歴史的背景を知ると共に、古代人の生き方や考え方を理解する。

万葉前期は大化の改新から壬申の乱を経て、律令国家体制の確立された時代であり、歌は歴史と密接に関わりながら存在した。額田王や柿本人麻呂などが活躍し、古代の歌謡からみずみずしい万葉の和歌が生まれ出た。前期万葉をよむことは、古代史を読むことでもある。

万葉後期は歌の舞台が都を遠く離れた北九州や北陸、関東などに及び、大伴旅人や山上憶良、万葉集の最終編者と考えられる大伴家持など官人たちのほか、防人や名もない庶民の歌が多く収録されている。それらの歌を通して、当時の社会や人々の考え方を学んでみたい。

講義の内容・授業スケジュール

（前期）前期万葉の歌をよむ。（1・2）歌謡から和歌へ（3・4）前期万葉の時代（5～7）斉明天智朝—額田王を中心に（8・9）天武朝と天津皇子・大伯皇女（10～12）持統朝—柿本人麻呂を中心に（13）持統朝—高市黒人・万葉前期のまとめ

（後期）後期万葉の歌をよむ。（14）万葉第三期について（15・16）大伴旅人（17・18）山上憶良（19）山部赤人（20）高橋虫麻呂（21）万葉第四期について（22～24）大伴家持（25）防人歌・東歌（26）万葉後期のまとめ

成績評価の方法

年度末の定期試験により評価する。出席・授業態度等も考慮する。なお、出席は授業内容に関するコメントの提出によりとる。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 学〔日本文学「近代」〕	かわしま あつし 川 島 淳 史	放 選	4

講義のねらい

日本の近代文学はどのように成立し、発展していったのか。明治から大正初めにかけての時代状況を見据えつつ、近代文学そのものの意義について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

今年度は日清戦争前後から大逆事件前後までの文壇の動向を中心に考察していきたい。この時期、日本は政府の主導により、積極的に近代化を推進し、西洋の原理・思想・文明を摂取して、国民国家を形成していった。しかし、その性急な近代化は他方でさまざまな社会問題を引き起こす原因ともなったのである。そのような時代状況のなかで、文学者たちはそれをどのように見つめ、作品に書きあらわしていったのか。森鷗外、北村透谷、泉鏡花、川上眉山、広津柳浪、樋口一葉、内田魯庵などの作品を通して「日本の近代」の諸問題を検討していきたいと思う。

履修上の留意点

この講義では可能な限り多くの作品を取り上げたいと考えている。当然のことながら、予告された作品は事前に読んでおき、受講する際は必ず携行してこること。また、受講後は各自紹介された文献を探し、レポート作成の準備をしておくことが必要。

成績評価の方法

講義で提示した課題を各自が考察し、レポートを作成する。出席状況と三回ないし四回のレポートの内容によって評価する。期日を過ぎてしまった場合は受け取らないので注意すること。

教 科 書

詳しくは最初の時間に指示する。必要に応じてプリントを配布するが、文庫本に収録されている作品は、各自で購入してもらう。

参 考 書 等

その都度、講義の中で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 学〔日本のことば〕	ほあき ようこ 保 明 陽 子	放 選	4

講義のねらい

明治時代の作品を読むことで、その時代の雰囲気を実際に感じる。高校の教科書にある森鷗外『舞姫』がかつて読みにくかったように、今となっては一人でスラスラとは読めなくなってしまっている明治20年代から30年代の作品を、そこに書かれている一字一句の「ことば」の背景に立ち戻り、そこから推測できる「ことば」の意味を吟味しながら読むことで、実はその作品に含まれていた明治の社会や文化をもじっくり体験する。

講義の内容・
授業スケジュール

「写実」というテーマにかかわる作品を読む。小説にかぎらず評論なども含む。文学作品は、「ことば」によって何かを写し表現しているものであるが、「写実」の定義は個々の作家によって異なる。したがって、この講義では、明治の「ことば」にふれながら、明治の人々の「ことば」に対する概念を探る。具体的な作品については、最初の講義において明らかにする。

履修上の留意点

この講義では、みなさんと共に年間を通して、文学作品について本格的に読むことになる。授業に出席することで新しい読み方を体験し、その成果を表現することが要求される。

成績評価の方法

毎回の授業を通して話題になるテーマについて、その都度みなさんが考察してきたことが、不定期に課されるレポート提出という形でとわれ、その提出状況と内容が成績に反映される。

教 科 書

適宜講義で指示する。

参 考 書 等

適宜講義で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
文学[外国文学「アメリカ文学」]	田中保	放選	4

講義のねらい

アメリカ文学の歴史は極めて浅い。アメリカ文学の主流を辿りながら、主要な作家とその代表作品を取り上げ講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前期は講義形式でアメリカ文学を概観し、受講者各自で興味ある作家を主要作家一覧表から1人選び、その作家の作品を1編選んで読み、その作家紹介と作品の内容・主題についてレポートを提出してもらう。

後期は受講者各自が主要作家一覧表から関心をもつ作家を1人選び、その作家の作品を読むグループを編成して、グループ発表形式で授業を行います。

履修上の留意点

教養教育科目ですので、作品はすべて翻訳本で読んでもらいますが、アメリカ文学にいささかでも関心のある学生の受講を希望します。

成績評価の方法

レポート・発表・出席等を総合的に評価する。

教科書

教科書は用いません。

参考書等

参考となる書籍については、適宜指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
文学[外国文学「ロシア文学」]	杉山秀子	放選	4

講義のねらい

女性学・男性学の観点からロシア文学の名作といわれているものをとりあげ、既成の価値観や評価をあらいなおしてみる。

講義の内容・授業スケジュール

プーシキンの『エフゲーニー・オネーギン』、トルストイの『アンナ・カレーニナ』、『戦争と平和』、チエホフの『子犬を連れた奥さん』その他の作品をDVDでとりあげ、当時の時代背景の中で浮き彫りにされた女性と男性の関係性を分析してみる。

成績評価の方法

出席回数、各人のディベートと、レポートで総合的に評価する。

教科書

プリントを用意する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
文学[外国文学「中国文学」]	清水浩子	放選	4

講義のねらい

前期の前半は中国神話・伝説について解説する。その後はテキストを講読し、『風俗通義』の作者応劭の神話・伝説・俗説についての考え方を知る。

講義の内容・授業スケジュール

神話・伝説・俗説について、テキストに従って講読・解説を行う。

履修上の留意点

毎時間、その日の講義に対する意見を書き、それを提出してもらう。

成績評価の方法

年間2～3回のレポートと毎時間の意見文を参考に総合的に判断する。

教科書

中村璋八・清水浩子著『風俗通義』（明德出版社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 学〔日本文学〔近代〕〕	こばやし おさむ 小 林 治	放 選	4

講義のねらい

優れた文学作品の条件とは何だろうか。一例としてリアリティを挙げても、現実を写してありのままらしく見えるものほど実はリアルではなく、技巧によってそれらしく仮装された規範にすぎないことも多い。このような文学特有の陥穽を見通す視点から、文学について再考することを試みたい。

講義の内容・
授業スケジュール

対象に予定している作家は、第二次戦後派の安部公房、島尾敏雄、また異端の作家として深沢七郎、ルポルタージュ文学の先駆者としての上野英信である。主に教科書と配布プリントを使用する。

履修上の留意点

具体的に上記の作家の作品を読んでいく中で、文学作品という現象を通じて見えてくるものは何か、あるいは文学が表現し得るものは何かを考えていくので、講義を受ける前にあらかじめ対象作品だけは読んでおいていただきたい。作品名の詳細は講義を進めていく中で、時々指示するが、とりあえず下記の作品と教科書で指定する作品は必読である。

安部公房『砂の女』
島尾敏雄『死の棘』
深沢七郎『楢山節考』
上野英信『追われゆく坑夫たち』

成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容を総合し、さらに出席状況を加味して評価する。

教 科 書

安部公房『R62号の発明、鉛の卵』（新潮文庫）476円
安部公房『砂の女』（新潮文庫）400円

参 考 書 等

授業時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 学〔日本文学〔古典〕〕 —フレックスB開講—	たなか しん さく 田 中 伸 作	放 選	4

講義のねらい

『平家物語』は軍記物語の代表として知られるが、そこには平家一門をとりまく人々のドラマが実に生き生きと描かれている。その内容・叙述において『平家物語』は非常に中世らしい文学の一つと言えるだろう。この作品を読むことで、古典文学に親しみ、中世における文学のあり方を考えることを目的とする。

また、史実が文学に取り込まれたとき、どういう世界として描かれるのかという歴史文学としての側面も考察したい。

講義の内容・
授業スケジュール

『平家物語』の代表的な句を読み、内容と特色を把握する。また、関連する史料を紹介し、時代背景や文化史的な問題も追及する。

成績評価の方法

定期試験の成績による評価。出席状況も重視する。

教 科 書

『平家物語抄』（おうふう）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文 学〔日本文学「近代」〕 —フレックスB開講—	ほあき ようこ 保 明 陽 子	放 選	4

講義のねらい

明治期以降における日本の「近代化」を、「文学」という切り口で考える。これまで日本という国は、西欧の「近代化」に多大な影響を受けてきた。しかし昨今の風潮は、その流れを端に押しやる勢いがある。そこで、これまでの過去の歴史的経緯を考慮しつつも、近代社会において文化後進国ゆえの、曖昧かつ複雑な構造をもつ日本独自の「近代化」を、文学的視座から改めてとらえ直す。主に、啓蒙色の強い明治三十年代の文学的素材をもとに、現代社会の背景をかいま見る。

講義の内容・
授業スケジュール

文学作品に現れた「英雄」「恋愛」「家」「武士道」「宗教」「癒し」「救い」といった様々なテーマは、作品の古今にかかわらず、現代社会を個人レベルで読み解く鍵である。このような日常にある「文学」的なものという身近な視点から、敢えて通俗性という枠組をとおして、そこに潜む「社会」の様相をかいま見る。近年話題になっている現代作家の作品と、明治時代の文学作品を比較しながら、そこにある「文学」とは何かを探求するが、具体的な作品についてはそのテーマごとに適宜講義において明らかにする。

履修上の留意点

この講義では、みなさんと共に年間を通して、文学作品について本格的に考えることになる。授業に出席することで新しい考え方を探求し、そして実際に本を読み、そこで獲得した考察の成果を表現することが望まれる。

成績評価の方法

毎回の授業を通して話題になるテーマについて、その都度みなさんが考察してきたことが、不定期に課されるレポート提出という形で問われ、その提出状況と内容が成績に反映される。

教 科 書

畑有三・山田有策・長野隆『作品で綴る近代文学史』双文社出版 2000円
随時プリントも配布する。

参 考 書 等

適宜講義で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	すず き さとる 鈴 木 聡	放 選	4

講義のねらい

論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。我々は、日常生活において様々な文を用いて様々なタイプの推論を行う。多種多様な姿を持つ文にも、実は或る一定の構造が存在する。その構造を見極めることが論理学の課題である。また多種多様に見える推論にも、実は或る一定のタイプが存在する。この推論のタイプについての研究が論理学の主要課題である。論理学の習得は、正しい推論結果を導出するために、すべての学問において重要なことからである。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は次のものを予定している。

1. 文論理
 - (a) 文論理の意味論 (b) 文論理の統語論
2. 第一階量化論理
 - (a) 第一階量化論理の意味論 (b) 第一階量化論理の統語論
3. メタ論理
 - (a) 健全性定理の意義 (b) 完全性定理の意義

履修上の留意点

毎回の出席が要求される。

成績評価の方法

成績は、中間試験・期末試験・小テスト・出席点で評価する。

教 科 書

配布プリント

参 考 書 等

本講義は、講義→小テスト（チュートリアル）→前回の講義の復習→小テストの解説→……という形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
論理学(科学方法論と現代論理学)	かわたにあつし 河谷 淳	放選	4

講義のねらい

日常において私たちがまとまった文章を書いたりまとまった話をする場合、そこでは思考の何らかの「流れ」が要請されている。また、何気なく発せられた単発の文(命題)にしても、反省してみれば、それもまた暗黙の前提命題からの「流れ」の帰結であることに気づく場合がある。アリストテレス以来の歴史を持つ論理学とはそうした「流れ」の妥当な形式とは何かを考える学だということができよう。本講義の目的は、論理的であるとは一体どういうことなのかを考え、さらにそれを身につける訓練をつむことにある。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では概ね次のような内容を取り扱う。
 前期：伝統的論理
 (a) 論理学の基本概念(概念・命題・推論)
 (b) 演繹推理(定言・仮言三段論法の妥当性の判定)
 (c) 帰納推理(ミルの方法、仮説演繹法)
 後期：現代論理(記号論理)入門
 (d) 命題論理(日常言語の記号化と証明)
 (e) 述語論理(日常言語の記号化と証明)

履修上の留意点

継続して授業に出席することは言うまでもなく、毎回の授業内容を積極的に復習することが望ましい。

成績評価の方法

中間・期末試験(それぞれ40点満点)と夏休みレポートと出欠の総合点で評価する。

教科書

『新しい認識への論理』(公論社)

科目名	担当者名	配当学科	単位
論理学(科学方法論と現代論理学)	やまぐちまさひろ 山口 祐弘	放選	4

講義のねらい

伝統的論理学から現代の記号論理学に至るヨーロッパの論理思想の発展を、弁証法論理や東洋の思惟様式にも眼を向けつつ広い視野において学び、人間の思考の働きを理解するとともに、正しく考える態度を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- | | |
|--|---|
| <p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理学とは何か 2. 思考の原理 3. 同一性と同一律 4. 関係の思想 5. 対立と矛盾 6. 矛盾の概念 7. 判断論 8. 無限判断 9. 二律背反 10. 弁証論 11. 無限性の思想 12. 論理思想の比較 | <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記号論理学の基本思想 2. 真理関数 3. 標準形 4. 公理体系 5. 定理の演繹 6. 同 7. 同 8. 体系の条件 9. 述語論理学 10. 無矛盾性、完全性、決定問題 11. 伝統的論理学との対応 12. 三段論法の基礎付け |
|--|---|

履修上の留意点

出席を重視する。

成績評価の方法

テストによる。

教科書

『論理学概論』(岩波書店)

参考書等

『ドイツ概念論における反省理論』(勁草書房)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
論理学(科学方法論と現代論理学)	たき ぐち きよ えい 滝 口 清 栄	放選	4

講義のねらい

私たちはさまざまな情報のうずのなかで生活している。それは身近な日常生活から社会や世界の動きにまで及んでいる。これら多岐に及ぶ情報の伝達と表現は言葉によっておこなわれている。また送り手も受け手も思考を通して情報に関わっている。私たちはそれらの情報に時にあまいさを感じたり不快な気持ちをもったりする。あるいは納得したりする。このようなことに目を向けるならば、私たちは言葉と思考のあり方に敏感にならざるをえないのではなからうか。ひとたびこの点について注意を払うようになると、日常生活そしてさまざまな学問的な営みの基礎として、論理学が重要なものと思えてくるであろう。本講義では、このような基礎をしっかりとしたものとするよう思考の諸法則を検討していきたい。講義はできるだけ理解しやすいうように努める。

講義の内容・授業スケジュール

教科書にそって形式論理学に重点をおいて講義を進めていくが、記号論理学にも立ち入る。

履修上の留意点

理解を深めるために練習問題を解く機会をできるだけ設けて、思考の諸法則の理解に努める。積極的な取り組みを期待したい。

成績評価の方法

小テストならびに学年末テストにより成績を評価する。

教 科 書

山下太郎他著『新しい認識の論理』（公論社）3,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
論理学(科学方法論と現代論理学)	く ぼ よう いち 久 保 陽 一	放選	4

講義のねらい

論理学は正しく推論するための規則に関する学問であり、すべての科学や日常的な行動の方法として役立つものである。修得して活用できるようにしてもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 伝統的論理学
 - 1 演繹法（概念論・判断論・推理論）
 - 2 帰納法
 - 3 虚偽論、弁証法
- (2) 記号論理学
 - 1 命題論理学
 - 2 述語論理学

履修上の留意点

よく出席すること。私語、途中退室はつしむこと。

成績評価の方法

中間試験、小テスト、期末試験。

教 科 書

『新しい認識への論理』（公論社）

参 考 書 等

講義中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
論 理 学 [知の技法]	や の ひろ し 箭 野 浩 司	放 選	4

人
文
分
野

講義のねらい

ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション、ネゴシエーションのスキルアップを目的とします。日本の教育制度はこの四つの能力を育成しませんが、民主主義社会の一員として、ビジネスパーソンとして、国際社会の一員として、これからの時代を生きてゆくためには武器となるスキルです。(ただし、この授業は伝える内容は育成しません。内容は自分で育成してください。この授業が育成するのはメッセージを伝達する形式に関わる部分のみです)

初めての参加者は、人に何かを伝えようとする前に、恥ずかしい、言うことがない、意見がない、何も思いつかないといった状況に直面することになるかもしれませんが、それを乗り越えることも目的の一つとします。

講義の内容・
授業スケジュール

まずディベートから始めて、ディスカッション、プレゼンテーション、ネゴシエーションのどれか、あるいはすべてに挑戦してもらいます。オプションとして、司会術、情報分析、ビジネス戦略、ユーザー・クレーム、ビジネス・マナーを検討します。

履修上の留意点

単位よりも能力が欲しいことを参加条件とします。参加人数を減らすために、四回休んだら単位は出ません。単位のいない人の参加は歓迎します。この授業は今年で三年目となり、すでに単位を取っているのにスキルアップのために参加し続けている人がいます。そんな熱心な人たちのために今年は、有段者の黒帯、あるいはトーナメントの勝利者に与えられるトロフィーに相当するものを認定する制度をつくりたいと思います。それについてもプレゼン・バトルで決定しますので、アイデアを練っておいてください。

成績評価の方法

中間試験と期末試験、やる気、スキルの修得度などで評価します。

教 科 書

プリントを配布します。

参 考 書 等

その都度紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
論 理 学 [知の技法]	いこた まさる 伊古田 理	放選	4

講義のねらい

本講義は、文科系の文章技術について解説し、かつトレーニングを試みる。すなわち、あるテーマについて、文献を集め、読み、考え、そのうえで自分の考えを文章としてまとめるといった一連のプロセスについての実際のノウハウの習得を目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

まず、最初に文献・資料集めのしかたについて、簡単に解説する。次にあるテーマについて異なる立場からの考察を読みこなすトレーニングを行う。そのうえでこうした読解をもとにして自分の考え、立場を文章としてまとめあげるトレーニングを行う。

履修上の留意点

以下の「成績評価の方法」でも触れてあるが、この授業は基本的に講義スタイルですすめてゆくが、それと平行して、数回のレポート課題を出す。そして、この提出したレポートを材料に授業を進めるケースも少なくない。したがって、レポート課題がこなせないという意識をもつ諸君には受講をすすめたくない。

成績評価の方法

随時課するレポート課題（問題演習＋文章要約、等々：年間10本以上はありうることを承知しておいてほしい。翌週提出厳守）のほかに、最終的に本講義で扱ったテーマに対する諸君の考えをまとめた原稿用紙20枚程度のレポート（12月最終週講義時提出）によって判定。定期試験はいつさい実施しない。

教 科 書

本年度は、テーマとして「道徳の理由（なぜ道徳なんでものに従って行動しなければならないのか）」をとりあげる。

教科書：大庭他著『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（ナカニシヤ出版）

副読本：野矢茂樹著『論理トレーニング』（産業図書）

参 考 書 等

そのつど指示する。

そ の 他

上記教科書のテーマに対する関心を予めそなえていることは、必ずしも前提しない。しかし無関心でいつづけることはできない。自分で興味をみつけてゆくつもりで授業に臨んでほしい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
論理学[科学方法論と現代論理学] —フレックスB開講—	いこた まさる 伊古田 理	放選	4

講義のねらい

現代論理学の内容を、「ことばの正しさ」のうちで「推論の正しさ」のかたちづくる領域がどのようなものかを考えることにより、紹介してゆく。

具体的には、「推論の正しさ」の領域がどのようなメカニズムで機能しているかを習得することを第一の目標として、そのうえで（時間の許すかぎり）こうした領域の位置づけについて論ずることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

①古典的三段論法 ②公理系 I～命題論理 ③公理系 II～述語論理 ④コンピュータと論理

成績評価の方法

年2回の試験（夏期中間試験＋年度末定期試験）を実施し、それとは別に各学期にそれぞれレポート課題を出す。

詳細については、授業開始時のガイダンスの際に説明する。

教 科 書

野矢茂樹著『論理学』（東京大学出版会）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
論理学(科学方法論と現代論理学) —フレックスB開講—	あさ お たか し 麻 生 享 志	放選	4

人
文
分
野

講義のねらい

西洋哲学の中で、論理学は常に大きな位置をしめてきた。論理とは何か、正しさをどう説明すればよいか、真理をどのようなものと考えるか、といった問題の考察に、「論理学」は欠かせない。このような「論理の本性への考察」には、古代ギリシャの哲学者、アリストテレスの論理学を知る必要がある。彼の論理学には、当時の学問がおかれた状況が強い影響を与えていたと考えられる。その後、自然科学の発達によって学問状況は変化した。その変化に対応する形で論理学の変革も試みられた。さらに、二十世紀に入って、数学研究と論理学研究の交流・接触が考えられるようになる。このように論理学は変化の歴史を持つ。そこで(1)論理とは何かを考え、(2)変化する論理学の各内容についての知識を持ち、(3)日常生活における論理の活用について、自分で考えることの手引きを与えることをねらいとします。

講義の内容・
授業スケジュール

論理の本性、真理論、パラドックス、アリストテレス論理学、帰納法論理、実験主義論理学、論理学方法論、記号論理学概観、日常生活における正しい推論、学問と論理などの話題を考えられています。

履修上の留意点

大学という学問の場においては、講義内容を聞いて理解し、練習問題をこなし、内容を記憶するだけでは、十分ではありません。自分で検討し、疑い、考えることが絶対に必要であると考えます。そのために、自分で本を読んだり、調べたりという作業が加わるでしょう。意欲ある取り組みと、徹底的に自分の頭で考える姿勢を求めます。

成績評価の方法

平常点として、出席と、講義中に行う問題や論述を主な評価材料にし、前期・後期試験・夏休みのレポート成績を加味します。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

多数。講義内にて詳細に説明します。

そ の 他

講義と問題演習(ないし論述筆記)。早退は、許可のない限り認めません。主体的な質問を大いに歓迎し、期待します。初日はガイダンスとし、定時から五分間程度、または正規の終了時刻前五分間に資料を配布して質問を受け付けます。(ガイダンス後は、雑談的内容にあてる予定です。この間、入退出自由。)この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
倫 理 学 (1)〔人間観〕	ふる た とも あき 古 田 知 章	放 選	4

講義のねらい

われわれは、社会の中で、一人の人間として、さまざまなものを「よい」あるいは「悪い」と判断しながら生活している。逆に言うと、この判断なしにわれわれは生きていくことができない。では、このような倫理的生活を送っているわれわれ人間とは何者であろうか。日常、われわれは「人間」という言葉を自明なものとして扱っている。しかし「人間とは何か」と問われたとき、さまざまな問題が浮かび上がり、簡単には解答に到達できない。西洋の思想的領域では、この問いに対して、その時代の社会的状況や思想的背景との関連のもとで、さまざまな解答が示されてきた。現代に生きるわれわれが、自らが人間であることの意味を問い直すとき、これらの諸説を一度、検討することは有意義であると考えられる。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義）。

〔前期〕人間観の形成の歴史

1. 人間と倫理 一人間であるために―
2. 古代ギリシア思想における人間観の諸相
3. 中世キリスト教思想における人間観
4. 人間観の転換 ―ルネサンス・宗教改革―

〔後期〕新しい時代の人間観

1. 出発点としてのデカルト《思惟する私》
2. 自己の内面性と他者の問題
3. 人格 ―ロックを手がかりに―
4. 人間存在と自由

成績評価の方法

二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。

教 科 書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

参 考 書 等

講義の際にその都度紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学(2)〔応用倫理学〕	黒崎剛 <small>くろさき つよし</small>	放選	4

講義のねらい

「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規範」—「価値」や「義務」、「習慣」といった—の正当性を問うものである。だから「倫理学」というのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではないか、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものともなっていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定
1. 生命の倫理—講義の課題概説
 2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想
 3. 人工妊娠中絶
 4. 安楽死と尊厳死
 5. 脳死と臓器移植
 6. 「生殖革命」——人工生殖の現状と問題点
 7. 遺伝子操作論

履修上の留意点

課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働かせる態度を望む。

成績評価の方法

受講態度、出席、試験（レポート）、を総合評価。

教科書

教科書はプリントを使用。参考書は教場で紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学(3)〔価値観〕	滝沢正之 <small>たきざわ まさゆき</small>	放選	4

講義のねらい

倫理学の主要な潮流を概説する。
我々は日常、道徳的な善悪について語る。たとえば、親は子供に「それは悪いことだからしてはいけません」と言うだろう。しかし、少し反省してみると、道徳的な善悪というものはそのほど自明ではない。
そもそも、何が善いことで何が悪いことなのだろうか。たとえば、人は殺してはいけない、とよく言うが、世の中には死刑もあるし戦争もある。
また、少し前までは、性別や人種で差別することが当然のように行われていた。それが悪いことではない、と思われていたのだ。善悪は時代や場所によって変わってしまう、ただの決まりごとなのだろうか。
このように、道徳的な善悪の本性とは、実のところ、よくわからないものなのだ。
そこで、道徳についての哲学的考察、すなわち倫理学が登場することになる。

講義の内容・授業スケジュール

倫理学の主要な潮流を互いに対決させつつ紹介する。具体的には、カントの義務論、功利主義、ニーチェの道徳批判、徳論の四つとなる予定。

成績評価の方法

基本的に中間試験および期末試験により評価する。

教科書

久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）

参考書等

講義中に適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学(4)〔応用倫理学〕	矢野 浩 司	放選	4

講義のねらい

例えば、自動車でスーパーマーケットに行って、パックされた牛肉を買って、ポリエチレン製の袋に入れてもらって、家に持って帰って食べる場合、人はさまざまな選択を行っています。多くの人々は選択を行っているという意識を持っていません。それはシステムや文明によるマインドコントロールを受けている状態であり、考えて行動する力を奪われている状態であるとも言えます。この授業の目的は、そのような問題の存在に気づき、自分にインストールされた行動様式の外にいったん出ることによって、考えること、意見を持つこと、判断を下すことをシミュレートすることです。応用倫理学とは、論理の応用ではなく、問題に参加することで生き方を模索する学問です。

講義の内容・授業スケジュール

毎回異なる問題を扱います：安楽死、遺伝子操作、劣化ウラン弾、地雷、パレスチナ問題、アメリカとイラク、代理母、中絶、女性器切除、AIDS、18トリソミー、IT 犯罪、IT 汚染、天皇制、南京虐殺、教科書問題、自衛隊、自動車、食料、難民、刑務所、死刑、売買春、おたく、わいせつ、引きこもり、化粧、ファッション、美容整形、殺人、地域通貨、資本主義、徴兵制、温暖化、煙草、アイドル、アメリカ映画、内部告発、メディア倫理、ビジネス倫理など。

履修上の留意点

本年度は、授業終了後に希望者のみでグループ・ディスカッションを行います。この部分に関しては単位は出ませんが、意見を深めたい者、ディスカッション能力を高めたい者は参加してください。参加希望者がいない場合は行いません。

成績評価の方法

中間試験と期末試験、リアクションペーパーとディスカッション能力で評価します。

教科書

プリントを使用します。

参考書等

その都度紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学(5)〔制度とモラル〕	滝口 清 栄	放選	4

講義のねらい

人間は古くから共同体を作り、さまざまな社会的・政治的の制度を生みだしてきた。そこには時代によりあるいは地域により違いが見られるが、そこにはまた人間のよりよいあり方とよりよい社会的・政治的の制度のあり方をめぐり、絶えることのない思想的な営みがあった。どのような時代にあっても人間はこの営みをやめることはなかった。私たちの社会は今どのような方向に進んでいくのか。いろいろと考えざるをえなくなっている。歴史的視野をもち以上の思想的営みをふりかえておくことが、今日の問題を考えていく上でも大切な土台となるであろう。本講義では、西洋倫理思想史のなかで古代、近代、現代からいくつかの思想をピックアップし、まず人間観の特徴をつかみ、そして人間のよりよき生活を可能にするよりよき制度をめぐり、そのあとを檢討する。制度はもちろんそれを担うことのできる人間を必要とする。そこにはモラルの問題が関わる。時代的な違いを背景において以上の問題を檢討していく。

講義の内容・授業スケジュール

こまかなスケジュールについては開講時にスケジュール表を配布する。

履修上の留意点

講義は平明を心がける。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。

成績評価の方法

中間テスト（10月上旬を予定）と学年末テストにより成績を評価する。

教科書

久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』（公論社）3,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
倫 理 学 (6) [東洋倫理]	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	放 選	4

人
文
分
野

講義のねらい

漢文古典はすべて「倫理」学と言っても過言ではない。それらを産み出した人々の主要な関心は、人と人の中で如何に生きるかにあった。従って、漢文古典を考えれば、自ずと倫理学となる。又、漢文古典が示す人の生き方は、東アジアの人々に等しく人生の指針であった。先人の積みあげた歴史の上に我々はいる。漢文古典の世界を知ることは、決して他人事ではなく、我々の心の奥底を知ることである。これを知ることは、我々の未来の生き方を開くことにもなる。この様な重要な意味を担う我々先人達の人生の思想を問い直し、そこから未来の手掛りを掴む—ここにこの講義の目標はある。

講義の内容・
授業スケジュール

今年度は、東洋古典の智慧がどれだけ現代の問題を考えるのに役立つか検討を試みたい。環境倫理—環境問題にいかに対処してゆくかという問題を取り上げ、この問題に東洋の智慧がどのように光を投げかけるかを見てみたい。教科書は、この様な問題意識に基いて開かれたシンポジウムの報告論文集である。講義は、教科書に収められた論文の中から講師が重要と考える論文を選び、順次読み進めながら考察を深めてゆく。

履修上の留意点

ノートは確実にとること。

成績評価の方法

基本は年二回以上の試験あるいはレポートにより判断する。それに、出席状況・受講への積極性（質問の有無—質問は原則書面で提出して貰う）などを加味して最終的な成績をつける。

教 科 書

『東洋的環境思想の現代的意義』（農山漁村文化協会）

参 考 書 等

講義中に適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学〔現代と倫理〕 —フレックスB開講—	<small>ふる</small> 古 <small>た</small> 田 <small>とも</small> 知 <small>あき</small> 章	放選	4

講義のねらい

今日、多くの領域で、倫理の確立、再構築が求められている。これは、言い換えると、現代において倫理というものが分からなくなっていることの現れである。そして、このような状況のもと、われわれは、ひとつの人格をもつ個人として、自らの倫理観を模索していかなければならない。しかし、倫理とは何かを考えると、個々の領域、場面での「正しさ」の中身を検討すると同時に、その際の倫理的主体となるべき「自己」のあり方が知らなければならない。逆に言うと、この生きている自分が外的世界や他者と結んでいる関係、あるいは、自分が自分自身について考えることの意味などを明確にすることで、現代社会に生きるわれわれの向かうべき方向も見えてくる。そして、この見通しの上に立ってこそ、個々の領域での倫理観も意義あるものとなると考えられる。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義）。

〔前期〕倫理的原理についての検討

1. 倫理学における問題の所在 —倫理的であること—
2. 古代ギリシアにおける様々な倫理思想
3. 中世における宗教的倫理観
4. ルネサンスと宗教改革 —個としての人間—

〔後期〕

- I. 倫理的原理についての検討（前期の続き）
 - 近・現代における倫理思想 —主体性と自由の問題—
- II. 応用倫理学の諸問題への基礎的な検討
 1. 生命の尊厳
 2. 人間の環境との関係
 3. 情報と倫理

成績評価の方法

二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。

教科書

『原典による哲学の歴史』（公論社）

参考書等

講義の際にその都度紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
倫理学〔人生と倫理〕 —フレックスB開講—	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	放選	4

講義のねらい

人は一人では生きることができない。生きることは、必然的に人と人の関わりの場に身を置かねばならない。人倫の中に生きるのである。人は、また、「よく」生きることを求める。ここに、どう生きるのが「よく」生きることか、また、それがどうして「よく」生きることになるのかという問題が生じる。これらは、「倫理学」の主要な内容をなす。本講義は、我々が生きることの「倫理」性に自覚を深めることを目的として、その参考となるように先人の「倫理」をめぐる諸説を紹介する。

講義の内容・
授業スケジュール

今年度は、特に環境との関わりに問題をしぼる。又、参考とする先人は、東洋（特に中国・日本）に限り、東洋の伝説的な思想が現代に於ていかに役立つかを課題としたい。教科書は、国際シンポジウム「東洋の伝統的環境思想の現代的意義」の報告論文集である。講義は、教科書に収める論文の中から講師が重要と考える論文を選び、順次読み進みながら考察を深めてゆく。

履修上の留意点

ノートは確実にとる（板書を書き写すだけでなく口頭説明も的確に要をとらえ記録すること）

成績評価の方法

中間試験と学年末試験、レポートに出席態度を加味して判断する。

教科書

『東洋的環境思想の現代的意義』（農山漁村文化協会）

参考書等

講義中に適宜に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗教学(1)〔比較宗教文化〕	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	放選	4

講義のねらい

宗教学という学問は、そもそもの出発点から比較宗教学という性格をもっていた。そこでは「ひとつの宗教しか知らない者は、いかなる宗教をも知らない」（マックス・ミュラー）という信念が前提になっていた。「国際化」が進む今日の世界において、異なる社会に育った人々の生活の基盤を形づくってきた宗教文化の相互理解は、ますます重要な課題となっている。本講義では、宗教学の基本的な視点を紹介しながら、いくつかの具体的な研究成果を学ぶことにする。

講義の内容・
授業スケジュール

大きなテーマとして、次の三つを考えている。①「宗教」概念の成立とその意義。②人類史と宗教。③現代社会に生きる「宗教」。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 学 (2) [聖と俗]	田 中 かのこ <small>たなか かのこ</small>	放選	4

講義のねらい

ありのままの世界には「聖」も「俗」もなく、あるがままに続けられてゆくその営みがみられるばかりである。そこにあえて「聖と俗」という対立概念をみるのは、人間に固有の宗教的価値観がはたらいているからにはかならない。「聖」と「俗」にいかなる内容を盛るかは、神の啓示や仏の理法、あるいは大自然の威力など、信仰対象の特質によって多様化する。それはあたかも諸宗教間の相違を生むものであるかのようにみえる。しかし「聖と俗」の観念が生活のなかで活かされると、それは、無力にして至らぬ自己を「不浄から清浄」「苦しみから救い」「罪から改悔」へのプロセスに向かわせるという、どの宗教にとっても重要な、ひいては日々新たに生まれかわろうと欲する人間に共通の問題となる。本講では、現代に生きる諸宗教の信奉者たちと「聖なるもの」との関わりを実際の見聞にもとづいて解説し、各宗教の特殊性よりは普遍性について講じてゆく。それにより、本来は聖俗不分の如実なる世界に立ち返り、日常の大切さ、いのちの尊さに思い到ることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、Ⅰ. 宗教学の基本的立場、Ⅱ. 原始時代の宗教、Ⅲ. 一宗教の諸相、多宗教の比較、Ⅳ. 諸宗教の構成要素一覧、Ⅴ. 聖なる母性の比較美術、Ⅵ. 仏陀とキリスト、後期は、Ⅶ. ゴロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、シーク教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、仏教、儒教、道教、神道の歴史・思想・文化について解説する。

履修上の留意点

講義を聴き、板書を写すにとどまらず、その過程で考えたことをノートに取り、独創性や文章力を養うのに役立てよう。

成績評価の方法

各自の創意工夫と知識の応用力を問う論述式の学年末試験、レポート、出席状況。

教科書

田中かのこ著『比較宗教学—「いのち」の探求—』（北樹出版）2004年

その他

講義担当者の現地調査によるスライドと録音テープを活用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗教学(3)〔思想と儀礼〕	小川 順敬 <small>おがわ としゆき</small>	放選	4

講義のねらい 人間の“宗教行動”を理解することはなかなか困難な作業です。目に見えぬものに語りかけたり、その声に耳をそばだてたり、時としてその声を代弁したりすることを一体どのように分かれば良いと言うのでしょうか。祈りやお告げといった“宗教行動”は、信仰を持たぬものにとっては全く理解不可能な事なのでしょうか。宗教学は、そういった行動を信仰者の立場からではなく、“人間の行動”として、その背後の考え方を探ることによって理解しようと努めてきました。

この講義では、宗教学の立場から儀礼（宗教行動）とその思想について考えていこうと思います。一見、不可解な行動に見えても、その背後の思想を知ることによって、宗教行動の意味をいささかでも理解する端緒が開かれるはずです。

講義の内容・授業スケジュール まず最初に、宗教学の基本的な考え方や方法論、いくつかの基本概念などを具体事例にそって概説、紹介します。この際、儀礼に関する議論や理論を、宗教学や宗教学人類学、あるいはもう少し広く社会科学や人文学の中から紹介する予定です。ついで、様々な儀礼の諸相を具体例をあげて紹介し、その事例の検討を通して、思想や世界観、神話との関係について考えてゆくことにしたいと考えています。

成績評価の方法 評価はレポートと年度末の筆記試験により行います。夏期休暇前にレポート課題を出します。成績評価の具体的な方法、年度末試験の方針、レポートの内容、出席等は最初の授業で詳しく説明します。

教科書 未定。授業開始後、紹介します。

参考書等 講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗教学(4)〔組織と運動〕	洗 建 <small>あらい けん</small>	放選	4

講義のねらい 宗教学は、宗教現象の実証的研究を通じて宗教の客観的理解を目指す学問である。宗教現象は、文化、社会、個人の人格などの各次元にわたって展開するが、この講義では宗教の社会的展開を中心に考察する。宗教は個人の内面において、単なる知識としてではなく、情意的にも真実として把握された世界認識である。しかし、それはまったく個人的な信念にとどまるものではなく、多くの人々に共有された文化として存在する。そして宗教を共有する人々は、集団を作り、共に礼拝その他の宗教的実践をするのが一般的である。そこに社会現象としての宗教の問題が生じる。社会現象としての宗教には、どのような集団が形成されるのかという、集団内部の組織の問題と、宗教集団の活動が、外部の一般社会とどのような関係を生じるのかという宗教運動の問題とがある。これらの問題を事実面に即して考察し、宗教現象の理解を目指す。

講義の内容・授業スケジュール わが国の宗教伝統を形成する神道、仏教、儒教など、なかでもその基層をなしている神道的なるものが、わが国の社会や文化の形成に、いかにかわっているのかを考察したい。

履修上の留意点 受講者の人数にもよるが、事実を覚えることより、問題を理解し共に考えることを目指したいと思っているので、とにかく出席して受講して貰いたい。原則として出席をとる。

成績評価の方法 定期試験と、出席点を総合評価する。

教科書 特に指定しない。

参考書等 随時、紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 (聖と俗) —フレックスB開講—	菅 原 壽 清 <small>すが わら とし きよ</small>	放 選	4

講義のねらい

人間の精神世界の根源にあって人びとの生活を支える宗教文化の理解は、現代社会においても不可欠であると思われます。そこで、本講義では「聖と俗」というテーマで、人びとの暮らしと宗教について、その宗教的営みを宗教人類学の視点からとらえてみたいと思います。

授業は講義形式とし、前半は宗教学・宗教人類学についての基礎的な講義を、後半はこれまで私が調査してきた東南アジアや中国雲南などにおける人々の暮らしや宗教（スライド使用）を事例としながら聖と俗の問題、さらには日本人の生死観、宗教と現代社会との関わりなどについても考えてみたいと思います。

講義の内容・ 授業スケジュール

〈宗教人類学入門〉

- 1、宗教と宗教人類学（宗教をとらえる視点）
- 2、宗教人類学の研究領域（多様なアプローチ）
〈宗教の多様性〉
- 3、さまざまな宗教形態（その多様な形態）
- 4、宗教の分類方法（現代の分類方法）
〈聖なるコスモロジー〉
- 5、聖と俗
- 6、東南アジア・中国雲南の人びとの暮らしと宗教
- 7、シャーマニズム
- 8、日本人の生死観

成績評価の方法

試験＋出席点＋レポート点（詳細は、講義の時説明）

教 科 書

指定なし。

参 考 書 等

『宗教学ハンドブック』第2版（世界書院）

そ の 他

ビデオ・スライドなども使用。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学〔比較宗教文化〕 —フレックスB開講—	たなか のこ 田 中 かの子	放 選	4

人
文
分
野

講義のねらい

「～教」という名称に慣れていると、あたかもそれが視えない壁をなして他宗教との境界をつくっているかのように思えてくる。けれども諸宗教のおこなわれている現地に行ってみると、そこには「～教徒」である以前の、「人間」として限りある生命（いのち）をまっとうするための様々な生き方がみられ、宗教の多様性よりもはるかに個性豊かで、意外性に富んでいる。宗教文化は、そのような「人間」の諸相を信仰生活によりまとめあげるものであるが、共に生きる信仰の異なる人々との交流をとおして伝播する思想の影響力は測りがたく、実際の「～教」というのは、世界地図では表示できない範囲と次元において展開してゆくものである。本講は、このように融通性のある宗教観にもとづき、世界の主要な宗教文化を誤解や偏見を廃した正しい観点から理解することをねらいとする。

講義の内容・
授業スケジュール

現代世界に生きつづける諸宗教のなかから、講義担当者自身の現地調査と人々との交流経験をともなうゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、シーク教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、仏教を選び、それぞれの歴史・思想・文化、および、相互の歴史的連関について解説する。その予備知識として、前期の初めには、比較宗教学の基本的立場、宗教多元主義の問題点、諸宗教を比較する方法などを講ずる。

履修上の留意点

生きた諸宗教の実相を垣間見るため、祈りの声や聖歌（録音テープ）を聴き、スライドを鑑賞することを重視する。

成績評価の方法

出席状況、夏休みのレポート（B5版に収まる短文のなかで自己表現できるような課題）、各自の創意工夫を「答え」とする論述式の学年末試験（たんなる答案であるにとどまらず、在学中の貴重な時間を費やした一つの作品となるような問いをたてる予定）。

教 科 書

田中かの子著『比較宗教学—「いのち」の探求』（北樹出版）2004年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 学 〔現代社会を考える〕 〔現代文化を考える〕 〔社会生活を考える〕	お 泉 びよん さん 炳 三	放 選	4

講義のねらい

社会学は個人、集団、社会を対象とし、その分野は、「家族」「経済」「企業」「教育」「宗教」「文化」など様々である。このような分野において特徴的であるといえる問題は何だろうか。また、われわれは、それらの問題を解決するためにどのような手段を取りうるのか。この講義は、前期は社会学の基礎となる諸概念を踏まえた上で、後期よりは、以下のようなトピックスに焦点をあてて、現代社会の特徴的な問題について考察を深めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 現代の社会変動にともなう家族の変化をおう。特に乳幼児期における親との関わりや家族生活における様々な要因によって子供の社会化に影響を与え、または青春期や高齢期に様々な問題が現れる。このような一連をみていくとともに、少子化・高齢化といった家族に関する諸問題の検討。
- (2) 経済のグローバル化にともなう企業活動の意義、特に企業人の「豊かさ」と「余暇」の問題。
- (3) 社会・文化的産物として男性・女性はいかにして生産されていくのだろうか。「恋愛」、「性」、「結婚」といった事項を中心に「ジェンダー（社会的な性）」の問題を考える。
- (4) 若者文化（ユース・カルチャー）が現代において果たす役割とは？など文化を通じて日本人の心を分析していく。

履修上の留意点

授業を通じて、何かを学びたい学生は歓迎します。何の目的意識もなく、時計の振り子のように「出席さえすればよい」、また「教養科目なので、簡単に単位がとれる」と思っている学生は履修しないようお勧めします。

成績評価の方法

前・後期末に筆記試験を行う。詳細は開講時に説明する。

教科書

労働・福祉研究会『21世紀の労働と福祉』（学文社）2,500円

参考書等

講義の中に、その都度お知らせします。

社会分野

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会学〔現代社会を考える〕	かな ざわ とも ひろ 金 澤 朋 広	放 選	4

講義のねらい

現代社会と文化についていくつかの事例を扱いながら、社会学における基本的な考え方に對する理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

医療・福祉・組織・情報などの分野で「現代社会」を取り巻く状況を、「社会学」というフィルターを通して考えていく。社会学の基本的な考え方を学びながら、これまでとは違ったものの見方を身につけられるようにしていく。

成績評価の方法

講義の中で扱った内容について学年末に行う試験によって評価する。

教科書

開講時に指定。

参考書等

講義時に指定。

その他

土曜日・2時限

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学〔現代文化を考える〕	かな ぎわ とも ひろ 金 澤 朋 広	放選	4

講義のねらい

現代社会と文化についていくつかの事例を扱いながら、社会学における基本的な考え方に対する理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

「現代文化」を取り巻く状況を医療・福祉・組織・情報の分野での題材を、「社会学」というフィルターを通して考えていく。社会学の基本的な考え方を学びながら、これまでとは違ったものの見方を身につけられるようにしていく。

成績評価の方法

講義の中で扱った内容について学年末に行う試験によって評価する。

教科書

開講時に指定。

参考書等

講義時に指定。

その他

土曜日・1時限

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学〔社会生活を考える〕	お ばた かず 小 畑 和	放選	4

講義のねらい

社会学はつかみどころのない学問と言われますが、その理由は、社会学が「社会人の形式として社会関係や社会集団を研究するだけでなく、家族、人口、経済、法律、政治、企業、教育…等々の領域を一切適切包み込んだ社会全体を研究する学問だからです。それ故に幅広く、内容も多種多様で、明確な統一的立場を見出だし難い性格を持っています。

講義では、生産力と消費力の2つのキー概念を用いて現代社会の構造を捉え、人々の社会生活が生産と消費の社会的環境の中でどのように影響されているかを明らかにしたい。また講義を通して「巨視的 (Macroscopic) なものの見方」を身に付けて貰いたい。

講義の内容・授業スケジュール

この講義では「ゆたかさは人間を幸せにしたか」を主テーマに、人々の社会生活を誕生から老後に至る過程を追いながら次の7つの要因について講義する。

- ①マクロ的要因 (現代の生産の意味、生産力と消費力の関係が個人の社会生活にどのような影響を与えるかを中心に現代社会 (少子社会) を総合的に講義する。)
 - ②誕生に関する要因 (出生・墮胎・殺児…)
 - ③幼児・子供の成長に関する要因 (育児・保育・遊び・いじめ・体罰・塾・進学…)
 - ④家庭生活に関する要因 (核家族化、晩婚晩産化、生涯独身、パート、共働き、残業、余暇、離婚の増大…)
 - ⑤消費生活に関する要因 (広告・宣伝・ローン、消費者教育、自己破産、ホームレス問題、ゴミ問題等の消費者問題…)
 - ⑥会社生活に関する要因 (入社、転職、失業、終身雇用制の崩壊…)
 - ⑦老後の生活に関する要因 (年金、介護、生きがい、死の問題…)などを講義する。
- この7つの要因を通して、全体として現代社会の社会生活を考えて見たいと思います。

履修上の留意点

初回の講義で説明する。

成績評価の方法

五段階2乗方式によるが、そのやり方は初回の講義で説明する。

教科書

初回の講義で説明する。

参考書等

初回の講義で説明する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学〔現代社会を考える〕 —フレックスB開講—	お 呉 <small>びよん</small> 三 <small>さん</small>	放選	4

講義のねらい 社会学は個人、集団、社会などを対象とし、その分野は、「家族」「経済」「企業」「教育」「宗教」「文化」など様々である。このような分野において特徴的であるといえる問題は何だろうか。また、われわれは、それらの問題を解決するためにどのような手段を取りうるのか。この講義は、前期は社会学の基礎となる諸概念を踏まえた上で、後期よりは、以下のようなトピックスに焦点をあてて、現代社会の特徴的な問題について考察を深めていきたい。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- (1) 現代の社会変動にともなう家族の変化をおう。特に乳幼児期における親との関わりや家族生活における様々な要因によって子供の社会化に影響を与え、または青春期や高齢期に様々な問題が現れる。このような一連をみていくとともに、少子化・高齢化といった家族に関する諸問題の検討。
 - (2) 経済のグローバル化にともなう企業活動の意義、特に企業人の「豊かさ」と「余暇」の問題。
 - (3) 社会・文化的産物として男性・女性はいかにして生産されていくのだろうか。「恋愛」、「性」、「結婚」といった事項を中心に「ジェンダー（社会的な性）」の問題を考える。
 - (4) 若者文化（ユース・カルチャー）が現代において果たす役割とは？など文化を通じて日本人の心を分析していく。

履修上の留意点 授業を通じて、何かを学びたい学生は歓迎します。何の目的意識もなく、時計の振り子のように「出席さえすればよい」、また「教養科目なので、簡単に単位がとれる」と思っている学生は履修しないようお勧めします。

成績評価の方法 開講時に説明する。

教科書 労働・福祉研究会『21世紀の労働と福祉』（学文社）2,500円

参考書等 講義の中に、その都度お知らせします。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会学〔現代文化を考える〕 —フレックスB開講—	はし 橋 <small>つめ</small> 爪 <small>さとし</small> 敏	放選	4

講義のねらい この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供し、あわせて、「現代社会」についての若干の問題を論ずることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール 「講義のねらい」で述べたように、この講義は「社会学」の知識と、「社会学」的見方を通して見た「現代社会」の問題を扱うことになる。しかし、ほとんどの学生諸君は「社会学」についての予備知識は無いものと思われる。「社会学」は高等学校までの社会科とはかなり異なっている。そこで、まず、前期においてこのような社会学独自の社会現象の見方、考え方、基礎的な知識を理解し、後期に、こうした理解を踏まえて、「現代社会」の諸問題—文化とは何か、現代文化とは何か、大衆文化等—を扱うことにしたい。

成績評価の方法 成績の評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

教科書 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（学文社）

参考書等 高尾・橋爪編『社会学の基礎』（犀書房）
R. ニスベット『現代社会学入門1～4』（講談社学術文庫）
その他授業中に適宜指示したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文化人類学〔文化と人間〕	佐 藤 憲 昭 <small>さとう のりあき</small>	放選	4

講義のねらい

文化人類学は、日本を含む世界のさまざまな民族の文化や社会について比較研究する学問である。そしてその営為を通して「人間とは何か」という問題に答えようとするものである。国際化時代が到来している現在、異文化を理解することは必須の事柄といえよう。異文化の理解はまた自文化の理解を深めることでもある。こうした問題意識から、この講座では、内外の事例をできるだけ多く取り上げて、分析・比較・考察を行い、文化を通して人間理解の可能性を探ってみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

かつて、狼に育てられた二人の少女がインドで発見されたことがあった。狼に育てられた子供たちと、人間に育てられた子供たちとを比較してみると、文化を所有している人間の特質が浮き彫りにされてくる。わかりやすい事例を取り上げて、文化と人間とのとの関係をさまざまな角度から考える。

前期は、文化人類学の学問的特徴、対象、方法、歴史などについて具体的に解説し、後期は、家族、婚姻、親族、呪術-宗教的な観念や行動などの問題を取り上げて、「人間とは何か」という問題に接近してみたい。

履修上の留意点

抜き打ち的に出席をとるので、欠席をした場合（または欠席をする場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験で評価する。合格の基準は、講義内容を踏まえて、みずからの言葉でどのように論じているかという点にある。不合格の場合には、レポート点（4年生のみ該当）と出席点を加算して最終評価を行う。

4年生のみ提出のレポートは、次の通り。【課題】文化人類学に関する書物を読み、その感想文を作成する。【枚数】400字詰原稿用紙で5枚。【提出先と時期】授業時に随時受けつける。ただし授業時以外は受理しない。【その他】表紙（科目名・担当教員名・題目・学部・学科・学年・番号・氏名を記載）をつけること。4年生は必ず提出のこと。

教 科 書

村武精一・佐々木宏幹編『文化人類学』有斐閣Sシリーズ（有斐閣）

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文化人類学〔文化と人間〕	ふじ 藤 崎 康 彦	法A・政治・法B選	4

講義のねらい

文化人類学の基本的な考え方と知識を身につけることを目的とする。文化とは分類であること、文化とはコミュニケーションであることを基本的な視点として設定し、現象を整理してゆく。他者への関心から始まった文化人類学は自己の認識に役に立って、初めて意味がある。現代に生きるわれわれの人間観、文化観を各自がもてるように努力したい。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業内容を大きく前期と後期に分ける。前期は親族や婚姻などの社会構造、後期は妖術や呪術などの信念体系を考える。

(前期)

1回 導入、2回 親族と人の分類、3回 キンドレッド、4回5回 単系出自集団、6回 婚姻とその多様性 7回 婚姻連帯理論、8回 インセスタブーとエディプスコンプレックス、9回 擬制的親子関係、10回 性と年齢に基づく集団、11回 文化とジェンダー、12まとめ、13予備

(後期)

1回 導入、2回 文化とコミュニケーション、3回4回5回 妖術、6回7回8回 呪術、9回10回11回 シャーマニズム、12まとめ、13予備

履修上の留意点

静粛に、礼儀正しく授業を受けていただきたい。授業中携帯電話などの電子音が鳴った場合、その場で授業をうち切る。また、参考文献は紹介するので自主的な学修に役立てていただきたい。

成績評価の方法

前期、後期末の授業時試験（もしくは定期試験）と、授業時のミニテスト、ミニレポート、出席点などの総合評価

教科書

未定

参考書等

トピックごとの参考文献は、授業中に紹介する。

社会分野

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	すぎ い じゅん いち 杉 井 純 一	放選	4

講義のねらい

さまざまな民族が絶えず各地を移動する現代世界では、私たちは「異質な他者」との出会いを日常的に経験します。こうした多民族社会に生きる私たちは以前にもましてコミュニケーションの困難に直面します。お互いが先入観や偏見にとらわれず、十分な意志疎通を図るためには、相互の民族的、文化的背景への理解が前提となります。

文化人類学は民族や文化の多様性を比較することで、それぞれの文化的相違についての認識を深める学問です。具体的に言えば、人々の生活様式や儀礼、習慣などを通して「人間を取りまく世界、宇宙の成りたちやしきみ」についての多様な観念体系を理解していきます。

本講義では、前期に文化人類学の基礎、後期に民族とコスモロジーを学びます。まず、「異文化を理解する」ことの面白さ、そして、難しさを味わいながら、「異質なものととの共存」「他者との共生」の可能性について考えていくことが本講義の目的です。

社
会
分
野

講義の内容・
授業スケジュール

- I 文化人類学の基礎
 1. 文化人類学とは何か
 2. 文化人類学の歩み (1)
 3. 文化人類学の歩み (2)
 4. 文化とコミュニケーション
 5. 環境と人間 (1) 狩猟採集民
 6. 環境と人間 (2) 牧畜民
 7. 環境と人間 (3) 農耕民
 8. ジェンダー
 9. セクシュアリティ
 10. 婚姻の形態
 11. 家族の多様性
 12. 親族と社会
- II 民族とコスモロジー
 1. 呪術と宗教
 2. アニミズム
 3. シャーマニズム
 4. シンクレティズム
 5. 儀礼の構造
 6. コスモロジー
 7. 神話
 8. 政治組織
 9. 民族とエスニシティ
 10. 民族紛争と戦争
 11. 開発と文化
 12. 移動の民族誌

履修上の留意点

ビデオを見た感想を問うことがあります。

成績評価の方法

夏期レポート (20%)、期末試験 (60%)、平常点 (20%) で評価します。

教 科 書

特に指定しません。適宜、プリントを配布します。

参 考 書 等

祖父江孝男『文化人類学入門』(中公新書) 800円
 山下晋司ほか『文化人類学キーワード』(有斐閣) 1,700円
 佐々木宏幹・村武精一編『宗教人類学』(新曜社) 2,200円

そ の 他

できるだけ、ビデオを利用します (年に4~5回程度)。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	すずき いっけい 鈴 木 一 馨	放選	4

講義のねらい

文化人類学は、人類の特徴的な活動とその表現である「文化」というものを、さまざまな方向から検討して「人類とはなにか」を問う学問である。これを学ぶことは、多様な文化を理解する術を得るばかりではなく、自己の存在意義を問うことにもつながる。

この講義では、前期にまず「文化」とそれを研究する「文化人類学」、また文化の共通性を帯びる「民族」について基礎的な知識を得た上で、コスモロジーとはどのようなものかを学ぶ。この基礎に立って、後期には、コスモロジーの具体的事例として「風水」の文化現象としてのあり方と、それが人類にとってどのような意味を持つのかを学んでいくことにする。

講義の内容・
授業スケジュール

- (前期) 第1部、「文化人類学」の基礎的知識
 (1~3)「文化」と「文化人類学」 (4~5)「民族」とはなにか
 第2部、民族とコスモロジー
 (6~7)「コスモロジー」とはなにか (8~12)さまざまなコスモロジー
 (後期) 第3部、「風水」のコスモロジーとひとびと
 (13~20)風水をつくる要素 (21~24)風水と人間社会

履修上の留意点

学生諸君が授業中の質問に答えたり、レポート提出などで見せる積極的な姿勢、そして社会人予備軍としての常識性を重視する。なお、復習をきちんとしないといけない。

成績評価の方法

出欠状況・期末試験・小テスト・受講態度など、評価につながるものは全て考慮する。

参 考 書 等

- 祖父江孝男『文化人類学入門 (増補改訂版)』(中公新書560) 800円
 国立歴史民俗博物館編『異界談義』(角川書店) 1,400円
 鈴木一馨『陰陽道一呪術と鬼神の世界一』(講談社選書メチエ244) 1,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文化人類学〔社会変化と価値観〕	おがわ としゆき 小 川 順 敬	放選	4

講義のねらい

文化人類学(以下、人類学)とは様々な民族の社会や文化を対象とし、人間のもっている「文化」をトータルに考察しようとする学問です。人類に多様な文化を対象とする人類学の方法の特徴は比較研究にあります。単に文化の違いを明らかにしようとするだけではなく、比較を通してその差異と共通性について考え、文化とは何か、人間とは何かを考えようとしています。

人類学の研究対象領域は広範で、研究方法も多岐にわたります。この講義では「社会変化と価値観」というテーマにそって文化人類学の基本的な考え方、研究方法等を解説にすることにしたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

人類学の調査対象である「異文化社会」とは多くの場合、非西欧世界の伝統社会を意味しています。それらの社会は15、6世紀の大航海時代以降「発見」され、以降はげしい近代化、社会変化・文化変化の波に洗われてきました。人類学は「西欧文化」との接触によって変容しつつある社会を調査し続けてきたのです。伝統的政治組織の変容や解体、近代の科学技術や、新たな経済システムの導入、新しい宗教、新たな価値観が伝統社会にもたらした変化はどのようなものだったのでしょうか。この講義では、人類学が取り上げてきた様々なテーマを、社会変化、文化変容という角度から紹介していきたいと思っています。

成績評価の方法

評価はレポートと年度末の筆記試験により行います。夏期休暇前にレポート課題を出します。成績評価の具体的な方法、年度末試験の方式、レポートの内容、出席等は最初の授業で詳しく説明します。

教 科 書

祖父江孝男『文化人類学入門』(中公新書560番 中央公論社)

参 考 書 等

講義の内容に関連する参考文献は適宜紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文化人類学〔社会変化と価値観〕	うちやまあきこ 内山明子	放選	4

講義のねらい

文化人類学は、研究者が属す世界と正反対の全く異質な世界に属す「他者」、すなわち「未開」に代表される近代文明以外／以前の社会を調査対象とすることで、多様性に富んだ人類の姿を提示したり、全人類に普遍的な特徴を求めたりしてきた学問である。また、そのような「他者」を調べることによって、「他者」の目に映る近代文明の姿を描き批判していく学問としても大きな役割を果たしてきた。実際にはそのような「他者」たちは、私達と同じ近代文明世界の一員として、市場経済に組み込まれ、植民地、そして、その後は国民国家の中で生きてきたのだが、文化人類学はそのことに長いあいだ目をつぶってきたのだった。しかし、1980年代頃からそのような文化人類学に対して、他の学問や、今まで調査対象とされてきた人々の間から厳しい批判の声があがるようになり、文化人類学の側からも学問の基本的な枠組みの見直しが積極的に進められてきた。

本講義では、従来の文化人類学がどのように批判されどう見直されようとしているのかに重点を置くことで、社会変化と価値観をめぐる諸問題を扱っていくことにする。地球規模で人々やモノが移動し、テクノロジーが猛スピードで変化している今日に生きる私達は、それまで当然のこととして受け入れていた諸概念を次々と見直していく必要に迫られている。そのために必要な柔軟なものを見方をしていく切っ掛けとして、文化人類学を学んでくれることを期待している。

成績評価の方法

学期末の筆記試験を成績評価の中心に据えるが、他に夏休みの課題レポート、及び授業で取り上げるビデオに関する感想文提出なども成績評価のさいに考慮していく。

教科書

教科書は指定しない。参考文献を授業中に紹介していく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
文化人類学〔文化と人間〕 —フレックスB開講—	かわかみしんじ 川上新二	放選	4

講義のねらい

文化人類学とは「文化」を通じて人間を研究する学問です。ここでいう「文化」とは、私たちの誰もが身につけている生活様式や慣習をいいます。地球上のさまざまな地域にはさまざまな生活様式をもった人々が暮らしています。それら数多くの生活様式の中には、私たちから見ると「変だな」と感じるものや、私たちと「似ているな」と見えるものがあるかもしれません。ところで「変だな」とか「似ている」と感じるのは私たちの規準から見てのことであり、相手から見れば私たちの生活様式の方が「変だ」と思われるかもしれません。自分の文化を規準にして相手の文化を見せようと、もうそのときから相手を誤解してしまうことが始まります。私たちから見れば「変だ」と見える文化も、それが存在しているのには相応の理由があるかもしれません。文化人類学では、さまざまな文化の客観的理解を通じて相手すなわち人間を理解しようと努めます。文化の異なる相手を正しく理解しようとするための学問ともいえるでしょう。この講義では、前期では文化人類学の特色や方法について紹介し、後期では特に韓国の文化を中心にその他の地域の文化と比較しながら異文化理解の視点を養うことを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

前期(1)文化人類学とは、(2~3)人類学の範囲・形質人類学、考古学、(4~5)言語学、(6~7)人間と動物の違い、(8~9)「文化」とは、(10~11)異文化理解について、(12~13)文化人類学の歴史・方法について。

後期(1)韓国の婚姻規定(誰と結婚できるか)、(2~3)韓国の親族組織(どこまでが近いシンセキか)、(4~6)死後結婚(なぜ死んだ人を結婚させるのか)、(7~9)巫女になる(なぜ霊は憑依するのか)、(10~12)祖先を祀る(なぜ祖先を祀るのか)、(13)まとめ。

成績評価の方法

試験の結果と提出物の内容、授業出席の姿勢などを総合して成績評価を行ないます。

教科書

教科書は特に指定しません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
文化人類学(諸民族とコスモロジー) —フレックスB開講—	すぎ い しゅん いち 杉 井 純 一	放選	4

講義のねらい

さまざまな民族が絶えず各地を移動する現代世界では、私たちは「異質な他者」との出会いを日常的に経験します。こうした多民族社会に生きる私たちは以前にもましてコミュニケーションの困難に直面します。お互いが先入観や偏見にとらわれず、十分な意志疎通を図るためには、相互の民族的、文化的背景への理解が前提となります。

文化人類学は民族や文化の多様性を比較することで、それぞれの文化的相違についての認識を深める学問です。具体的に言えば、人々の生活様式や儀礼、習慣などを通して「人間を取りまく世界、宇宙の成りたちやしくみ」についての多様な観念体系を理解していきます。

本講義では、前期に文化人類学の基礎、後期に民族とコスモロジーを学びます。まず、「異文化を理解する」ことの面白さ、そして、むずかしさを味わいながら、「異質なものとの共存」「他者との共生」の可能性について考えていくことが本講義の目的です。

社
会
分
野

講義の内容・ 授業スケジュール

I 文化人類学の基礎

1. 文化人類学とは何か
2. 文化人類学の歩み (1)
3. 文化人類学の歩み (2)
4. 文化とコミュニケーション
5. 環境と人間 (1) 狩猟採集民
6. 環境と人間 (2) 牧畜民
7. 環境と人間 (3) 農耕民
8. ジェンダー
9. セクシュアリティ
10. 婚姻の形態
11. 家族の多様性
12. 親族と社会

II 民族とコスモロジー

1. 呪術と宗教
2. アニミズム
3. シャーマニズム
4. シンクレティズム
5. 儀礼の構造
6. コスモロジー
7. 神話
8. 政治組織
9. 民族とエスニシティ
10. 民族紛争と戦争
11. 開発と文化
12. 移動の民族誌

履修上の留意点

ビデオを見た感想を問うことがあります。

成績評価の方法

夏期レポート (20%)、期末試験 (60%)、平常点 (20%) で評価します。

教科書

特に指定しません。適宜、プリントを配布します。

参考書等

祖父江孝男『文化人類学入門』(中公新書) 800円
山下晋司ほか『文化人類学キーワード』(有斐閣) 1,700円
佐々木宏幹・村武精一編『宗教人類学』(新曜社) 2,200円

その他

できるだけ、ビデオを利用します (年に4~5回程度)。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法学・憲法〔法と社会生活〕	長谷川 日出世 <small>はせがわ ひでよ</small>	放選	4

講義のねらい

我々は、好むと好まざるとにかかわらず、法と密接なかわりのある生活を強いられている。しかしながら多くの場合、我々はこの事実を知らず、何等かの法的問題が発生した時に初めて、これに気付く。

本講義では、まず、社会生活を営む上で不可欠な、社会規範としての法の生成およびその性質についての分析をおこなう。そして、次に、そこで得られた法概念を基礎に、国家の基本法である憲法と我々のかわりあいを検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、法を学ぶために必要な基礎的知識の習得を目指す。具体的には法と道徳の関係、法と強制、法の体系性、国家と法、実定法上の原則等。

後期は、日本国憲法を具体的に検討する。特に、日本国憲法の基本原理の成り立ち、基本的人権の保障規定等についての検討。

成績評価の方法

定期試験によるものとする。

教 科 書

長谷川日出世著『法の基礎概念と憲法』（成文堂）

参 考 書 等

『ポケット六法』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法学・憲法〔法と社会生活〕	わ 和 ち 知 けい 恵 いち 一	放 選	4

講義のねらい

現代社会は、高密度に人が集合し、高度に発展した複雑な社会を構成している。その構成員である我々は、社会にとって必要不可欠である多くの法によって、取り囲まれている。たとえば、電車やバスに乗ること、コンビニで文具を買うこと、アパートを借りることなど、すべて、法的な側面を持っている。自分は法と無縁であると思っている人は、そのことを知らずにいるだけなのである。講座名は、「法学・憲法」であるが、サブタイトルに（法と社会生活）とあるように、本講義においては、「良き社会人として生活していくために、社会にある『法』とは何であるかの理解をすること、またその『法』を社会生活の上で活かしていく能力を身につけること」を主眼とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義形式で進める。が、講義はどうしても一方通行になりがちなので、授業中に多数の質問を行い、挙手により解答してもらう。つまり、全員が参加する授業を目指す。授業中では、「三茶の駅頭で『うまい儲け話がある』とさそわれ、出資金の手付として1万円を払ってしまった。後で冷静に考えると失敗したと思う。この契約の効力はどうか、どうしたら『手付け金』を返してもらえるか」など、数多くの事例を挙げ、具体的に話を進める。さらに、たとえば「今朝の新聞に、官僚が『収賄罪』で逮捕された記事が掲載されていたが、どんな罪であるのか、また逮捕に際し憲法上の問題があるとあったが、どんな点で、なにが問題なのか」など、より up to date な話題を提供したい。

講義は、おおよそ以下のスケジュールで進める。憲法については、特別にテーマを定めることをせず、関連するテーマが出てきたときに、随時、該当条文に当たり、年間を通してほぼすべての条文に触れられるよう配慮する。

(1) 法学

1. 法学を学ぶにあたって
2. 法とは何か
3. 法の体系と分類
4. 法の目的
5. 法と裁判
6. 裁判の基準（法源）
7. 法の解釈
8. 法と道徳をめぐる問題

(2) 社会生活と法

9. 犯罪と刑罰
10. 財産生活と法（人・物・契約など）
11. 家族生活と法（婚姻・親子・相続など）
12. アクシデントと法（交通事故・医療事故・欠陥商品など）
13. 企業と法（就職と労働契約・会社・手形小切手など）

履修上の留意点

楽しい授業・わかる授業・全員参加型の授業を行う必要からも私語はいっさい認めない。また出席は重視する。原則的に、欠席・遅刻・早退を認めない。教科書・特に六法は毎回準備すること。できるだけ板書したいと思うが、その単なる写し作業で終わらないでほしい。つまり、授業の中で十分考察し、理解することを要求する。したがって単に教場にいるだけでは出席とは認めない。真剣に授業を受けようという意識のある者だけに履修してほしい。

成績評価の方法

出席を重視し、きちんと出席したものに、期末試験の受験資格を与える。その試験の得点に平常点を加味して評価する。

教科書

小林弘人・松村格編著『法学・憲法（新版）』（八千代出版）
塩野宏等編『ポケット六法（平成16年版）』（有斐閣）
※すでに持っている六法があれば、それで構わない。

参考書等

大久保治男監修『トピックスくらしの法』（芦書房）
その他授業の中で、随時紹介する。

その他

最初の講義日に受講票を提出してもらう。特別の事情のない限り、初回から出席のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法学・憲法〔法と社会生活〕	ぬま た まさ ゆき 沼 田 雅 之	放選	4

講義のねらい

法学は難しい学問であるけれども（なぜなら法律用語というのは一見難解であるから）、決して堅苦しいものではありません。なぜなら、社会で起きている問題をどのように評価するかという手段の一つに過ぎないからです。つまり法学的アプローチを身につけるには、社会を見る適切な「目」を育てること、「教養」をたくさん身につける必要があります。この講義では、抽象的で難解な法律用語の解説に終始するのではなく、社会を見渡せる「リアリティ」を大切にしてゆこうと考えています。したがって、公務員受験などに役立たせようと考えているみなさんには物足りないと感じられるかもしれませんが、物事を「考える」ことに重点をおいているみなさんには、いい刺激となるようなものを目指しています。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期
- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. (1)ガイダンス | 2. (2・3)法と法学 |
| 3. (4～6)人権と統治 | 4. (7～9)市民と財産 |
| 5. (10～12)企業と経済 | |
- 後期
- | | |
|-------------------|--------------|
| 6. (13～15)犯罪と刑罰 | 7. (15・16)裁判 |
| 7. (17～19)労働と社会保障 | 8. (20・21)国際 |
| 9. (22～24)法の新しい展開 | |

履修上の留意点

注意点は特にありませんが、感想・要望、また法学を履修する上での疑問点など、みなさんの意見には率直に耳を傾けますので、講義中、講義終了後を問わず、積極的に意見を言っていたいただきたいと思います。

成績評価の方法

基本的には後期試験（筆記）のみで評価します。出席はとりません。なお、向学心のある学生、または後期試験だけでは不安な学生向けに、任意提出のレポート課題を出す場合もあります。この場合、そのレポートの得点は後期試験に加点いたします。

教 科 書

教科書として次のものを指定します。プリント等は配布しません。各自テキストを要してください。野村豊弘編『法学キーワード（第2版）』（有斐閣）1,800円。また、コンパクトなもので結構ですから、最新の六法を用意してください。

そ の 他

水曜日・3時限

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法学・憲法〔法と社会生活〕	はい とく ひろ とう 鶏 徳 啓 登	放選	4

講義のねらい

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学であり、根本的理念、法の目的などを研究する。また、憲法は国家の基本法として他の法令の根幹をなすものであり非常に重要な法である。そして、憲法制定後50年経過した現代に至って国外的、国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。本講義は、これら諸問題を法的に把握し、結論を出し得るようになることをねらいとする。

講義の内容・
授業スケジュール

法学の講義は次の内容を中心として行う。

- (1) 社会生活と法 (2) 法の意義・効力 (3) 法規範と他の社会規範との差異
(4) 法の分類と解釈の方法 (5) 市民法の概論 (6) 刑事法の概論
(7) 法と裁判

憲法の講義は、次の内容を中心として行う。

- (1) 憲法の意義 (2) 憲法の種類 (3) 明治憲法の原則と特質
(4) 現憲法の原則 基本的人権の主体 (5) 基本的人権の分類
(6) 各種基本的人権の内容 (7) 国会の仕組みとその作用 行政機関の仕組みとその作用
(8) 裁判所の仕組みとその作用 (9) 地方自治

成績評価の方法

出席状況と試験による。

教 科 書

小林弘人・松村格編著『法学・憲法』（八千代出版）3,500円

参 考 書 等

『小六法』または『ポケット型小六法』（出版社・定価各種）及び参考書は教場にて説明致します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学・憲法〔法と権利〕	沼田 雅之 <small>ぬま た まさ ゆき</small>	放選	4

講義のねらい

この講義のねらいは、今の社会を「法」という道具を通して見る訓練をおこなうことにあります。ですから、本講義以前に私がみなさんに求める能力は、今の時代の「風」を敏感に感じとることができる能力です。それには「想像力」が大切です。それまでに培ってきた「教養」をフルに活用してもらいたいと思います。

法は、「黒」か「白」かの区別をつける作業であるという側面は否定しがたいですが、社会の高度な発展にともなって、「黒」と「白」の隙間をどのように考えるかがとても大切な作業になっています。ですから、決して単純な学問ではないことは、覚悟しておいてください。

そうはいつでも、決して難解なばかりの学問ではありませんから、気楽な気持ちで受講していただきたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

前期

1. ガイダンス 2～3. 法と法学への道 4. 国家生活と憲法 5. 自由と平等
6. 現代社会の人権 7. 行政と法 8. 犯罪と刑罰 9. 教育と法
10. 契約取引と法 11～12. 予備日

後期

13. 市民生活と不法行為 14. 企業と法 15. 金融取引と法 16. 家族生活と法
17. 労働と法 18. 社会保障と法 19. 私的紛争とその解決 20. 国際社会と法
- 21～24. 予備日

履修上の留意点

注意点は特にありませんが、感想・要望、また法学を履修する上での疑問点など、みなさんの意見には率直に耳を傾けますので、講義中、講義終了後を問わず、積極的に意見を言っていたいただきたいと思います。

成績評価の方法

基本的には後期試験（筆記）のみで評価します。出席はとりません。なお、向学心のある学生、または後期試験だけでは不安な学生向けに、任意提出のレポート課題を出す場合もあります。この場合、そのレポートの得点は後期試験に加点いたします。

教科書

教科書として次のものを指定します。プリント等は配布しません。各自テキストを用意してください。森泉章『法学（第3版）』（有斐閣）2,500円。また、コンパクトなもので結構ですから、最新の六法を用意してください。

その他

水曜日・4時限

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 学 ・ 憲 法〔法と国家〕	さ とう たみ お 佐 藤 多 美 夫	放 選 放 選	4

講義のねらい

私たちは、社会の中で生活しているが、それは現代法の中で活動していることでもある。社会の仕組みや働きは、憲法を中心として刑法・民法・商法・労働法・経済法・行政法などの法によって規律されている。この講義は、政治・裁判・市民生活・経済・文化などの分野における現代法の原理や仕組みを把握しようと思う。私たちは法によって規律されてはいるが、また、法を利用し法を制定・改廃するのも私たちである。この講義が、このような現代法の実態と諸問題を理解するために役立てればと考えている。

講義の内容・ 授業スケジュール

- I 現代法の特徴
 1. 法とは何か
 2. 近代法の原理と展開
 3. 明治憲法から日本国憲法へ
 4. 現代資本主義と法
- II 政治機構と法
 5. 国民主権と政治権力
 6. 民主的統治の機構
 7. 権力分立の原理
 8. 地方自治の保障
 9. 政治からの自由
 10. 政治への参加
 11. 政治機構と政党
 12. 国際政治と国際法
 13. 国際政治と人権
- III 裁判と法
 14. 裁判の機能
 15. 刑事裁判の原則
 16. 民事裁判の原則
 17. 行政訴訟と不服審査
 18. 憲法訴訟の問題
 19. 法と判例
- IV 生活と法
 20. 市民生活と法
 21. 財産法の原則
 22. 個人と法人
 23. 家族法
 24. 夫婦・親子・扶養
 25. 相続と法
 26. 公安条例と集団行動の自由
 27. 検閲と表現の自由
 28. 刑事手続と人権
 29. 生存と人権
 30. 市民法から社会法へ

社
会
分
野

履修上の留意点

ノートを作成することが望ましい。

成績評価の方法

筆記試験と出席の総合評価とする。

教 科 書

開講時に指示します。(欠席しないように)

参 考 書 等

『ポケット六法』(有斐閣)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
法学・憲法〔法と国家〕	新田 浩司	放選	4

講義のねらい

法は社会のルールであり、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものといえる。我々の生活にとって法や憲法を無視することは不可能である。法や憲法を良く知ることは、とりもなおさず我々日本国民がより幸福に生きるために不可欠な作業である。

ここでは、我々が国民として住民として生活する上で必要な法というものの考え方、及び国家の根本法である憲法について、現実が発生する様々な問題にも言及しつつ講義を進める。

講義の内容・授業スケジュール

第1回目	ガイダンス	第9回目	精神的自由権①
第2回目	法学の基礎知識①	第10回目	精神的自由権②
第3回目	法学の基礎知識②	第11回目	経済的自由権
第4回目	法学の基礎知識③	第12回目	社会権
第5回目	憲法の基礎知識	第13回目	参政権、国務請求権
第6回目	日本国憲法の制定過程	第14回目	統治機構①
第7回目	日本国憲法の基本原理	第15回目	統治機構②
第8回目	国家の安全保障（戦争放棄）		

履修上の留意点

社会で起こる様々な問題は、憲法をはじめとする法律問題でもあり、この講義を履修して法的思考を養ってもらいたい。

成績評価の方法

夏期レポート及び学年末試験の成績により評価する。
なお、授業の出席状況も参考とする。

教科書

佐伯宣親・酒井憲郎・高乘正臣編『現代法学と憲法』（成文堂）2,500円＋税
※小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学・憲法〔法と国家〕	おだてるこ 織田晃子	放選	4

講義のねらい

法とは何かに始まり、日本国憲法と人権、法と国家について判例を多く使って講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 法とは何か
 - (1) 法と道徳
 - (2) 法の解釈
- 2 日本国憲法と人権
 - (1) 人権の主体
 - (2) 私法関係と人権
 - (3) 生命・自由および幸福追求権
 - (4) 法の下での平等
 - (5) 精神的自由権
 - (6) 居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由
 - (7) 経済的自由権
 - (8) 社会権
 - (9) 人身の自由・裁判手続の保障
 - (10) 新しい人権
- 3 法と国家
 - (1) 日本における近代憲法の成立
 - (2) 日本国憲法の統治原理
 - (3) 司法権とその限界
 - (4) 平和主義と戦争の放棄

社会分野

履修上の留意点

授業にはポケットサイズのもので十分であるが、六法を忘れないように持参し、講義中に条文がでてきたらそのつど面倒でも指摘された条文を見ること。

成績評価の方法

期末試験の成績による。再試験実施。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

『コンパクト六法』（岩波）
最近の判例を重視するため、プリントの配布が多くなる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学・憲法〔法と権利〕	しげのたかはる 茂野隆晴	放選	4

講義のねらい

年間の授業は、前期においては、「法」というものが、いかなるものであり、いかなる特徴をもつものであるかを、教科書に掲載の事例・判例などの資料を用いて成べく平易な説明をなすことよって進めていきたい。進むにつれて、法を学ぶ面白さが感じられるようになればと思う。

後期においては、主に憲法典の条文に則して、その基礎的な知識を学んでいけるように、やはり平易な授業ということに留意して進める。その際、日々に生起する具体的事件などを取り上げるなどによっても憲法が身近に感じられるようにつとめたい。

さらには、現代社会のなかに未だ色濃く残存する封建法意識であるが、そうした観点から、かつての「家」制度についても触れていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期

4・5月

- 法とは何か
- 法の種類
- 法源
- 法の生成（日本法の歴史）
- 法と裁判の基礎知識
- 国家の基礎知識

6・7月

- 民法と商法の考え方
- 裁判法、刑法、社会法の考え方

後期

9・10月

- 憲法とその原理について
- 基本的人権の保障

11・12月

- 統治機構について
- 年間のまとめと「家」制度について

履修上の留意点

資料ならびに条文に則して行うことの多い授業ですので、テキスト、六法は毎時間必ず持参のこと。また、授業時の私語は厳禁ゆえ、守れない者には、直接、指摘することになる。

成績評価の方法

年間1度の定期試験の評点に出席点を加味し評価する。

教科書

山口嘉三、大久保治男編『法学要説』（芦書房刊）2,800円

参考書等

小型の六法、そのほかは、ばあいにより参考資料を配布する。

その他

授業の方法は講義です。

科目名	担当者名	配当学科	単位
法学・憲法〔法と権利〕 (夏季集中)	ふじもと しげる 藤本 茂	放選	4

講義のねらい

本講義は、法についての基礎的事項の学習や新聞などによる身近な法的問題の解説を通して、以下のことを学んでもらうことを目的としている。

- ・高校までの学習法とは違う、法学の学び方にふれてもらう。
- ・法学や法を学ぶうえで必要な基礎知識を身につけてもらう。
- ・我々と法との関わりを現代の問題を手がかりに学んでもらう。

講義の内容・授業スケジュール

できるだけ具体的な問題・事例にふれながら、法に触れて感じてもらうことにつとめたいと思う。教科書を順次説明するという形式はとらない。もっぱら、プリントを配布するなどして授業を進める。

出席することが重要になる。

- 講義スケジュールについては、
- ・法的思考を形成する基本的な諸概念
 - ・現代法にいたる法の発展（西欧近代法の形成をふくむ）の概観
 - ・近現代法の原理の概観。特に憲法の諸原理
 - ・基本的人権
 - ・現代社会問題に対する法的視角からの検討 などなど

なお、これは予定であり、講義開始時にあらためて伝える。また受講者の反応に応じて、変更することがある。

履修上の留意点

講義中、質問は歓迎。私語はNO、携帯電話はOFF、内職はNO、用なく席を立つのはNOなど、授業でのマナー厳守のこと。

成績評価の方法

記述式試験。また、出席を重視する。レポート等を実施することもある。これらを総合して評価する。

教科書

伊藤正巳・加藤一郎編『新版現代法学入門』（有斐閣双書）。学習の道しるべとして大いに活用してもらいたい。また、講義で言及できない部分を教科書の記述に委ねることがある。そうした場合は口頭、板書で触れなかったことがらでも試験の範囲となりうると考えて欲しい。

参考書等

参考書として、たとえば、道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門』（有斐閣）、渡辺洋三『法とは何か』（岩波新書）。その他授業で、読んでほしい文献を紹介する。

その他

六法は、毎回は使わないが、持参して授業に臨んでほしい。

授業日程

前半						後半					
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
8月2日	月	○	○	○	○	8月20日	金				
8月3日	火	○	○	○	○	8月23日	月				
8月4日	水	○	○	○	○	8月24日	火				
8月5日	木	○	○	○	○	8月25日	水				
8月6日	金	○	○	○	○	8月26日	木				
8月9日	月	○	○	○	○	8月27日	金				

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法学・憲法〔法と権利〕 —フレックスB開講—	はい とく ひろ とう 鶏 徳 啓 登	放選	4

講義のねらい

人間は社会の中で生まれ、他の人と利害を対立しながら社会生活を営むものである以上、そこには相互の利害を調整し、紛争を解決するためのルール（規範）が必要である。「社会あるところ法あり。」（法諺）といわれるのはそれを如実に示すものである。この授業では、法の概論と基礎的な実定法上の権利・義務との二つに分けて、「法」とそこに認められる「権利」を講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 法の概論は次の内容を中心として行う。
 - 法の意義
 - 法発生の背景
 - 法とその近辺の社会規範
 - 法の種別と解釈
 - 法の適用
- 実定法上の権利・義務の講義は次の内容を中心として行う。
 - 民法上の権利－権利の主体と客体、権利能力・行為能力、権利の種類と内容（財産法上の権利、親族法上の権利、相続法上の権利）、権利の発生・消滅。
 - 憲法上の権利－自由権（経済的自由権、精神的自由権、身体的自由権）、平等権、社会権（生存権、教育権、勤労権、労働者の権利）、参政権（選挙権、被選挙権）、受益権（請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権）。
 - 国家・地方公共団体の権利－国家作用と三権分立制の意義・統治機構、立法権と立法機関、行政権と行政機関、司法権と司法機関、地方公共団体の自治権と住民の権利。

成績評価の方法

出席状況と試験。

教 科 書

小林弘人・松村格編著『法学・憲法』（八千代出版）3,500円

参 考 書 等

『小六法』または『ポケット型小六法』（出版社・定価各種類）、その他参考書等については教場にて説明。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法学・憲法〔法と社会生活〕 —フレックスB開講—	は せ が わ ひ で よ 長谷川 日出世	放選	4

講義のねらい

我々は、好むと好まざるとにかかわらず、法と密接なかかわりのある生活を強いられている。しかしながら多くの場合、我々はこの事実を知らず、何等かの法的問題が発生した時に初めて、これに気付く。
本講義では、まず、社会生活を営む上で不可欠な、社会規範としての法の生成およびその性質についての分析をおこなう。そして、次に、そこで得られた法概念を基礎に、国家の基本法である憲法と我々のかかわりあいを検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、法を学ぶために必要な基礎的知識の修得を目指す。具体的には法と道徳の関係、法と強制、法の体系性、国家と法、実定法上の原則等。
後期は、日本国憲法を具体的に検討する。特に日本国憲法の基本原理の成り立ち、基本的人権の保障規定等についての検討。

成績評価の方法

定期試験によるものとする。

教 科 書

長谷川日出世著『法の基礎概念と憲法』（成文堂）

参 考 書 等

『ポケット六法』（有斐閣）

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済学〔現代社会と市場経済〕	はた なか たかし 晶 中 貴	放選	4

講義のねらい

諸々の経済現象をよりよく理解するための理論（ミクロ経済学・マクロ経済学）について概説する。経済についての体系的な理解を得ることがこの講義の目標である。

講義の内容・授業スケジュール

授業は基本的に教科書に沿って行う。スケジュールは以下の通り。
 (前期) (1)ガイダンス (2・3)第1章(自動車産業と経済学) (4・5)第2章(経済学的な考え方) (6・7)第3章(取引と貿易) (8~10)第4章(需要・供給と価格) (11・12)第5章(需要・供給分析の応用) (13)前期末試験
 (後期) (14~16)第6章(時間とリスク) (17~19)第7章(公共部門) (20・21)第8章(マクロ経済学と完全雇用) (22)第9章(経済成長) (23~25)第10章(失業と総需要) (26)第11章(インフレーション)

履修上の留意点

抽象的な理論の内容は、一度説明を聞いただけではなかなか頭に入らない。経済理論を理解し、現実経済を見る目を養うためには、1年を通して、根気よく予習・復習を行いながら、自分の頭でものを考え続けることが肝要である。

成績評価の方法

基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていなければ、単位を与えることはできないので注意すること。追・再試験は実施する。

教科書

ジョゼフ・E・スティグリッツ著、藪下史郎他訳『スティグリッツ 入門経済学』第2版(東洋経済新報社) 3,300円+税

社会分野

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済学〔現代経済と人間〕	さとおか ひろし 瀬戸岡 紘	放選	4

講義のねらい

現代経済のしくみを概観し、現代経済の諸現象を生きた人間の目とのおしてながめてみます。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容として以下を予定していますが、受講者の希望により随時追加・割愛します。
 《前期》経済学をつくった人たちとその理論の概観：◇アダム・スミスと古典学派、◇フリードリッヒ・リストと歴史学派の系譜、◇カール・マルクスとマルクス経済学、◇限界革命をおこした人たちとヴィーン学派、◇アルフレッド・マーシャルとケンブリッジの学風、◇ケインズとケインズ革命、◇近年の主要な経済学派
 《後期》現代経済の基本的なしくみ：◇資本主義経済のしくみ、◇資本主義の前史、◇等価交換のもとで利潤はなぜ生まれるか、◇なぜ違う先進国と後進国の価格差、◇景気循環のメカニズム、◇適度な規制がそれとも自由と規制緩和か、◇いつおこってもおかしくない国際金融恐慌、◇大量生産・大量販売・大量消費・大量廃棄の経済、◇働きすぎの構図、◇人間の目とのおして現代経済をながめる、など

履修上の留意点

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげます。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。

成績評価の方法

年間とおして随時、受講者のみなさんに小論を書いてもらい、それをもって成績評価をします。この平常点重視のたてまえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しない方向です。また、この成績評価のたてまえから、再試験も実施いたしません。

教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定の教科書は使用しません。日々のニュースとみなさんの周囲にあるさまざまな文献の全体が、いわばテキストです。

参考書等

よい文献などの紹介は随時します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経済学〔現代経済理解へのガイド〕	はし 橋 もと 本 ひろ 泰 あき 明	放選	4

講義のねらい

経済学的なものの見方、考え方を修得することを目標とする。より具体的には、前期では、日本経済の現状を念頭におきつつ、一国の国民の所得や労働環境の決まり方を理論的に把握し、後期では、消費者と生産者の経済的行動が、ものの価格の決定にどう作用するのかを理解することを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：日本経済の概観 経済循環 国民所得 消費・貯蓄 国民所得の決定要因の分析 物価
為替変動と国民所得
後期：需要と供給 無差別曲線 所得の制約 需要量の決定 生産曲線 費用曲線 限界費用
曲線 利潤最大化 供給量の決定 市場による価格決定 余剰概念 市場の効率性

履修上の留意点

さまざまな経済政策の背後にある理論の基礎を理解することが目標であるので、かなりの出席率を確保し、しかも授業中に脳細胞を働かせて思考し、論理展開を十分理解することが大切である。いったん考え方をマスターしてしまえば、かなりの応用が利き、試験のための丸暗記は不要になるであろう。

成績評価の方法

前期と後期の二回の筆記テストおよび授業中に課せられる小レポートによる。なお再試験は実施しない。

教 科 書

小野編著『現代経済学の基礎』（学文社）3,000円

科目名	担当者名	配当学科	単位
経済学〔現代経済と人間〕 —フレックスB開講—	みょう せ まさ はる 明 瀬 政 治	放選	4

講義のねらい

本講義は、理論体系を近代経済学に依拠し、私たちがその中で日々生活している現代の市場経済の仕組み・機能をできるかぎり平易に解説し、結果として受講生諸氏の「経済を見る目」を培うことをねらいとしています。

講義の内容・授業スケジュール

受講生にとっては、本講義を単に教養科目の一つとしての経済学と考えている人もいれば、これをさらに本格的な経済学へ向かう導入部と理解している人もいると思います。

講義を進めるにあたり、前者に対しては「教養は身につけてこそ教養」と考えて、単なる「知識」の習得ではなく現実の生活の中で生かせる「知恵」となるよう工夫しています。つまり、テクニカルタームの解説に墮することなく、具象から学問のコアを浮かび上がらせる手法を採っています。

また、この講義は、それ自体、完結した現代経済学への入門を企図していますので、平易な表現の中に押さえるべき主要事項はきっちりと盛り込んでいます。したがって、「経済原論Ⅱ」、「価格理論」、「国民所得論」、「財政政策」のような、経済学部で開講されているもっと上級レベルの科目への橋渡し役を意図しています。

上記の趣旨から、ここではテクニカルタームによるテーマの羅列は致しません。

講義に臨んで、私の信条らしきものを掲げておきます。

- ① 難しいことを、あーそうか、と言わせたい
- ② きょうは「経済学」か、と言わせたい

そして、

- ③ 結構おもしろい（じゃん）、と言わせるぞ

成績評価の方法

成績は、学期末に行う試験を中心に評価しますが、予告有りで業間チェック（クイズ）を行い、平常点として考慮します。

教科書

『クミコの経済学ノート』

参考書等

基本事項を整理しておきたい受講生、もっと本格的に学びたい受講生には、下記の図書を推薦します。

- 幸村千佳良 著『経済学事始』（多賀出版）
 伊藤 元重 著『入門経済学』（日本評論社）
 林 俊彦 著『需要と供給の世界』（日本評論社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
基礎数学（前期）	熊坂 さつき	放1必	2

講義のねらい

放射線の科学・技術は数学ぬきでは考えられない。精密な画像解析も、数学的手法を使えば可能になる。本講義では、ターゲットを「放射線学に応用されている数学の世界」にターゲットを絞って学ぶ。内容は、応用数学（後期）とリンクする。

講義の内容・授業スケジュール

- 微分と偏微分
 - 微分係数、導関数の定義、偏微分係数、偏導関数の定義
 - 有理関数、合成関数、三角関数、指数関数
 - 対数関数の微分と偏微分
 - 媒介変数と微分
 - 高次導関数と高次偏導関数
 - 連続関数と不連続関数
 - テイラーの定理と、テイラー展開 その他
- 積分
 - 不定積分と定積分
 - 部分積分と置換積分
 - 体積と面積
- 三角関数
 - 加法定理、和積・積和の公式等重要な公式の求め方と証明
 - 三角方程式や三角関数の合成 その他

成績評価の方法

試験（1又は2回／年）、レポート

教科書

氏原真代『画像数学入門』（東洋書店）

参考書等

Paul C. Du Chatateau 著 *Ordinary Differential Equations* (Harper Perennial 社)
和達三樹『微分積分』（岩波書店）
数学Ⅲの教科書

自然分野

科目名	担当者名	配当学科	単位
基礎物理学（前期）	佐藤 昌憲・小林 久夫	放1必	2

講義のねらい

物理学序論で学習した程度の内容を基礎とし、近代物理学成立に至るまでの物理学のうち、最も基礎となる力と運動、波動、熱さらに電磁気学を中心として学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- 力学と運動
(速度、加速度、円運動、放物運動、運動量、エネルギー)
- 波動の物理学
(音と光、共鳴、ドブラー効果、干渉と回折、偏光)
- 熱力学
(熱と温度、熱力学の第一法則、第二法則)
- 電磁気学
電界（真空の静電界、導体系による電界、静電界におけるエネルギーと力）
磁界（静磁界、電流による磁界、電流に及ぼす作用と電磁誘導）
- 電磁波
(自由空間における電磁波)

履修上の留意点

この科目は前期での集中授業である。基礎物理学 A では、力学、波動性および熱力学を、基礎物理学 B では、電磁気学と電磁波を中心に講義する。知識の単純記憶ではなく理論に基づいた思考過程を身につけてほしい。

成績評価の方法

基礎物理学 A・B の出席数、小テスト、定期試験により評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
基 礎 化 学	はら だ かず まさ 原 田 和 正	放 1 必	2

講義のねらい

本講義では「放射化学」、「放射線写真学」、「生化学」などを学ぶ上で必要となる化学の基本事項について理解することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 原子・分子・モル
2. 電子配置と周期表
3. 化学結合
4. 化学平衡
5. 酸・塩基、酸化・還元
6. 溶解度と溶解度積
7. 気体の状態方程式
8. 反応速度論
9. 化学熱力学

成績評価の方法

中間試験、定期試験の結果と平常点で評価する。

教 科 書

- A. Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之訳、『化学 基本の考え方を中心に』（東京化学同人）2,850円
- A. Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之訳、『化学 基本の考え方を中心に－問題と解答－』（東京化学同人）1,700円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 命 科 学 (後期)	し <small>みづ</small> よし <small>かず</small> 清 水 善 和	放 1 選	1

講義のねらい

地球上の生物はすべて、約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後の連続と続く進化の過程を経て現在に至った歴史的産物である。体の構造、生理、生態、種の分布などあらゆる面に過去の歴史が反映されている。一方、すべての生物の基本単位となる細胞には生命の根元物質である遺伝子 (DNA) が含まれ、この遺伝子の情報に基づいて体がつくられ、そのコントロールのもとに生命が維持されている。生命活動のどの部分をとっても、遺伝子と無関係なところはないといえる。現代生物学は遺伝子という物質的な拠り所をえて、より厳密で実証的な学問に変わったといえる。そこで、本講義では生物の進化 (縦糸) と遺伝子 (横糸) を二つのキーワードにして、現代生物学 (生命科学) の各分野の基礎的な内容を解説する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1章 生体を作る物質
 - (1) 生元素 (2) 有機物 (3) 生体高分子 (4) 生命活動 (酵素と ATP)
- 第2章 遺伝子
 - (1) 遺伝子の働き (2) タンパク質合成 (3) 突然変異と進化
- 第3章 細胞
 - (1) 細胞のしくみ (2) 生体膜 (3) 共生説
- 第4章 発生
 - (1) 発生と遺伝子 (2) クローンと ES 細胞 (3) 細胞系譜
 - (4) 個体発生と系統発生 (5) ヒトの発育段階
- 第5章 神経と脳
 - (1) ホルモンと神経 (2) 情報伝達のしくみ (3) 脳の構造と働き
 - (4) 脳と神経ホルモン
- 第6章 免疫
 - (1) 抗原と免疫のしくみ (2) 免疫のネットワーク (3) 血液型
- 第7章 性と生殖
 - (1) 遺伝子と染色体 (2) 細胞分裂 (3) 性の決定様式
- 第8章 遺伝
 - (1) メンデルの法則 (2) 遺伝病 (3) 集団遺伝学の基礎
- 第9章 人体
 - (1) 基本構造 (2) ホメオスタシス (3) 進化の痕跡
- 第10章 進化と進化論
 - (1) ダーウィン進化論 (2) ネオ・ダーウィニズム

自然分野

成績評価の方法

出席点 (回数に比例) と試験の点数を合算して評価する。

教科書

特定の教科書はなし。

参考書等

参考書は適宜紹介する。

その他

章ごとに必要な図表をまとめた補助教材のプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情報処理技術（前期）	すぎ 杉 田 とおる 徹	放1選	1

講義のねらい

情報化社会にあつて、コンピュータによる情報処理技術の習得は大変重要と考える。この授業の目的は、パーソナルコンピュータを用いた情報の処理技術を習得することにある。誰もが、文書作成、編集、表計算とグラフ化、プレゼンテーション等にパソコンを自由に使いこなすことができる様、演習形式で授業を進める。

講義の内容・授業スケジュール

各自パソコンを操作して授業を進める。アプリケーションソフトは Win. Office. XP を利用する。授業スケジュールは下記の通りである。
 パソコンの構成（ハードウェアとソフトウェア）
 オペレーティングシステムの概要
 キーボード操作技術（ブラインドタッチの練習）
 インターネットと電子メールの利用
 アプリケーションソフトの活用
 MS ワードの利用（文書作成と編集・管理）
 MS エクセルの利用（表の作成と計算、グラフ化、マクロ技術（VBA の初歩））
 MS パワーポイントの利用

履修上の留意点

情報教育センターでの授業になるので遅刻は厳禁。

成績評価の方法

試験は行わない。授業における提出物、演習成績、出席状況によって評価、単位認定を行う。

教 科 書

入沢寿美、田中仲英、高林茂樹、高橋裕著『インターネット時代の新情報活用』（サンウェイ出版）1,800円

自然分野

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
物理学序論（前期）	さとう まきのり いちもり としひろ 佐藤 昌憲・一守 俊寛	放1選	1

講義のねらい

高校で「物理」を履修していない学生や物理が苦手であった学生を対象とした補習的な科目である。基礎物理学で必要となる物理の基本的な法則や基礎的事項について演習をまじえて理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

1. 力と運動
速度、加速度、運動の法則、エネルギー
2. 波動
波の性質、音波と光波、反射と屈折
3. 電気
電圧と電位、コンデンサ、電流と抵抗、オームの法則
4. 磁気
電流と磁場、電磁誘導、コイル

履修上の留意点

高校で履修しなかった学生を対象としますから、4月と5月の2ヶ月間での集中授業である。物理学序論Aでは、力と波動を、物理学序論Bは、電気と磁気を中心に焦点をしばらく平易に解説する。物理における最低限の知識の修得と苦手意識を克服してほしい。

成績評価の方法

物理学序論A・Bの小テスト、定期試験により評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
化 学 序 論 (前期)	やま もと ゆう すけ 山 本 裕 右	放 1 選	1

講義のねらい

高校で「化学」を履修していない学生、履修していてもきちんと理解できていない学生には、1年次の必修科目である「基礎化学」、「放射線写真学」および2年次の「放射化学」の講義を十分理解できないケースが多く見受けられる。ここでは、高校までの化学の学力が十分身につけていない学生のために、今後必要となる化学の基礎的事項、重要事項について演習をまじえて平易に解説する。

講義の内容・授業スケジュール

以下の内容について演習を行いながら進める。

1. 物質とは
2. 元素と単体、化合物
3. 原子、分子、イオン
4. 電子配置
5. 化学結合
6. 化合物の名前
7. 化学方程式
8. 化学量論
9. 物質の量
10. 濃度の計算

履修上の留意点

高校で化学を履修しなかった学生、履修していても学力が不十分だと自覚している学生、そして化学が苦手な学生、嫌いな学生を対象としています。高校までのただひたすら暗記する化学はここにはありません。不明なこと、理解できないことはどしどし質問してください。理解しようとする努力、知ろうとする意欲をもって臨んでいただければ、きっと新しい化学の世界が開けてくることでしょう。

成績評価の方法

平常の小テスト、定期試験で評価する。

教 科 書

- ・ A. Sherman 他著、石倉洋子 他訳、『化学—基本の考え方を中心に—』（東京化学同人）2,850円＋税
- ・ A. Sherman 他著、石倉洋子 他訳、『化学—基本の考え方を中心に— 問題と解答』（東京化学同人）1,700円＋税

参 考 書 等

- ・ 乾 他著、『改訂 化学—物質の構造、性質および反応—』（化学同人）2,400円＋税
- ・ R. J. Ouellette 著（岩本他訳）『化学その基礎へのアプローチ』（東京化学同人）2,400円＋税
- ・ P. W. Atkins 他著（千原他訳）『物理化学の基礎』（東京化学同人）3,400円＋税

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
科学基礎論（前期）	うじ いえ もり みち 氏 家 盛 通	放1選	1

講義のねらい

将来診療放射線技師として医療に従事する者にとって、これから放射線関連の多くの専門科目を履修しなければならない。そこで放射線や放射能に関連する文献を選び、具体的な事例をもとに講述する。授業は小グループによるゼミ形式で行う。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1)生活環境と放射線
- (2)奥の細道と放射線
- (3)植物と放射線
- (4)食品中の放射性物質
- (5)核実験と放射能
- (6)食生活と人工放射能
- (7)実効線量当量
- (8)線量限度の考え方
- (9)海洋の放射能
- (10)病院での放射線

生活の中の放射線を話題として取り上げて、放射線に関する人・団体・施設・機器・種類や単位などを身近なものにする。

履修上の留意点

講義の内容などで分からないことがあれば気軽に質問をして、診療放射線技術学に親しみを持てるようになること。

成績評価の方法

小論文・学習状況・出席などにより評価する。

教 科 書

授業に使用する資料は、毎回配布する。

自
然
分
野

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
科学基礎論（前期）	くま まか 熊 坂 さつき	放1選	1

講義のねらい

放射線技術者になるために、第1歩をふみ出した人達に、これからの指針の1つの手がかりになるような学習を行う。授業は小グループによるゼミ形式で行う。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・スライドやビデオを用いて医療現場と医者、スタッフの役割について学ぶ。
- ・スライドやビデオを用いて、研究者とは何かについて学ぶ。
- ・X線写真を用いて、それをトレースし、X線解剖学について学ぶ。

成績評価の方法

レポート

教 科 書

使用しない
プリントを配布する

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
科学基礎論（前期）	<small>すぎ</small> 杉 <small>た</small> 田 <small>とおる</small> 徹	放1選	1

講義のねらい

放射線科の学生諸君には、将来、医療界における正確な生体情報提供者としての役割が課せられている。その問題意識にたつて情報についての基礎を学ぶことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

半期のゼミ形式で進める授業である。基礎情報学を中心に、視聴覚教材を利用して授業を進める。キーワードは情報の定義、発生、伝達、情報の価値、創造的情報活動。

履修上の留意点

問題意識とやる気のある学生の受講を望む。

成績評価の方法

試験は行わない。レポートと平常点によって評価、単位認定を行う。

教 科 書

教科書は使用しない。資料は毎回配布する。

自然分野

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
科学基礎論（前期）	<small>たか</small> 高 <small>の</small> 野 <small>まさ</small> 正 <small>お</small> 雄	放1選	1

講義のねらい

新入生諸君はこれまで、受身に知識を勉強し蓄積してきた。これからも、さらに高度な知識を学び、放射線技師の道へと進んで行くことになるが、できることならば、身につけた知識を生かして創造力を発揮できる放射線技師に育ってほしい。本講では、身近な課題についてその解決策を討論し、「創造性とは何か？」について学習をする。

講義の内容・授業スケジュール

事前にテーマを出し、それに関する自分の考えをまとめ、発表／討論を行う。

履修上の留意点

正しいか、正しくないかは気にせずに、自分なりの考え方を主張し討論すること。

成績評価の方法

毎時のアクティビティー。

教 科 書

プリント配布。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
科学基礎論（前期）	やまもと ゆうすけ 山本 裕 右	放1選	1

講義のねらい

自然科学においては物事をどのように捉え、解釈し、理解するのか。また未知の事柄に対してどのように取り組むのか。これらの一端を覗くことをしてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

原子および放射線、放射能、原子力についての基礎的事項をいくつか限定して取り上げ、少し深くまで探ることをする。具体的には以下のようなテーマを取り上げ、ゼミ形式で進める。また、パソコンを使つての数値計算も随所で行う。

- ・原子とは
- ・原子の中の電子
- ・安定同位体と放射性同位体
- ・放射能とは
- ・放射線とは
- ・エネルギー問題と原子力

履修上の留意点

ただ座っていたのでは何も与えられません。自ら積極的に調べ、発表し、疑問な点は遠慮なく質問してください。そして、自分にとって未知の物事がはっきり見え出したときの喜びを味わってください。

成績評価の方法

平常点

教科書

その都度プリントを配布する

参考書等

授業時間中に指示する

科目名	担当者名	配当学科	単 位
科学基礎論（前期）	よし かわ こうき 吉川 宏 起	放1選	1

講義のねらい

1. 科学的思考の基礎を身につける。2. 生活習慣病を中心としたヒトの疾病（疾患）の原因とその治療法を通じてエビデンスに基づいた医療の成り立ちを学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

1. 科学論文の引用の仕方、読み方、書き方の基礎的事項について概説する。2. 糖尿病や虚血性心疾患、脳血管障害などの生活習慣病の成り立ちとその予防法や治療法を通じて、医療におけるエビデンスの重要性について概説する。

履修上の留意点

科学論文の重要性と医療におけるエビデンスを導く臨床研究法を理解する。

成績評価の方法

定期の筆記試験。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合Ⅲ(1)〔人権と社会問題〕	ピアス, D. M.	放選	4

講義のねらい

This being the most advanced English course available, its first intention is to prepare for studying abroad. Students will get a partial experience of what it is like to take a university - level course in a foreign country, and thereby have more success from studying abroad. Students will not study English; they will study something *in* English. Lectures, compositions, and conversation practice will concentrate on international social problems such as human rights, war, feminism, poverty, suicide, sex, racism, euthanasia, abortion, ecology, etc. Alternatively, programs in the history of economic and political thought, and in American sociology, may be used as lecture material.

講義の内容・授業スケジュール

Elementary level English conversation will not be taught, but there will be intensive practice every period in spoken English on, quotidian, opinion exchange, and intellectual levels. Emphasis is placed on learning to converse *intelligently*, that is, to communicate thought in spoken language. Time will be devoted to English composition and to listening comprehension practice.

The format of the course is not based fundamentally upon the lecture series; during most of the class time students will be actively producing, in writing and speaking.

履修上の留意点

ATTENDANCE: Attendance and active participation are most important; only practice improves English. Please attend all of the classes. The student may miss six classes in the year and still pass; if the student misses five classes, the final grade will be one letter - grade less than what the student would otherwise have received.

EXAMINATIONS: Apart from the two final - semester examinations, there will be frequent small exams. Such exams are not intended to apply pressure; an examination is an excellent method of learning. All exam questions will be questions that we have done together in class, which are printed in the textbook.

成績評価の方法

GRADING: Your final grade is the quality of the employment that you can find after university graduation. Never forget that English ability is extremely important when you are looking for a job; you will get better employment if you improve your English this year. This is an extremely important point; you are taking a high - quality English course to get better employment in the future, not just to get a university grade!

GRADING, AGAIN: Your final grade depends 70% on your class performance, in every class. I will keep a record of your participation in every single class meeting. This is a course for intellectual English conversation; one can improve speaking ability, similarly to playing piano, only by constant practice. This is true no matter how advanced the student may be. Therefore, attendance is extremely important, and the examinations have minor effect on the final grade. Finally! Everyone in the class is equally able to get an "A" in the class, because the final grade does not depend on the final examination. Even if a student cannot speak English at all, he/she has as much a chance as the other students to get an "A", because his final grade depends on his effort and his improvement in comparison to his initial ability.

教 科 書

Textbook and materials: We will probably use *Social Practices*, Themis Research Group as our textbook. In the first class meeting we will have a diagnostic test to determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. Also recommended is an English - Japanese dictionary or an electronic dictionary. There will be some effort to absorb the vocabulary of written English that you probably do not know.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合Ⅲ(2)〔欧米の教育と日本の教育〕	おが ぎき としちろう 岡 崎 寿一郎	放選	4

講義のねらい

日本の大学は、1949年の改革で、アメリカの一般教育の理念を採用し、人文・社会・自然科学・体育・外国語のコースを専門課程の前に課してきました。それが、新カリキュラムによって改変されました。しかし、アメリカの大学がいかなる変革を経て今日にいたったのか。また、その現状がどのようなものであるのかは、知られていないとおもわれます。大学数は、現在、アメリカでは、約3,000校、日本は、約1,000校（短大・四年制大学）です。ヨーロッパでは、まだ、日本の戦前における数（旧大学令・47校）とほぼ同数です。進学率も10%前後です。また、大学入試制度については、例えば、「各大学単位で独自の入学試験が行われている国は、OECD加盟国の中では日本とユーゴスラヴィアの二国だけであり、また選抜試験のみで大学生を入学させているのは、日本以外はポルトガルとトルコの二国のみである」（西尾幹二『ヨーロッパ像の転換』）とあります。欧米では、大学入学資格認定制度が採用されています。（例、イギリスの「A」レベル、ドイツのアビトゥア、フランスのパカロレア、アメリカのSAT等）講義では、文化相対論（異なる文化の風俗・習慣についての批判・評価と同時に、その風土・歴史的背景を十分に考慮する）の観点から、自国の教育（制度）を絶対視する価値観の単一化を避けつつ、国際化の時代に即応したグローバルな教育観の展望について論究します。

成績評価の方法

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、講義内容に別したプリントを配布します。成績評価については、平常評価としての出席（50%）、前期試験に代わる夏季レポート（25%）、後期試験（25%）による総合評価とします。

参考書等

参考書・文献については適宜言及します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合Ⅲ(3)〔中国語圏文化の諸相〕	いわ さき ひろし 岩 崎 皇	放選	4

講義のねらい

同じ漢字文化圏の国として、中国の、漢字に関する言語政策を紹介します。

講義の内容・授業スケジュール

文字改革と80年以降の情報化社会に対応する政策を中心に解説します。

成績評価の方法

出席及び授業態度で判断します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合Ⅳ(1)〔現代アメリカ事情〕	はやし あき と 林 明 人	放選	4

講義の内容・授業スケジュール

現代のアメリカが抱えているさまざまな問題を、具体的なキーワード（abortion, affirmative action, euthanasia, Brady Bill等）を説明しながら紹介します。なぜその問題が起こったのか、そしてそれがどのように発展し、現在どうなっているのかを見てゆきます。知っているようで知らないアメリカの諸相が見えてきます。

成績評価の方法

前・後期のレポート、出席の総合評価。

教科書

プリントを配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総 合 IV (2) 〔米国シアトルNPOの経営研究〕	にしむらゆうこ 西村祐子	放選	4

講義のねらい

アメリカのNPO, NGO(非営利組織)は日本に比べ、非常にアクティブであるといわれるが、なかでもまちづくり(コミュニティビルディング)において市民と自治体の協同がとりわけて盛んでユニークな発展を続けているワシントン州、シアトル市の事例をとりあげてみる。さらに日本におけるまちづくりのありかたとの比較を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は通年で以下のようなテーマを中心におこなわれる。

アメリカの非営利組織と日本の非営利組織との違い
 コミュニティ・ビルディングとまちづくり
 シアトルのまちづくり
 シアトル・アジア系住民のまちづくり
 自治体とNPOの協同について
 日本のまちづくりとシアトル

成績評価の方法

平常点(出席率、レポート内容)重視。

教 科 書

教場にて指定。

参 考 書 等

教場にて指定。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合Ⅳ(3)[ポスト・モダンの世界]	まるこてつお 丸 小 哲 雄	放 選	4

講義のねらい

本講義の狙いは、受講生の既存概念に対して挑発することで、既視感に対して違和感を抱くように講義します。それを念頭において、近代化の啓蒙思想を批判し、それを乗り越えるための主体性としての自己組織の確立を目指すことにあります。ポストモダン概念を整理し、そのような学際的な知の最前線として、固有なものに出会うための批判の方法によって権力の座(特権化された場所)を移動・転倒させつつ、歴史的過渡期の思想的表現としての近現代史の思想を批判すること(帝国主義と植民地化に対する批判)にあります。そのために「大きな物語」の終息後に、どのようにして世界を再構築していくかが現代的な問題となります。

本講義においては、基本的に、近代の思想を担った思想家たちをモデルにして、その論理的枠組み、哲学・宗教の思想的な特徴、経済・政治におけるメカニズムと思想的な特徴などのさまざまなキーワードを手がかりにして、近代思想の根拠を跡づけて、ポストモダンの現象と批判的立場を明確化していきます。前期では、近代建築史、広告批評史、エロスの解放問題、ファッション・モードの変遷、映画の変遷過程の特徴、文学と文学理論の特徴、近代を乗り越える根拠を原理的に見出すように講義していきます。従って、受講生がどのようにして主体性を形成するかが受講生の課題となります。

講義の内容・授業スケジュール

講義に際して、関連文献リストを配布し、事前に読むテキストを指示します。また、クラス外では文庫本・新書版を読んで、前期と後期にレポートを作成します。講義の骨子は以下の通りです。

1. 「モダン」の定義とポストモダンの特質について
2. 近代言語観の変遷について
3. 現代という時代の捉え方：「今ここ」における自己言及のパラドックスについて
4. 近代における人間観、宇宙観、社会観の変遷について
5. 西洋の理性批判(啓蒙思想批判)について
 - 1) ソクラテス、デカルト、ヘーゲルとマルクス、ショーペンハウエル、
 - 2) ニーチェとハイデガー 3) マック・ヴェーバー 4) ミュシエル・フーコー
6. トランスモダン
横断的近代：アメリカン・イデオロギーとグローバリズムに対するナショナル意識とリージョナル意識との対抗性について
7. レビュー：冷戦後における自己組織と反省の人間の特質について

成績評価の方法

出席、前期・後期の読書レポート(リストから選択)、ターム・ペーパー作成などの総合評価。

教科書

- ・読書リスト配布
- ・プリント配布

参考書等

リーディング・リスト配布

総合分野

3. 外 国 語 科 目

外国語科目

3 . 外国語科目

《必修・選択必修科目》

〔英 語〕

英語	I	A	〈前期：町田尚子、後期：澤田真弓〉	81	
英語	I	A	〈桧山 晋〉	81	
英語	I	B	〈桧山 晋〉	82	
英語	I	B	〈前期：町田尚子、後期：照山雄彦〉	82	
英語	II	A	〈吉川直澄〉	83	
英語	II	A	〈西田義和〉	83	
英会話		I	〈ウェルズ, J. K.〉	84	
英会話		I	〈ソルタ, P. N. F.〉	85	
英会話		I	〈ジトウィッツ, P. D.〉	86	
英会話		I	〈ピアス, D. M.〉	86	
英会話		I	〈プラスキー, J. C.〉	87	
英会話		I	〈ラーズ, R.〉	87	
英会話		I	〈レイン, R. V.〉	88	
英語	L	L	I	〈甲斐捷子〉	89
英語	L	L	I	〈加藤佐和子〉	90
英語	L	L	I	〈久保ひさ子〉	90
英語	L	L	I	〈中林正身〉	91
英語	L	L	I	〈西村祐子〉	91
英語	L	L	I	〈埴美智子〉	92
英語	L	L	I	〈ヘラー, P. S.〉	92

《選択科目》

ドイツ語	I A	(選)	〈五十嵐 信子〉	93	
ドイツ語	I B	(選)	〈野島 利彰〉	93	
英会話		II	〈ジトウィッツ, P. D.〉	94	
英会話		II	〈プラスキー, J. C.〉	94	
英会話	II	—夏季集中—	〈ピアス, D. M.〉	95	
英語	L	L	II	〈太田 雅子〉	96
英語	L	L	II	〈外池 一子〉	96
英語	L	L	II	〈西村 祐子〉	97

《再履修クラス》

英語 I A	〔再クラス〕	〈西村 祐子〉	98
英語 I A	〔再クラス〕	〈岩井 洋美〉	98
英語 I A	〔再クラス〕	〈林 孝 憲〉	98
英語 I A	〔再クラス〕	〈牧野 輝 良〉	99
英語 I A	〔再クラス〕	〈朝川 真 紀〉	99
英語 I A	〔再クラス〕	〈佐藤 アヤ子〉	99
英語 I A	〔再クラス〕	〈吉江 正 雄〉	100
英語 I A	〔再クラス〕	〈埴美智子〉	100
英語 I A	〔再クラス〕	〈塚本 利 男〉	101
英語 I A	〔再クラス〕	〈川 島 弘 之〉	101

英語 I A	[再クラス]	〈尾 上 典 子〉	102
英語 I A	[再クラス]	〈外 池 一 子〉	102
英語 I A	[再クラス]	〈高 柳 文 江〉	102
英語 I A	[再クラス]	〈熊 沢 和 明〉	103
英語 I A	[再クラス]	〈岩 原 康 夫〉	103
英語 I A	[再クラス]	〈西 原 克 政〉	103
英語 I B	[再クラス]	〈手 島 敬 子〉	104
英語 I B	[再クラス]	〈林 孝 憲〉	104
英語 I B	[再クラス]	〈木 村 克 彦〉	104
英語 I B	[再クラス]	〈武 藤 久 緒〉	105
英語 I B	[再クラス]	〈江 田 幸 子〉	105
英語 I B	[再クラス]	〈甲 斐 捷 子〉	106
英語 I B	[再クラス]	〈石 原 孝 哉〉	106
英語 I B	[再クラス]	〈真 砂 久 晃〉	106
英語 I B	[再クラス]	〈高 柳 文 江〉	107
英語 I B	[再クラス]	〈熊 沢 和 明〉	107
英語 I B	[再クラス]	〈町 田 成 男〉	107
英語 I B	[再クラス]	〈飯 沼 好 永〉	108

《必修・選択必修科目》

英 語 I A

〈英語 I A の授業内容と履修上の留意点〉

英語による意思伝達 (Writing and/or Speaking) : 入学時の英語を基礎として、英語の運用能力をのばします。

演習科目なので、全授業日数の3分の2以上の出席が必要です。レポート、小テスト、プレゼンテーションなどの課題を重視します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I A	前期: 町田 尚子 後期: 澤田 真弓	放1必	2

講義のねらい

現代科学の興味深い情報を英語で理解し、表現する基礎力をつけるとともに、TOEIC形式のリスニング力を培います。

講義の内容・授業スケジュール

下記テキストに沿って、章ごとに基本用語の聞き取りと内容理解の課題テストをします。テキスト終了後は科学の諸問題に関する電子新聞掲載の記事などを読みます。

履修上の留意点

授業は演習形式なので担当して発表する積極的な参加姿勢を高く評価します。プリント教材は前もって授業時に渡します。予習と問題意識が授業に臨む前提です。

成績評価の方法

平常授業での発表と毎回の小テストを重視し、前期(中間)・後期(定期)の試験結果と同等の扱いで評価点を出します。

教科書

松野守峰、他(編著)『Cutting Edge in Science』金星堂 1,900円
ISBN4-7647-3768-X C1082

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I A	ひ やま すすむ 桧 山 晋	放1必	2

講義のねらい

英語での受信・発信の基礎力習得を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 基礎を固める。(後期) 応用力を伸ばす。

履修上の留意点

授業中何度も発信を求める。欠席・遅刻回数等の問合せには一切応じないので自己管理すること。携帯を授業中に鳴らした者は退室してもらい欠席扱いとする。毎回小テストを行い、小テスト解答終了時以降の入室は欠席扱い。

成績評価の方法

小テスト、出席、授業参加、発表等の平常評価50%、前期・後期試験50%。全授業日数の3分の1以上を欠席した者は自動的に「不可」。

教科書

第一回目の授業で指示。

英 語 I B

〈英語 I B の授業内容と履修上の留意点〉

Reading and Listening Comprehension (Reading and Listening) : 入学時の英語を基礎として、より高度な構文の理解と speed reading の基礎を身に付けます。

演習科目なので、全授業日数の3分の2以上の出席が必要です。レポート、小テスト、プレゼンテーションなどの課題を重視します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B	ひ やま すずむ 椛 山 晋	放 1 必	2

講義のねらい

英語での受信・発信の基礎力習得を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 基礎を固める。(後期) 応用力を伸ばす。

履修上の留意点

授業中何度も発言を求める。欠席・遅刻回数等の問合わせには一切応じないので自己管理すること。携帯を授業中に鳴らした者は退室してもらい欠席扱いとする。毎回小テストを行い、小テスト解答終了時以降の入室は欠席扱い。

成績評価の方法

小テスト、授業参加、発表等の平常評価50%+前期・後期試験50%。全授業日数の3分の1以上を欠席した者は自動的に「不可」。

教科書

第一回目の授業で指示。

外国語科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B	前期：町田 尚子 後期：照山 雄彦	放 1 必	2

講義のねらい

前期：現代科学の興味深い情報を英語で理解する力を培います。
後期：やや平易な英文を精読しながら英語力を養うことを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

前期：科学の謎や諸問題に関する記事を読み、基本用語と内容理解の小テストをします。

履修上の留意点

授業は演習形式なので担当して発表する積極的な参加姿勢を高く評価します。プリント教材は前もって授業時に渡します。予習と問題意識が授業に臨む前提です。

成績評価の方法

平常授業での発表と毎回行なう小テストと定期試験の結果を総合して出します。

教科書

前期：プリントを毎回渡します。
後期：教場で指示します。

参考書等

その都度、必要に応じて紹介します。

英 語 II A

〈英語 II A の授業内容と履修上の留意点〉

英語による意思伝達 (Writing and/or Speaking) : I A を基礎として、より高度な英語の運用能力を身に付けます。

演習科目なので、全授業日数の3分の2以上の出席が必要です。レポート、小テスト、プレゼンテーションなどの課題を重視します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 II A	吉 川 直 澄 <small>きつ がわ なお ずみ</small>	放 2 必	2

講義のねらい

英語 I A を基礎として、より高度な英語運用能力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

日常的な基本表現を復習しつつ、英語での自己表現を拡大させる。前期は、主に音声を通じて、目から覚えられていた英語表現が“運用可能”となっているかどうか確認してゆく。後期は、前期の目標を継承しつつ、可能な限りプレゼンテーションを学生諸君にしてもらう。

履修上の留意点

とにかく繰り返し練習すること。付属のCDは聞くだけではなく、声を出して練習するためにある。練習する場合には、英語のリズムとイントネーションを極力“模倣”するように心掛けること。

成績評価の方法

3分の2以上の出席、授業内提出物、プレゼンテーション、前期試験もしくは夏休みレポート、後期末試験を総合して評価する。なお、欠席と遅刻の回数についての問い合わせには一切応じない。

教 科 書

『スコアアップをめざす語い中心の TOEIC 総合講座：基礎編』（松柏社）1,700円
ISBN 4-88198-533-7

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 II A	西 田 義 和 <small>にし だ よし かず</small>	放 2 必	2

講義のねらい

英語学習の基本的な方法は、英文を正しく読み、訳し、内容を理解することである。この授業ではこうした観点から全部（前期・後期）で18章からなっている英語の構造を用いて英文和訳、和文英訳等を行うことにより学習の徹底をはかる。

講義の内容・授業スケジュール

前期・後期を通じて毎時間多くの学生にやってもらい、その後説明を補足し、また予習の結果生じた疑問に答えていきたい。

履修上の留意点

予習や復習は必ずして下さい。また、辞書は必ず持参すること。

成績評価の方法

出席状況、授業態度、発表の内容、テスト等を総合して評価を行う。なお、単位取得は、三分の二以上の出席を前提とする。

教 科 書

四月の開講時に指示する。

英 会 話 I

〈英会話 I の授業内容と履修上の留意点〉

基本的な日常表現ができることを目指した大学初級レベルの英語会話の授業です。達成目標の目安は英検2級合格、TOEFL®のスコア450点、TOEIC®のスコア500点程度。I A の振り替え選択科目です。各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選び、事前登録をしなければなりません。

1クラスの受講人数に制限があるので、希望通りに選択できない場合もあります。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	ウェルズ, J. K.	放1年	2

講義のねらい

WELCOME TO ENGLISH CONVERSATION I !!
Come to my class and learn to speak English by question and answer in pairwork. Learn proper pronunciation and challenge yourself. The 1st semester will be question and answer, while the 2nd semester will be role playing activities.

成績評価の方法

However, attendance is very important ! Small tests and quizzes will also be given.
LET'S HAVE FUN

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	ソルタ, P.N.F.	放1年	2

講義のねらい

English Conversation I was designed for typical Japanese high school graduates who have studied English for six years at junior and senior high school, but have great difficulty in speaking and understanding spoken English. The course helps students overcome their natural shyness at speaking in a foreign language, and gives them many opportunities to practice, in a meaningful context, communicating in natural spoken English. This enables students to build up their speaking and listening skills, and improve their ability to understand and use real English for real communication. Finally, this course seeks to increase the number of situations in which students can function using real - world English.

講義の内容・
授業スケジュール

A textbook with 15 units and the instructor's worksheets will be used as sources of classroom material. The course is based on the principle that the only way to become fluent in a language is through lots of practice. The emphasis in this class, therefore, will be firmly on speaking and listening exercises. Students will do most of their exercises with one other student (this is called pairwork) to give everyone the maximum number of opportunities for speaking and listening practice.

履修上の留意点

It will be assumed that students taking this course have studied English language at high school level for six years. Students must be willing to take a class where the instructor will speak only English. Students should note that only two absences per semester are permitted in this course. Constant attendance, and a positive attitude towards and active participation in all class activities, will be essential for a passing grade in English Conversation I.

成績評価の方法

A final grade will be based on three measures: a mid-year exam (30%), an end-of-year exam (30%), and a mark based on attendance, attitude in class and class performance throughout the year (40%). The nature of the exams may vary depending upon the class size. An interview-style exam will be given if the number of students is small. Otherwise, listening and written exercises will be used.

教 科 書

Communicate : book 1a / David Paul / Macmillan Language House, ¥1,230, ISBN0-435-26119-3.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	ジトウィッツ, P. D.	放 1 年	2

講義のねらい

To help students English in a variety of social usel and business situations. To increase students' working vocabulary and to improve pronunciation.

講義の内容・授業スケジュール

Students will intensively practice English through intensive pair work and assigned dialogues.

成績評価の方法

Students are expected to attend at least 80% of all classes and to positively participate in classes.

教 科 書

Teamwork by Richard Carrington, Macmillian Language House, 1994.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	ピアス, D. M.	放 1 年	2

講義のねらい

Please join this class together with your friends! During most of the class period you will be talking to each other in groups. You will not be learning any more English: all you have to do is to start using what you already know. By the end of the course you should be able to speak enough English to travel in foreign countries, talk with foreigners, and communicate about all the usual things in everyday life. Our textbook will guide you through everything. You will learn all the conversation patterns for everyday situations such as buying things, getting information, making reservations. The course also aims at helping you to find good employment in the future, and so we will concentrate on TOEFL®, EIKEN, and TOEIC®. There will also be a lot of intensive practice in English composition, which you can practice together in groups. It's a lot of fun!

履修上の留意点

Attendance and active participation are most important, because improvement in English speaking depends on the amount of practice. Please attend all of the classes. The student may miss six classes in the year and still pass; if the student misses five classes, the final grade will be one letter-grade less than what the student would otherwise have received.

Apart from the two final-semester examinations, there will be frequent small exams. Such exams are not intended to apply pressure; an examination is an excellent method of learning. All exam questions will be questions that we have done together in class, which are printed in the textbook.

成績評価の方法

Your final grade is how good your employment will be after university graduation. Never forget that English ability is extremely important when you are looking for employment; you will be able to get better employment if you improve your English this year. You are taking a high-quality English course to get better employment in the future, not just to get a university grade!

Your final grade depends 70% on your class performance, in every class. I will keep a record of your participation in every single class meeting. This is a course for English conversation; one can improve speaking ability, similarly to playing the piano, only by constant practice. This is true no matter how advanced the student may be. Therefore, attendance is extremely important, and the examinations have minor effect on the final grade. Finally! Everyone in the class is equally able to get an "A" in the class, because the final grade does not depend on the final examination. Even if a student cannot speak English at all, he/she has as much a chance as the other students to get an "A" because his final grade depends on his effort and his improvement in comparison to his initial ability.

教 科 書

We will probably use *American Sociology*, Themis Research Group as our textbook. In the first class meeting we will have a diagnostic test to determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. Also recommended is an English-Japanese dictionary or a battery-powered dictionary. There will be some effort to absorb the vocabulary of written English that you probably do not know.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	プラスキー, J. C.	放1年	2

講義のねらい

The goal of this course is for students to begin to express themselves at a basic level of proficiency about themselves and other topics about which they are familiar.

講義の内容・授業スケジュール

This class will primarily consist of student discussions. Topics will focus on the students, school, family and friends. These activities will be supplemented with grammar, pronunciation, intonation, stress and rhythm exercises as well as listening practice.

履修上の留意点

Students will be required to complete homework assignments before each class.

成績評価の方法

Students will be evaluated on the basis of class participation (50%), homework (30%) and a final oral test (20%) given during the last class meeting.

教科書

None.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	ラージ, R.	放1年	2

講義のねらい

The goal of this class is to give students simple fluency and confidence in English conversation by developing listening skills, asking questions and communicating information about themselves, their families, interests, homes and neighborhoods. Special attention is given to pronunciation. Students are given basic exposure to the differences in English spoken in the U. S. and U. K.

講義の内容・授業スケジュール

Vocabulary building and conversations in Present Simple and Present Continuous tense (some introductory use of future and past tense) about the following subjects: Personal information and meeting people; home and classroom objects, places around town and everyday activities; nationalities, professions and describing people and things; describing the weather; talking about family members, activities and events; asking directions, describing locations, describing and asking questions about neighborhoods and apartments; clothes, colors, going shopping; likes and dislikes, feelings; numbers; speaking about days of the week, months, years.

The class meets once a week for 90 minutes. After roll call, students follow modeled exercises in the text. Additional vocabulary is introduced and practiced. Once the model is established, pair-work, group-work and conversations around and beyond the model are practiced. To enhance listening skills "conversations on tape" are played. Students listen and answer relevant questions. Homework consists of memorizing the new vocabulary and models, and completing grammar exercises in the Workbook. Extra materials including vocabulary, grammar exercises and conversation games are used in addition to the text.

履修上の留意点

Students must be punctual. They must bring their Textbooks and Workbooks for every class. They should be ready for unannounced quizzes and tests.

成績評価の方法

There is no final exam. Students will be marked for (i) Speeches (on predetermined topics) and answering questions on the speech (ii) 3 or 4 written tests over the year (iii) effort and class participation (hard work and improvement over the year). Students absent for more than 2/3 of the year will fail the course.

教科書

I) *Side by Side* (Third Edition) Book 2 *Student's book* by Steven J. Molinsky & Bill Bliss. Published by Pearson Longman. ISBN # 0-13-183935-7
 II) *Side by Side* (Third Edition) Book 2 *Activity Workbook* by Steven J. Molinsky & Bill Bliss. Published by Pearson Longman. ISBN # 0-13-026750-3

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 I	レイン, R.V.	放1年	2

講義のねらい

This course will help the student to : 1) use conversational English language patterns and idioms with increased confidence, and 2) improve their presentation-skills.

講義の内容・
授業スケジュール

The first half of the class is devoted to textbook speaking activities (done in pairs) to provide the student with opportunities to use a variety of language patterns and verb tenses. The second half of the class is devoted to students giving presentations in both small groups and in front of the class. Students are expected to participate actively in class and practice the activities at home.

履修上の留意点

Students should be aware that attendance is important. If the student is absent for 1/3 of the scheduled classes (approximately eight times), the student will fail the class.

成績評価の方法

Students will be tested orally on the textbook activities twice a month and will be given a grade for both group and class presentations.

教 科 書

Steven Molinsky and Bill Bliss, *Side by Side, 3rd Edition, LEVEL 3* (Pearson Education) 2001

英 語 L L I

〈英語 LL I の授業内容と履修上の留意点〉

ランゲジ・ラボラトリ（1号館3・4階PC教場）を使用し、発音、アクセント、イントネーションなどの口頭練習とデジタル化されたテープ教材またはビデオ教材を用いて、日常会話などのヒアリングとスピーキングを訓練します。英検2級合格、TOEFL®のスコア450点、TOEIC®のスコア500点程度を達成目標とする初級レベルです。I Aの振り替え選択科目なので、各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選び、事前登録をしなければなりません。1クラスの定員が30名ですから、希望通りに選択できない場合もあります。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 L L I	か い かつ こ 甲 斐 捷 子	放1年	2

講義の内容・ 授業スケジュール

テキストは日本人の留学生がアメリカの家庭、教育現場を通して、アメリカ社会に馴染んでゆく過程を写したビデオ教材です。様々な意思伝達の現場をビデオで見ながら、コミュニケーションのための英語運用能力を高めることを目的とします。徹底的に「聞き」、「話す」、授業の中で、基本的な発音の矯正も身につくまで、しっかり行います。
「旅行編」、「留学編」、全20課を前後期で終了する予定です。

履修上の留意点

授業としては週一回ですが、演習科目の成否は学習量で決まりますから、少なくとも週2回はLL自習室で復習して下さい。また一単元終了時には小テストを行います。

成績評価の方法

一応の目安として、平常評価としての出席10%、前期試験30%、後期試験30%、小テスト30%による総合評価とします。総合点が基準に達しなかった場合、欠席が三分の一を超えた場合、および前後期試験のいずれかを欠試した場合は不合格となりますから、特に欠席をしないよう、十分注意して下さい。

教 科 書

Viva! San Francisco（マクミラン・ランゲージハウス）2,000円

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 L L I	加藤 佐和子	放1年	2

講義のねらい

発音・アクセント・イントネーションを学習し、ネイティブ・スピーカーとのコミュニケーションが円滑にとれるようにする。TOEIC[®]スコア500を目標にする。

講義の内容・授業スケジュール

毎回テキストを1Lesson進む。更に、ヒットソング・映画の一場面・ニュース報道などのディクテーションをし、スピーキング・リスニングの力をつけていく。TOEIC[®]受験のための学習も行う。

履修上の留意点

各自カセット・テープを用意すること。必ず復習をすること。

成績評価の方法

毎回の小テスト・授業参加度50%
まとめテスト50%

教科書

『English20』（英進社）
『10分間 TOEIC リスニング演習』（桐原書店）

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 L L I	久保 ひさ子	放1年	2

講義のねらい

海外旅行の場面別に、一回で通じる短い英会話文を習得する。

講義の内容・授業スケジュール

旅行英会話の短文を、ラボを使用して、聞き取り、書き取り、反復練習、録音、再生する。応用できるようにするため、さらに暗記する。小テストあり。

履修上の留意点

LL 授業は、ラボを用いた実習授業のため、欠席しないようお願い致します。

成績評価の方法

試験と授業実習点と小テスト合計点

教科書

マイケル・ブラウン『旅行でしゃべる英会話』（南雲堂）

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 L L I	なかばやし まさみ 中林正身	放1年	2

講義のねらい

英語の発音、アクセント、イントネーション等の理解と習得。ぼくたちが母語である日本語を習得してきたのと同じように、このクラスでは音声技能（リスニングとスピーキング）の習得に眼目を置く。英語の母音や子音の正しい発音を身につけて、英語の基本的な音を正しく発音できるようになり、また正しく聞き分けることができるようになってもらうことがこのクラスの第一のねらいである。第二のねらいは、多量の英語を聞き取り、リスニング能力を増強させることである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、英語の特徴を掴みながら、とくにフレーズ、文章などのリスニングを重点的にやってもらう。この作業のなかで学生諸君他人には、日本語のアクセントはピッチ・アクセントであるのに対して、英語のアクセントはストレス・アクセントであるとか、日本語が各音節をほぼ等しい時間で発音することによってリズムをつくる言語であるのに対して、英語はほぼ等しい間隔でストレスを置くことによってリズムをつくる言語であるというようなことを実体験をとおして知ってもらう。後期には、とにかく多種多様の英語をドンドン聞いて、英語の音に慣れてもらう。

履修上の留意点

上述したような能力をつけるためには、週に一回の授業では当然不十分である。従って諸君には何らかの課題を毎週課し、翌週の授業までの一週間に家などでその課題のためにそれ相応の時間を割いてもらうことになることを覚悟してもらいたい。そして、その結果を確認するためのテストを毎週行なうつもりである。授業時間外での復習は必須である。

成績評価の方法

出席状況と授業への参加態度と毎回の確認テストを総合的に評価する。

教科書

最初の授業時に指示する。

参考書等

最初の授業時に指示する。

その他

家庭やLL自習室を利用しての予習復習は、毎週課せられることを認識して履修してもらいたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 L L I	にしむら ゆうこ 西村祐子	放1年	2

講義のねらい

基本的な表現をつかってまず「話すこと」からはじめ、日常的なテーマを英語で話してみる。後期は日常的スピードで話される会話をききとり、受け答えできるように聞き取る力を向上させていく。説明は日本語でおこなうが、すべて英語での授業となるLLIIに進むための橋渡しとして、後期にはペアワークが多く取り入れられ、毎回かなりの量の英語を実際に話すことをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

4-7月：英語のビデオを見、ストーリーのまとめ方を学習。基本的な会話表現を学ぶ。
9-12月：ペアワークを多く取り入れ、ビデオの中で行われる会話を再現しながらスキットを独白につくっていく訓練をする。

成績評価の方法

定期試験はおこなわない。平常点（出席率、発表など）重視。

教科書

教場で指定。

参考書等

教場で指定する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 L L I	はなわ 埴 みるこ 美智子	放1年	2

講義のねらい

LL教室を使い英語の発音、アクセント、イントネーション等を習得し、明確な英語が使える、話せる様にする。自分のことばで表現する力を養成する。

講義の内容・
授業スケジュール

日常生活の中で実際に話されている生きたことばを教材に用い、音声聞き、繰り返し練習する。聞き、話す力を高めていく。

履修上の留意点

表現について研究したり、ことばの広がりを見つめ、自分なりに探す習慣をつける。

成績評価の方法

日常の授業を重視し、出席状況、前後期の試験の結果を入れて総合的に評価する。

教 科 書

『Talk of the Town—Adaptive language skills— 生きた英語から学ぶ会話ストラテジー』（マクミラン・ランゲージハウス）1,600円

参 考 書 等

その都度黒板に板書し、案内する。

そ の 他

いろいろなテーマが出てくるので、英語文化についても知識を増やしていく努力をする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 L L I	ヘラー, P.S.	放1年	2

講義のねらい

発音を改善し会話ができる様にしていく。

講義の内容・
授業スケジュール

教材を使いリスニング練習、口頭練習を通し、発音、イントネーション、リズム、ストレスを改善していく。

履修上の留意点

教室内では英語で話すこと。宿題をしてくること。

成績評価の方法

出席率、宿題、リスニングテスト、スピーキングテスト、授業に参加しているかどうかを総合して評価。

教 科 書

IMPACT LISTENING 1 ISBN962-00-5133-5
CLEAR SPEECH FROM THE START ISBN0-521-63737-6

《選択科目》

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I A (選)	い がらし のぶ こ 五十嵐 信 子	放 選	2

講義のねらい

1年間でドイツ語の基礎的な力をつけることを目指します。発音からはじまり、動詞、冠詞、名詞、形容詞、前置詞…とすすんで一通りの文法を学び、1年の最後には、辞書を引きながらやさしいドイツ語の文章を読むことができるようになるでしょう。ドイツ語を身につけることは、ドイツ語圏への鍵を手に入れることになるのです。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) ドイツ人の発音のテープを聞き、それを声に出して発音することで、ドイツ語を聞き取り、また正しく発音することを学びます。
- 2) ドイツ語の文法をしっかりと理解し、くりかえし練習して身につけます。
- 3) 同時に良いドイツ語の例文に多く触れて、楽しくそのルールを感得します。
- 4) やさしいドイツ語会話を学びます。

履修上の留意点

新しい言葉を学ぶことは、本来楽しいことです。それは新しい世界への発見の旅だからです。しかし言語はどの部分も不可欠な建造物のようなものです。それゆえこの時間は、休まず出席して下さい。

成績評価の方法

年2回の試験および時間内の小テストを行ない、これに出席、授業への参加態度などを加味して評価します。

教 科 書

橋本政義・橋本淑恵著『楽しく身につくドイツ文法』（白水社）1,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 語 I B (選)	の じま とし あき 野 島 利 彰	放 選	2

講義のねらい

CDつき教科書を使い、音からドイツ語を学びます。ドイツ語は発音と文字とが一致しており、また難しい音も少ないので、練習すればすぐ上手に発音できるようになります。

講義の内容・授業スケジュール

教場ではCDを聞きません。授業でテキストの音読を指名します。自宅で十分CDを聞き、音読練習もしておいてください。

履修上の留意点

教科書には多数の練習問題があります。答えられるよう予習をしてください。

成績評価の方法

3課ごとに1回ヒアリングテストを行います。このテストと定期試験(筆記試験)の成績が評価の大きな基準になります。

教 科 書

三室・シュレヒト著『ドイチュ・プラクティッシュ<グリーン>』（三修社）2,500円

参 考 書 等

ドイツ語の辞書は最初は引きにくいのですが、すぐに慣れます。二次でもドイツ語を履修する人、将来大学院まで進む人は簡単な辞書を買わず、しっかりした辞書にしてください。

そ の 他

ラジオやテレビのドイツ語講座も役に立ちます。ぜひ視聴してください。

英 会 話 Ⅱ

〈英会話Ⅱの授業内容と履修上の留意点〉

英語を母語とする外国人教師が担当します。英会話Ⅰのレベルを修得しているか、またはそれに相当する力を持っていることを前提とします。関心のあるトピックを話したり、議論できることを目指した大学中級レベルの英語会話の授業です。達成目標の目安は英検準1級合格、TOEFL®のスコア480点、TOEIC®のスコア700点程度。各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選び、事前登録をしなければなりません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 Ⅱ	ジトウィッツ, P. D.	全学科2・3・4選	2

講義のねらい

To build upon the skills mastered in English 1 by giving students intensive practice in listening, reading, writing and speaking.

To help students learn techniques for increasing their vocabulary and their reading skills.
To help prepare students who are interested in advanced English study for my advanced or study abroad.

講義の内容・授業スケジュール

Students will participate in debates, prepare speeches and practice scenes from plays and films.

成績評価の方法

Students are expected to attend at least 80% of all classes and to positively participate in class.

教 科 書

The Spirit of Broadway, The Spirit of America—An Introduction to the Broadway Musical by Philip Zitowitz, Eihosha, 2000.

外国語科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 会 話 Ⅱ	プラスキー, J. C.	全学科2・3・4選	2

講義のねらい

The goal of this course is for students to begin to express themselves beyond the basic level of proficiency about themselves and other topics about which they are familiar.

講義の内容・授業スケジュール

This class will primarily consist of student discussions about themselves, school, family and friends. Emphasis will be placed on the exchange of information and the negotiation of meaning. These activities will be supplemented with grammar, pronunciation, intonation, stress and rhythm exercises as well as listening practice.

履修上の留意点

Students will be required to complete homework assignments before each class.

成績評価の方法

Students will be evaluated on the basis of class participation (50%), homework (30%) and a final oral test (20%) given during the last class meeting.

教 科 書

None.

科目名	担当者名	配当学科	単位
英会話Ⅱ (夏季集中)	ピアス, D. M.	全学科2・3・4選	2

講義のねらい

This is a special intensive class for English conversation that advances students to a high level of speaking ability within a short period of time. It provides continuous conversational practice in quotidian conversational situations. It supplies special vocabulary and speech patterns for every sort of circumstance such as travel, banking, telephone, business exchange, etc. To the purpose of high scores in the important examinations intensive weekly review will be made of the major language aspects tested in TOEFL®, EIKEN, and TOEIC®. English composition and listening comprehension will be practiced by means of having students correct and improve materials they themselves have produced. The core of class activity will consist in accelerated practice in conversation. The method of the course is to render students active throughout the ninety minute period. Students will have opportunity to carry on intelligent dialogues about interesting topics at a level above ordinary conversation. The advanced conversation practice is especially good for students who need to show their English speaking ability when searching for employment. Short lectures will be given on sociological contrasts between Japan and America, following which students will develop personal reactions to the ideas conveyed in those topics.

履修上の留意点

ATTENDANCE: Attendance and active participation are most important, because improvement in English speaking depends on the amount of practice. Please attend all of the classes. The student may miss six classes in the year and still pass; if the student misses five classes, the final grade will be one letter-grade less than what the student would otherwise have received.

EXAMINATIONS: Apart from the two final-semester examinations, there will be frequent small exams. Such exams are not intended to apply pressure; an examination is an excellent method of learning. All exam questions will be questions that we have done together in class, which are printed in the textbook.

成績評価の方法

GRADING: Your final grade is the quality of the employment that you can find after university graduation. Never forget that English ability is extremely important when you are looking for a job; you will be able to get better employment if you improve your English this year. This is an extremely important point; you are taking a high-quality English course to get better employment in the future, not just to get a university grade!

Your academic grade depends 70% on your class performance, in every class. I will keep a record of your participation in every single class meeting. This is a course for English conversation; one can improve speaking ability, similarly to playing piano, only by constant practice. This is true no matter how advanced the student may be. Therefore, attendance is extremely important, and the examinations have minor effect on the final grade. Finally! Everyone in the class is equally able to get an "A" in the class, because the final grade does not depend on the final examination. Even if a student cannot speak English at all, he/she has as much a chance as the other students to get an "A," because his final grade depends on his effort and his improvement in comparison to his initial ability.

教科書

We will probably use *Social Practices*, publisher Themis Research Group, by Adam Pelagius, 2003, Themis Research Group as our textbook. In the first class meeting we will have a diagnostic test to determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. Also recommended is an English-Japanese dictionary or an electronic dictionary. There will be some effort to absorb the vocabulary of written English that you probably do not know.

授業日程

前半	1	2	3	4	5	後半	1	2	3	4	5
8月2日 月	○	○	○	○	○	8月20日 金					
8月3日 火	○	○	○	○	○	8月23日 月					
8月4日 水	○	○	○	○	○	8月24日 火					
8月5日 木	○	○	○	○	○	8月25日 水					
8月6日 金	○	○	○	○	○	8月26日 木					
8月9日 月	○	○	○	○	○	8月27日 金					

英 語 L L II

〈英語 LL II の授業内容と履修上の留意点〉

中級：LL I 程度の基礎訓練を修得していることを前提とします。テープ教材またはビデオ教材を用いて、ニュース等の時事問題、やや専門的なテーマの英語スピーチ等の聴解力を集中的に訓練します。また、英語で要約・説明できる表現力を修得します。英検準1級合格、TOEFL®のスコア480点、TOEIC®のスコア700点程度をめざします。各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選び、事前登録をしなければなりません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 L L II	おお た まさ こ 太 田 雅 子	全学科2・3・4選	2

講義のねらい

90分の授業の前半は、テキストを用いて英語の難しい音のききとりを徹底的に学習する。そして後半は、映画の中の英語をききとれるように練習を重ねる。又、その中の表現を応用して、英語での自己表現力を養成する。

履修上の留意点

全授業回数の3分の1以上欠席した者には単位を認定しない。その他履修上の注意点は、第一回目の授業で指示するので、必ず出席すること。

成績評価の方法

毎回小テスト、年に2回ほど総テストを実施。

教 科 書

Listening Theory and Practice（開文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 L L II	との いけ かず こ 外 池 一 子	全学科2・3・4選	2

講義のねらい

最初はVOA、その後CNN・BBCなどの最新のニュースを教材にリスニング力の向上を目指します。

講義の内容・授業スケジュール

前期はテキストに沿って進み、授業の進度に合わせて最新のニュースを取り入れて行きます。

履修上の留意点

英語ニュースの聞き取りにはニュースに関する背景知識が欠かせません。毎日新聞を読むこと。予習は当然ですが、復習をきちんとすること。カセットテープを必ず持参すること。

成績評価の方法

平常点30%、授業の進度にあわせて行う試験（目安は前期・後期各2回）70%。出席日数が3分の2以上の履修者のみが評価の対象となります。

教 科 書

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 L L II	にしむら ゆうこ 西村 祐子	全学科2・3・4選	2

講義のねらい

基本的な会話と英語表現を学んだレベルIを終了した学生もしくはそれと同程度の英語力がある学生のためのクラス。レベルIIではナチュラルスピードで話されるさまざまなストーリーのビデオを見ながら、さらに込み入った日常表現を修得していく。授業はすべて英語でおこない、質問もすべて英語でおこなう。学生同士の英語での話し合いなどとりいれ、インターアクティブに授業をすすめる。到達目標はTOEIC®700-750程度。LLIにくらべ、難易度が高いので学生によっては受講を制限することがある。

講義の内容・授業スケジュール

4-7月：基本的な会話表現の復習と聞き取り、プレゼンテーション。
9-12月：LLIIIへの橋渡しとして、書き方とプレゼンテーションに力点をのいた授業となる。

履修上の留意点

学生への要望：学生は全員電子メールアドレスを取得しておいてほしい。
テープ録音をするので、カセットテープ（90分程度）をもってくること。

成績評価の方法

定期試験はおこなわない。平常点重視（出席率、発表内容など。）

教科書

テキスト：*Headway pre-intermediate* (Oxford Univ. Press.)
使用ビデオ：Headway elementary、および pre-intermediate、その他。（いずれも本学LL事務室に備え付けのものなので、予習、復習用に借り出して活用してほしい。）

参考書等

使用ビデオ：Headway (elementary)、および (pre-intermediate)、その他。（いずれも本学LL事務室に備え付けのものなので、予習、復習用に借り出して活用してほしい。）

その他

学生への要望：学生は全員電子メールアドレスを取得しておいてほしい。
電子メールアドレスは商業プロバイダーのものを持ちてさしつかえないが、大学の電子メールアドレスの取得はコンピュータ教場の使用の際にも必要なもので、かならず事前におこなっておくことがのぞましい。なお、携帯電話の電子メールは長文英語の課題提出が不可能であり、返信に困難をきたすこともあるため、原則として本授業用には使用しないこと。はじめの授業からききとり力をつけるためにテープ録音をするので、カセットテープ（90分程度）をもってくること。

〔再履修クラス〕

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	<small>にし むら ゆう こ</small> 西 村 祐 子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英語による電子メールの書き方を修得しながら「苦手な英語」から「使える英語」を習得することをめざす。基本的なタッチタイピングから指導し、インターネットをつかって英語で海外の各地の情報を得たり電子メールでといあわせたりしてみる。

講義の内容・授業スケジュール

前期：自己紹介の仕方、確認、問い合わせ、お礼の英文メールなど基本的な英語表現を学ぶ。
後期：より複雑な内容のメールの書き方を学ぶ。

履修上の留意点

学生への要望：大学の電子メールアドレスの取得はコンピュータ教場の使用の際にも必要なので、かならず事前におこなっておくこと。タッチタイピング修得用にフロッピーディスクを用いるので、はじめの授業から、かならず一枚持参のこと。

成績評価の方法

成績評価：平常点重視。定期試験はおこなわない。

教 科 書

Subject: E-mail: writing effective messages (南雲堂)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	<small>いわ い ひろ み</small> 岩 井 洋 美	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

基礎的な文法を再確認し、英語で表現できるようにする。

講義の内容・授業スケジュール

テキストで語彙や文法を確認後、英作文などの問題に取り組む。

履修上の留意点

取り組み姿勢を重視するので、遅刻と欠席は評価に大きく響く。

成績評価の方法

出席と授業態度を重視。そのほか、小テストと前、後期試験で評価。

教 科 書

『会話作文のための復習英文法』(朝日出版社) 1,800円 ISBN4-255-15389-2

科目名	担当者名	配当学科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	<small>はやし たか のり</small> 林 孝 憲	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

日常生活に必要な英作文(手紙なども含む)を短文から学んでゆく。

講義の内容・授業スケジュール

テキストを用いて授業内で作文を行なう。必要に応じてプリントも使用する。

履修上の留意点

各自の必要に応じて、高校で使用した「英文法」の教科書などを持参するとよい。

成績評価の方法

出席、発表、前後期の試験の結果で総合的に評価する。

教 科 書

『自然な日本語から自然な英語へ』(成美堂) 1,500円 ISBN4-7919-5028-3

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	まき の てら よし 牧 野 輝 良	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英文を理解するのに必要な英文の構造・語句等を年間を通じ、しっかりと学習すること。

講義の内容・
授業スケジュール

英文をよりよく理解するために英語の例文をよく読み、試訳を参考に自分で和訳し、英語と日本語の表現の違いを知ること。

成績評価の方法

授業中の課題の提出、3～5課毎の小テスト、期末テスト及び2/3以上の出席を総合して評価する。

教科書

『大学英文法AtoZ』（金星堂）1,300円 ISBN4-7647-3697-7C1082

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	あさ かわ まき 朝 川 真 紀	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

日常生活におけるコミュニケーションに必要な基本的英語表現力を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

大学で英語を学ぶために必要な最低限の文法事項を確認しながら、あらゆる場面での会話表現を学び、聞く力、話す力、書く力を伸ばし定着させていくための演習を繰り返す。

履修上の留意点

予習は毎回行うこと。辞書は必ず持参すること。遅刻した者は授業開始30分まで入室を認めるが、遅刻3回で1回欠席とする。全授業数の3分の2以上出席していない者は不合格とする。

成績評価の方法

平常点、小テスト、定期試験の総合評価。

教科書

浅川和也著『リスニングマスターコース英語で聴く世界事情』（金星堂）1,900円 ISBN4-7647-3782-5 C1082

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	さ とう こ 佐 藤 アヤ子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英語でのE-mailの書き方を学習します。

講義の内容・
授業スケジュール

毎回様々な話題の通信文を練習し、大切な表現を暗記します。

履修上の留意点

毎週、前週に学んだ表現の暗写テストをします。

成績評価の方法

毎回の暗写テスト、前期・後期の試験結果、平常点を総合的に評価します。

教科書

松居 司、Philip Hinder 著『はじめてのEメール英作文』（南雲堂） ISBN4-523-17321-4C0082

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	よし え まさ お 吉 江 正 雄	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英文を正しく読み、発音し、その上で英文を正しく理解することを目標とする。しかし、そこには当然、構文の理解、文法的な正しい解釈も伴われなければならない。これらのことを総合的に学びながら、文明の黎明期、言語の発達段階等についても学ぶことになる。

講義の内容・授業スケジュール

一講時に進む範囲は大体決まってくるので、その範囲の読みと、解釈を中心に据え、後に文法・構文の説明を加える。小説家による美しい文章に触れ、美しい英文の書き方に繋げたい。

履修上の留意点

大体決まってくる一講時に進む範囲の予習をしてくることを望む。

成績評価の方法

前・後期の試験の平均点をベースに、授業参加の積極度、発表回数等を鑑みて評価を出す。ただし、授業総数の三分の一を超える欠席のある学生の評価は出ないから注意すること。

教科書

A Short History of the World (こびあん書房)

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	ほなわ みちこ 瑞 美智子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英語の運用能力養成をめざす。日常基本表現から多様な会話表現の理解と運用能力の養成をめざす。同時に文章表現も学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

テキストの中から多様な英語表現を習得する。日本語に訳さないで英語の表現として身につける習慣をつけていく。

履修上の留意点

辞書を使う場合も出来るだけ英英辞典を使う習慣を身につけていく。

成績評価の方法

日常の出席状況を重視し、普段の授業態度、前後期の試験の結果を入れて総合的に評価する。

教科書

『*Effective reading & listening—Learning About Different Cultures—* 読解・聴解のための効果的学習ブック』(松柏社) 1,800円

参考書等

その都度黒板に板書し案内する。

その他

大切なことばを一つでも多く頭に入れ必要な時すぐに使える様に毎日の生活の中で英語のことばについても関心を持っているようにする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	塚 本 利 男 <small>つか もと とし お</small>	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

語彙力の増強を図りながら、基本的な文法知識を復習・強化して英語の運用の能力を向上させる。

講義の内容・
授業スケジュール

各章が、読み物、文法事項の解説と英作文から構成されていますので、1回の授業で1章を読み終えるようにします。毎回、授業の最後に、予習をかねる意味で作文の問題を提出する。テキストの問題以外にも100語～200語程度で自分の考えや意見を短文にまとめて、提出してもらう事もあります。

履修上の留意点

授業の予習をして下さい。

成績評価の方法

授業における発表・小テストと前・後期の定期試験に基づく。特に、平常授業を重視しますので、全授業数の3分の2以上は、必ず出席して下さい。

教 科 書

『エンジョイ・イングリッシュ』(朝日出版) 1,700円+税 ISBN4-255-15390-6C1082

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	川 島 弘 之 <small>かわ しま ひろ ゆき</small>	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英語を楽しんでもらうことを目指す。学生が強い関心と興味を抱いているロック音楽を教材として使う。学生にもロック音楽等のリクエスト曲を出してもらう。現代の若者にとって、ロック音楽の歌詞はかつての英詩にとって代るものであり、現代詩の一翼をになっている。その歌詞の中には「生きがい」や「Love」についての深い考え方や感性がこめられているので味わってもらいたい。

ロック音楽を通して、人間の心が揺さぶられ、英語音声の感性が磨かれ、人間と社会、人間と自然、人間と人間を見る眼が深まることを望む。

履修上の留意点

他の学生の発表に関心、興味、理解を抱くよう努力することを望む。

成績評価の方法

他の学生の発表に関心をもつこと、日常の発表、レポート、前後期の定期試験等、総合的に評価します。前期のテストは英語の歌を歌うことで行うこともできる。授業の欠席が3分の1を超えた場合は不合格とする。

教 科 書

『ロックの心』(大修館書店) 1,339円 ISBN4-469-24066-4
その他 DVD の映像を使用する。

参 考 書 等

『ロックで読むアメリカ』(近代文芸社)
『ロックの意味』(草思社)
『ロック・ミュージックとアメリカ』(シンコーミュージック)
『ロック音楽と現代社会』(マクミラン・ランゲージハウス)

そ の 他

DVD の映像を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	おのりのこ 尾上典子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

日本と西洋の文化を比較したテキストを使用して、言語理解に必要な文化的・社会的背景知識を習得させるとともに、実践的な英語運用能力の向上をはかる。

講義の内容・授業スケジュール

下記のテキストを翻訳させながら、同時に欧米と日本の文化を正しく理解するのに役立つ様々な資料を配布し、読解・聴解・作文などの英語運用能力の向上を目標とする。

履修上の留意点

正当な理由なくして年間の出席率が2/3に満たない者および授業態度の著しく悪い者は落第させる。

成績評価の方法

評価は、授業態度、出席率、年2回の前・後期試験・小テストなどによって総合的に判断する。

教科書

飛岡 健・David Burleigh 共著 *Japanese and Westerners* 『日本人と欧米人』（マクミラン・ランゲージハウス）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	とのいけかずこ 外池一子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

日常生活の様々な場面をテーマにした会話の聞き取りを中心にリスニング力の向上と共に、それを基にスピーキングの力をつけることを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

授業はテキストに沿って進めます。

履修上の留意点

予習は当然ですが、復習をきちんとすること。各レッスンのポイントとなる表現は必ず覚えること。

成績評価の方法

平常点30%、授業の進度にあわせて行う試験（目安は前期・後期各2回）70%。出席日数が3分の2以上の履修者のみが評価の対象となります。

教科書

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I A 〔再クラス〕	たかやなぎふみえ 高柳文江	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

この授業においては、現代社会が抱えている様々な問題について書かれた簡潔な文章を基に、まずそのListeningとComprehensionを行います。その後、章毎のトピック文の中の語彙、慣用句、文法を理解し、それを基に、writing, speaking 両面から文章を作る事を学びます。

履修上の留意点

授業の性質上、予習が必ず必要です。又、単位取得には2/3以上の出席が要求されます。座席指定。

成績評価の方法

試験（前期試験・後期試験）60%、日常点（出席、提出物、授業への取り組み方等）40%

教科書

第一回の授業にて発表します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	熊 ^{くま} 沢 ^{さわ} 和 ^{かず} 明 ^{あき}	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

基礎的な国語英語の教材を使い、日常基本表現からダイアログに至る会話表現の理解と運用能力の向上をめざす。

講義の内容・授業スケジュール

テキストを中心に学習しながら、プリントの副教材も使用します。

履修上の留意点

ペアワークやプレゼンテーションなどの活動もします。予習が必要です。

成績評価の方法

前期・後期の試験をしますが、出席点と日常の発表点を重視します。単語小テスト、レポート課題など、様々な活動を総合評価します。

教科書

開講時に指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	岩 ^{いわ} 原 ^{はら} 康 ^{やす} 夫 ^お	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英語による日常的なコミュニケーション力の向上を狙いとする。そのために、一定の基本的な動詞の構文と用法を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

クラスはテキストに沿って、表現練習問題をやり、その応用を行ってもらう。

履修上の留意点

学生諸君の予習を前提にしてクラスは進める。

成績評価の方法

前期・後期の試験60パーセント、平常点40パーセントを基準として、成績評価をする。平常点はクラスにおける予習及び発表によって判断する。

教科書

Cultivating Writing Skills (朝日出版) 2,000円 ISBN4-255-15280-2

外国語科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I A 〔再クラス〕	西 ^{にし} 原 ^{はら} 克 ^{かつ} 政 ^{まさ}	全学科2・3・4年	2

講義の内容・授業スケジュール

英語を話すときに役立つ表現力を中心にした作文の演習用のテキストを用いる。外国人が英語を学習する際に役立つと考えられている Basic English (850語で大体日常生活の必要な表現がすべてできるという考え方) を基本にしている。英語が書けるということは、英語が話せるということと直結しているため、その基礎を自分のものとして、会話に応用していただきたいと考えている。

履修上の留意点

受講者には第一回目の授業で、成績評価方法も含めて説明するので、必ず出席のこと。

成績評価の方法

出席が授業回数の3分の2以上であること。日常のプレゼンテーションをその都度評価する。前期・後期試験は行わない。

教科書

『英語表現トレーニング』(北星堂書店)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B 〔再クラス〕	てしま けいこ 手 島 敬 子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

本科目は発音・リズム等の音声面の指導に留意しながら、標準的な英語で書かれた文章を読む力を養うことを目標とします。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは比較的平易な英語で書かれたものを使用し、短時間に効率良く、また適切に内容を読み取る練習を行っていきます。

履修上の留意点

英和辞典を必ず持参。

成績評価の方法

中間・定期試験、課題、出席状況、授業への参加度などにに基づき総合的に行います。

教 科 書

『*Reading Culture and Comprehension (2)* 基礎英文講読法 (2)』
(マクミラン ランゲージハウス) 1,800円
ISBN4-89585-451-5

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B 〔再クラス〕	はやし たかのり 林 孝 憲	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

現代の我々の日常生活におけるエコロジーと経済に関する中級レベルの読解を行なう。またテーマ別のリスニングも行なう。

講義の内容・授業スケジュール

読解とリスニングを平行して行なう。

履修上の留意点

単語調べ等、予習が必要。

成績評価の方法

出席、発表、前後期の試験の結果で総合的に評価する。

教 科 書

『エコロジーとビジネス』(南雲堂) 1,900円 ISBN4-523-17430-X
『5分間ヒアリング』(南雲堂) 700円 ISBN4-523-17151-3

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B 〔再クラス〕	きむら かつひこ 木 村 克 彦	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

やや平易な英文を精読することにより、徐々に実際の運用面も補っていきたい。テキストには各課ごとに練習問題があるが、これらを、本文を再読せずに解ければ、最も望ましいであろう。また、適宜、「エコノミスト誌」や「フォーチュン誌」の記事も訳読してゆきたい。

成績評価の方法

基本的には、前・後期の定期試験に因るが、それ以上に授業態度を重視する。私語厳禁。

教 科 書

Developing Reading Skills (朝日出版社) 1,700円

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I B 〔再クラス〕	武藤 久緒	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英語学力の基礎となるのは読解力です。標準的で平明な英語を正しく理解できるよう、必要文法事項を説明しながら精読します。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期
1. Too Many People? or Too Few?
 2. A Relative Problem
 3. Terrorists or Freedom Fighters?
 4. Fighting in the Name of God.
 5. Judging People the Wrong Way.
 6. The Emptiness Inside
 7. An All-American Planet
 8. The Enemy of Everybody
- 後期
9. A Big, Mean Teacher
 10. The Battle of the Sexes
 11. Trying to Cure the World
 12. When Conservation Isn't Enough
 13. The Fight for Rights
 14. The Issue You Seldom See
 15. Problems that Know No Borders

履修上の留意点

毎回、受講者に順次、訳読をしてもらいます。積極的に学習にとりくむよう努めて下さい。

成績評価の方法

成績評価は前・後期の期末テスト、授業中の発表、出席状況などを考慮して行います。

教科書

Peter Weld, *The World Ahead* (金星堂)

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I B 〔再クラス〕	江田 幸子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英語の基本的な構文の読み取り方を重点的にチェックしながら一ページ程度の英文を精読します。トピックの違う内容を15編読みます。今年度はハリウッド映画の内容を要約した英文を読みます。時折ビデオを観て話される英語を聞いてみます。各々に面白い映画が扱われているので、楽しく英文を読めたら、と思っています。

英語は一見平易ですが読解力をつけるのに勉強になる構文や表現法が使われていて、楽しく読みながら読解力をつけるのには適しているでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

クラスでは授業中が自宅学習のようにして英語学習を進めて行きますので必ずテキスト、辞書、ノートを持参して下さい。解らないところは授業中に辞書をひいて、皆で学習して解るようにしていきます。

成績評価の方法

再履クラスは出席を特に重視します。ほとんど毎回、辞書を使いながら小テストをして平常評価点とします。前期・後期の期末テストよりこの平常点を重視して評価点を出していきます。10回行う小テストの内、上位5回分の成績の平均点を最終評価点とします。欠席回数が多い人は平均点が当然悪くなりますので注意して下さい。出席者には最低50点を出しますが欠席者は0点になります。

教科書

John S. Lander 著 *Hollywood Dialogs* (ASAHI PRESS) 1,800円

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I B 〔再クラス〕	甲斐捷子	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

今年の I B 再クラスは、やさしい英語で書かれた面白い小説を読みます。ただし、言葉の解釈は英語で行い、語彙を増やしながら、口語英語の運用能力も高めるような授業内容となります。

講義の内容・授業スケジュール

テキスト一冊終了後時間が余れば、著者のインタビュー記事を読みます。これはハンドアウトとして配布します。

履修上の留意点

一単元終わるごとに小テストを行います。これは詳細な復習のためのテストで、本試験と同様の内容のものです。このテストで70%以上得点できるよう、復習に重点を置いて学習して下さい。

成績評価の方法

一応の目安として、平常評価としての出席10%、前期試験30%、後期試験30%、小テスト30%による総合評価とします。総合点が基準に達しない場合、欠席が三分の一を超えた場合、および前後期試験のいずれかを欠試した場合は不合格となりますから、特に欠席をしないよう、十分注意して下さい。

教科書

The Summer after the War and A Family Supper (鶴見書店) 900円

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I B 〔再クラス〕	石原孝哉	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

このクラスでは国際共通語としての英語にスポットを当てます。具体的にはアメリカ、イギリスばかりでなく、オーストラリア、インド、ドミニカ、ナイジェリアなど世界各地で使われている英語を、短編を教材にして学びます。教科書は全て英語、練習問題も英語なので英英辞典があると便利です。

成績評価の方法

成績は中間試験、期末試験のほかレポート等から総合的に評価し、出席を重視します。レポートは e-mail で提出することも可能で、提出先は教場で指示します。

教科書

Longman *The Whole Story* (南雲堂フェニックス)

科目名	担当者名	配当学科	単位
英語 I B 〔再クラス〕	真砂久晃	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

英文読解の基礎力をつける。

講義の内容・授業スケジュール

初回の授業でオリエンテーションをする。必ず出席すること。

履修上の留意点

出席が3分の2未満の学生は単位を取得できない。但し、正当な理由のある欠席に関しては考慮する。

成績評価の方法

成績 = (前期の成績 + 後期の成績) ÷ 2
前期、後期共、成績は(100点満点) = 出席点(20~30%) + テスト(70~80%) となる。

教科書

THE BEATLES (南雲堂フェニックス) 980円 + 税

参考書等

THE BEATLES の CD、DVD など。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B 〔再クラス〕	たか やなぎ ふみ え 高 柳 文 江	全学科2・3・4年	2

講義のねらい 英文の逐一の翻訳ではなく英文を速やかに、かつ、正確に理解する事をめざします。

講義の内容・授業スケジュール 世界の中で現在生じている様々な問題について書かれた簡潔な文章を基にまずその Listening と Comprehension を行います。その後、章毎のトピック文の中の語彙、慣用句、文法についての演習問題を行い、更なる理解を深めます。

履修上の留意点 授業の性質上、予習が必ず必要です。又、単位取得には2 / 3 以上の出席が要求されます。座席指定。

成績評価の方法 試験（前期試験、後期試験）60%、日常点（出席、小テスト、提出物、授業への取り組み方等）40%。

教 科 書 『World Today—文化の諸相』（鳳書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B 〔再クラス〕	くま さわ かず あき 熊 沢 和 明	全学科2・3・4年	2

講義のねらい 総合教材のテキストを使い、主に読解の能力を向上させるのをめざす。

講義の内容・授業スケジュール テキストを中心に学習しながらプリントの副教材を使用します。

履修上の留意点 ペアワークやプレゼンテーションなどの活動もします。予習してくることを。

成績評価の方法 前期、後期の試験をします。出席と日常の発表なども重視。単語小テストなどもやります。総合評価です。

教 科 書 開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B 〔再クラス〕	まち だ しげ お 町 田 成 男	全学科2・3・4年	2

講義のねらい 入学時の英語を基礎として、より高度な構文の理解と速読の基礎を身につける。また、リスニングでは聞きながら文章の大意を把握する。

講義の内容・授業スケジュール 原則としてテキストにしたがって読みすすめる。

履修上の留意点 テキストと辞書は忘れずに持参すること。

成績評価の方法 出席 + 発表 + 試験の総合評価とする。

教 科 書 検討中のため、第一回の授業時に、オリエンテーションの中で発表する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 I B 〔再クラス〕	飯 沼 好 永 <small>い い め ま よ し な が</small>	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

様々な英語の文章を読みながら、より正確な内容理解と、それに必要な基本的な文法事項も合わせて習得することに努める。

履修上の留意点

リーディングの力を向上させるには、多くの英文に触れることが大切であるが、受身の姿勢では、自己の英語力を向上させることは難しいので、積極的に授業に参加してください。特に英語に対して苦手意識のある人は、予習に力を入れてください。

成績評価の方法

出席状況、授業への取り組み方、課題、定期試験等を考慮して行う。平常評価（50%）、前期・後期試験（50%）

教 科 書

Reading Landmarks of the world（三修社）1,800円

4. 保 健 体 育 科 目

保健体育科目の目標

本学の『保健体育科目』は、総合的人間性の形成を目指し以下の点に留意して開設されています。

人間がひととして生きていくうえで、自己の身体について知り、理解を深めていくことは重要なことであり、健康の増進や、体力の向上のための基本的な知識や習慣を、生涯を通じて知的・身体的遺産として獲得することは、あらゆる人間活動を支える基盤であります。スポーツは、単に楽しみとしてではなく、健康や体力づくりの手段として、また、身体を認識する手段としても重要であると考えられます。本学の『保健体育科目』は、様々なスポーツ種目を通して展開し、その種目の特性に沿った活動や経験を通して、生涯を通じて健康の増進や体力の向上を図ると共に、スポーツを享受する能力を高め、ゆとりある人間社会の形成を実現する能力を学生自らが考え獲得することを目標としています。

さらに、人間疎外条件の多い現代社会において、運動実践の過程で習得される公正、協調、克己、決断、集中などのスポーツの本質的要素であるパーソナリティーを共通の体験を通して得ることで、学生時代でなければ得られない人間関係を構築し、社会性を養い、人間愛豊かな人間を形成することを目指しています。

4 . 保健体育科目

健康・スポーツ実習 (ゴルフ) (三幣晴三)	113
健康・スポーツ実習 (室内球技) (山口良博)	114
健康・スポーツ実習 [再クラス] (室内球技) (田中佳孝・長濱友雄)	115
健康・スポーツ実習 [再クラス] (室内球技) (鈴木淳平)	116
健康・スポーツ実習 [再クラス] (簡化太極拳) (大石武士)	116
健康・スポーツ実習 [再クラス] 集中授業コース (サッカー)	
(秋田浩一)	117
健康・スポーツ実習 [再クラス] 集中授業コース (卓球)	
(川村正義・山口良博)	118
健康・スポーツ実習 [再クラス] 集中授業コース (バドミントン)	
(牧野茂)	119
健康・スポーツ実習 [再クラス] 集中授業コース (ソフトボール)	
(高橋俊介・村松誠)	120
健康・スポーツ実習 [再クラス] 集中授業コース (室内球技)	
(鈴木淳平)	121
健康・スポーツ実習 [再クラス] 集中授業コース (トレーニング)	
(山口良博)	122
保健論 (吉田稔)	122

保健体育科目

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (ゴルフ)	み ぬさ はる み 三 幣 晴 三	放1必	2

講義のねらい

ゴルフゲームは、現在将来ともにより豊かな余暇時間体験を持つことのできる活動として最良の生涯スポーツである。

生涯スポーツとして、ゴルフのラウンドを楽しくプレーすることのできる基礎的知識、技術、及び態度を身につける。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション
- 2 時限目：グリップ、アドレス、スイング
- 3 時限目：打撃練習 (7・9アイアン)
- 4 時限目：打撃練習 (7・9アイアン) ・ビデオによるスイング理論の解説
- 5 時限目：打撃練習 (5アイアン)
- 6 時限目：打撃練習 (5アイアン)
- 7 時限目：打撃練習 (W1・W3)
- 8 時限目：打撃練習 (W1・W3)
- 9 時限目：打撃練習 (アプローチ)
- 10 時限目：打撃練習 (アプローチ)
- 11 時限目：打撃練習 (パッティング) ・ルールの解説
- 12 時限目：打撃練習 (パッティング) ・ラウンドにおけるマナー、エチケットの解説
- 13 時限目：ラウンド (模擬コース)
- 14 時限目：ラウンド (模擬コース)
- 15 時限目：実技テスト

履修上の留意点

1. 服装は、一般的な運動服装とする。
2. シューズは、運動靴とする。
3. ゴルフ用グローブを各自用意すること。

成績評価の方法

授業に出席して実習することが重要である。したがって成績は、出席点70%・実技点(実技テストを含む)30%の割合で評価する。

そ の 他

雨天時及び強風などの場合は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 (室内球技)	やまぐち よしひろ 山 口 良 博	放1必	2

講義のねらい

バスケットボール、バレーボール、バドミントンを教材とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールを学びながら、健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深め、ゲームを通じて、これらの競技を理解すると共に、豊かな人間関係づくりを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容の説明
(バスケットボール)
- 2 時限目：ボールハンドリング、ドリブルシュート、グループ分け
- 3 時限目：ハーフコート2対1、ゲーム (1次リーグ)
- 4 時限目：ハーフコート3対2、ゲーム (1次リーグ)
- 5 時限目：ハーフコート4対3、ゲーム (1・2次リーグ)
- 6 時限目：ハーフコート3対3、ゲーム (2次リーグ)
- 7 時限目：ゲーム (2次リーグ)
(バレーボール)
- 8 時限目：オーバー・アンダーパス、ゲーム (リーグ戦)
- 9 時限目：レシーブ・スパイクの基本、ゲーム (リーグ戦)
- 10 時限目：サーブ・レシーブ・スパイクの応用、ゲーム (リーグ戦)
- 11 時限目：ゲーム (トーナメント)
(バドミントン)
- 12 時限目：ラケットイング、ミニラリー、スマッシュ、ドロップショット
- 13 時限目：クリアー、ネット・ショット、ダブルスのルール
- 14 時限目：サービス、ストロークの応用、ダブルスのゲーム
- 15 時限目：ダブルスのゲーム

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装とする。体育館シューズを用意すること。担当教員によって時間配分を多少変更することがある。

成績評価の方法

出席点 (70点)、実技点 (20点)、態度点 (10点)、60点以上を合格とする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕 (室内球技)	たなか よしたか ながはま ともお 田中 佳孝・長濱 友雄	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

室内で行なう球技（卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール）の基本技能の習得をベースにして、各種目ともゲーム中心の授業を展開する。いずれの種目とも、将来さまざまな場で「生涯スポーツ」として楽しむことができる種目である。したがって、それぞれの種目の基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについての理解も深めたい。

講義の内容・授業スケジュール

【前期】

- 1 時限目：オリエンテーション、前期授業内容の説明
- 2 時限目：卓 球（ラケットの握り方、フットワーク、ミニゲーム）
- 3 時限目： 〃（サービスとリターン、ルールの解説、シングルスゲーム）
- 4 時限目： 〃（シングルスゲーム）
- 5 時限目： 〃（シングルスゲーム）
- 6 時限目： 〃（ダブルスゲームの進め方、ゲーム）
- 7 時限目： 〃（ダブルスゲーム）
- 8 時限目： 〃（まとめと評価）
- 9 時限目：バドミントン（ラケットの握り方、フットワーク、半面コートでのミニゲーム）
- 10 時限目： 〃（ストローク、ドロップショット、スマッシュの練習、シングルス）
- 11 時限目： 〃（ルール解説、シングルスゲーム）
- 12 時限目： 〃（ダブルスゲームの進め方、ダブルスゲーム）
- 13 時限目： 〃（ダブルスゲーム）
- 14 時限目： 〃（ダブルスゲーム）
- 15 時限目： 〃（まとめと評価）

【後期】

- 1 時限目：オリエンテーション、後期授業内容の説明
- 2 時限目：バレーボール（パスとサーブの技術、ミニゲーム）
- 3 時限目： 〃（アタックとブロックの技術、ルール解説）
- 4 時限目： 〃（フォーメーション、ゲーム）
- 5 時限目： 〃（ゲーム）
- 6 時限目： 〃（ゲーム）
- 7 時限目： 〃（ゲーム）
- 8 時限目： 〃（まとめと評価）
- 9 時限目：バスケットボール（パス、ドリブル、ショットの基本技術）
- 10 時限目： 〃（レイアップショット、ジャンプショットの技術、ルール解説）
- 11 時限目： 〃（ファウルの種類と罰則の解説、ゲーム）
- 12 時限目： 〃（ゲーム）
- 13 時限目： 〃（ゲーム）
- 14 時限目： 〃（ゲーム）
- 15 時限目： 〃（まとめと評価）

履修上の留意点

遅刻は認めない。実技は、本校第1体育館で行なう。一般的なスポーツウェア、ならびに室内球技に適した体育館シューズを用意する。なお、卓球、バドミントンで使うラケットは、貸与する。

成績評価の方法

基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについて理解するためには、毎回授業に出席して、実技を実践することが重要である。したがって成績は、出席点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点は、各種目における個人別の技能、およびゲームの結果を加味して評価する。

そ の 他

曜日・時限によって定員がちがうので注意、『履修要項』を確認の上履修すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕 (室内球技)	すずき じゆん べい 鈴 木 淳 平	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

室内で行なわれる球技を教材とし、そこで用いられる技術・戦術を体得し、同時に体力の増強を図る。

講義の内容・授業スケジュール

バレーボール・バスケットボール・フットサルといった、室内でのボールゲーム（主にチームスポーツ）を行う。技術・戦術の基礎を学んだ後は主にゲームを通じて技術の習熟、体力の向上を図る。
スケジュール（どの種目をどの程度やるか等）は受講学生と相談して決定する。

履修上の留意点

○スポーツウェア（上下）、スポーツシューズ（室内用として履き分ける）の着用を厳守すること。

成績評価の方法

出欠席の状況、運動への積極性、授業態度、技術・体力などから総合的に評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習 〔再クラス〕 (簡化太極拳)	おお しい たけ し 大 石 武 士	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

太極拳は、中国古来の武術であるが、硬拳のように筋骨を鍛錬するものではなく、腰を軸に手足のバランスを取り、呼吸法にのっとって、一定の早さを保ち、ゆっくりとした柔軟な動作が要求される。このしなやかな動作は日本の能の所作に似ており、繰り返し稽古することによって内面の気、優美さ、心の静けさを養い、現在および将来の健康の保持増進を目的とする。そして生涯スポーツとして取り組むことのできる基本的な姿勢を養う。

講義の内容・授業スケジュール

1時限目：オリエンテーション	16時限目：太極拳動作について説明
2時限目：重心の移動・腹式呼吸運動	17時限目：総合
3時限目：第一組 起勢・左右野馬分負・白鶴亮翅	18時限目：総合
4時限目：第二組 左右膝拗歩・手揮琵琶・左右倒卷肱	19時限目：総合
5時限目：第三組 左攬雀尾・右攬雀尾	20時限目：総合
6時限目：第四組 單鞭・雲手・單鞭	21時限目：総合
7時限目：第五組 高探馬・右攔脚・双峰貫耳・轉身左攔脚	22時限目：総合
8時限目：第六組 左下勢独立・右下勢独立	23時限目：総合
9時限目：第七組 左右穿梭・海底針・閃通臂	24時限目：総合
10時限目：第八組 轉身搬蓄捶・如封似閉・十字手・収勢	25時限目：総合
11時限目：総合	26時限目：総合
12時限目：総合	27時限目：総合
13時限目：総合	28時限目：総合
14時限目：総合	29時限目：総合
15時限目：テスト	30時限目：テスト

履修上の留意点

- 1) 定員：40名とする。
- 2) 服装：一般的運動服装で身軽に動きやすいものがよい。シューズ・その他のものは不用。
- 3) 教場：修道館2階

成績評価の方法

出席率70%、総合評価30%で行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習〔再クラス〕 集中授業コース(サッカー)	あき た こう いち 秋 田 浩 一	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

サッカーのゲームは、ボールを蹴ること（キック）、止めること（トラッピング）、運ぶこと（ドリブル）から成り立っている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることで数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間基本技術とゲームを行ない、サッカーの楽しさを実感する。また、正しいルールを学び、ゲームに生かすことへの理解度を高める。

講義の内容・ 授業スケジュール

1日目午前：基本技術練習（キック、トラップ、ヘディング、ドリブル）チーム分け
1日目午後：　　〃
2日目午前：パス練習、ゲーム
2日目午後：ロングキック、ゲーム
3日目午前：ドリブル、ゲーム
3日目午後：シュート、ゲーム
4日目午前：ルールの解説、ゲーム
4日目午後：ゲーム（リーグ戦）
5日目午前：　　〃
5日目午後：　　〃

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装が良いが必ずアップシューズもしくはゴム底のスパイクシューズを用意すること（6本ポイントのスパイクは不可）。靴下は厚手ものがよい。

成績評価の方法

出欠は午前午後の二回確認する。成績は授業参加態度から総合的に判断する。

そ の 他

雨天の場合は、室内において補強トレーニングまたは視聴覚機材を用いて、ルールや競技の理解を深める。

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期) 7月18日(日)～22日(木)
(後期) 12月21日(火)～25日(土)
7月18日及び12月21日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
- (2) 実施時間：午前10：00～12：00
午後13：00～15：30
- (3) 実施場所：玉川グラウンド
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習(再クラス) 集中授業コース(卓球)	<small>かわむら まさよし やまぐち よしひろ</small> 川村 正義・山口 良博	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

卓球の様々な技術の向上を図る事により、卓球の面白さを知る。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルール（シングルス、ダブルス）を理解し、将来、生涯スポーツの一つとしての基盤をつくる。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 日目午前：オリエンテーション、ラケットティング、フォアハンドの基本形。
- 1 日目午後：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム
- 2 日目午前：バックハンドショットの打ち方、バックハンドゲーム
- 2 日目午後：カットの打ち方と返球の方法、シングルスゲーム
- 3 日目午前：シングルスゲーム、ダブルスゲームのやり方
- 3 日目午後：ダブルスゲームの練習
- 4 日目午前：ダブルスゲーム
- 4 日目午後：ダブルスゲーム
- 5 日目午前：トーナメント形式の試合
- 5 日目午後：まとめ

履修上の留意点

服装は、一般的な運動服装が良いが、必ず体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点は平素のゲームの中で採点し、受講態度を加味して評価する。個人の実技テストは行なわない。

そ の 他

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期) 7月18日(日)～22日(木)
(後期) 12月21日(火)～25日(土)
7月18日及び12月21日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
- (2) 実施時間：10：00～12：00
13：00～15：30
- (3) 実施場所：玉川体育館
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習〔再クラス〕 集中授業コース(バドミントン)	まきの 牧 野 茂	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

ゲームを楽しむための基本的な技術やルールを習得し、仲間づくりを通して社会的態度を養うとともに、生涯スポーツとして取り組むことができる基本的能力を身につけることを目標とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1日目午前：オリエンテーション、ラケットイング、ストロークの基本技術（回内、回外）
 1日目午後：オーバー・ヘッド・ストローク
 ①（スマッシュ、ドロップ）、コート反面のシングルス・ゲーム
 2日目午前：オーバー・ヘッド・ストローク
 ②（スマッシュ、クリアー、ドライブ）、サービス
 2日目午後：アンダー・ハンド・ストローク
 ①（クリアー、ヘアピン・ショット）、サービス、コート反面のシングルス・ゲーム
 3日目午前：アンダー・ハンド・ストローク
 ②（ロブ、クロス、ネットショット）、シングルス・ゲーム
 3日目午後：サイド・ハンド・ストローク（ドライブ、クリアー）、サービス、シングルス・ゲーム
 4日目午前：オーバー・ヘッド・ストローク
 ③（カット、ブッシュ）、総合練習、ダブルス・ゲーム
 4日目午後：総合練習、ダブルス・ゲーム
 5日目午前：総合練習、ダブルス・ゲーム
 5日目午後：総合練習、トーナメント型式のゲーム

履修上の留意点

- (1) 服装は、一般的な運動服とする。
- (2) 体育館シューズを用意すること。
- (3) ラケットは貸与する。

成績評価の方法

出欠は午前午後の二回確認する。成績は授業参加態度から総合的に判断する。

そ の 他

- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：(前期) 7月18日(日)～22日(木)
 (後期) 12月21日(火)～25日(土)
 7月18日及び12月21日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
 - (2) 実施時間：10：00～12：00
 13：00～15：30
 - (3) 実施場所：玉川体育館
 - (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
 - (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習(再クラス) 集中授業コース(ソフトボール)	たかはし しゅんすけ むらまつ まこと 高橋 俊介・村松 誠	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

補強運動、練習及びゲームなどを積極的に行い、体力や運動能力を高める。技術やルールを習得し、ソフトボールのゲームを行う基本的能力を身につける。また、ソフトボールの楽しさをゲームや技術の習得を通して体験する。さらに、クラスの仲間と協力して練習やゲームを行う中で社会的態度を養う。

講義の内容・授業スケジュール

第1日目 午前：チーム分け、基本練習（キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、走塁練習、その他）
午後：同上
第2日目 午前：ゲーム
午後：〃
第3日目 午前：〃
午後：審判法・ゲーム
第4日目 午前：〃
午後：〃
第5日目 午前：〃
午後：〃

履修上の留意点

一般的の体育服装を用意すること。野球用ユニフォームでも良い。運動靴は必ず用意すること。スパイクシューズは認めない。用具は貸与する。

成績評価の方法

出席を重視し、総合的に評価する。

そ の 他

雨天の場合は、室内において補強トレーニングまたは視聴覚機材を用いて、ルールや競技の理解を深める。

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期) 7月18日(日)～22日(木)
(後期) 12月21日(火)～25日(土)
7月18日及び12月21日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
- (2) 実施時間：10：00～12：00
13：00～15：30
- (3) 実施場所：玉川グラウンド
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
健康・スポーツ実習(再クラス) 集中授業コース(室内球技)	<small>すず</small> 鈴 <small>き</small> 木 <small>じゆん</small> 淳 <small>べい</small> 平	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

室内で行なわれる球技を教材とし、そこで用いられる基礎的な技術・戦術を体得し、同時に体力の増強を図る。

講義の内容・授業スケジュール

バレーボール・バスケットボール・バドミントンを行なう。チームスポーツ、個人スポーツに必要とされる要素(体力的・技術的)を意識してゲームを多く消化していく。
スケジュール(どの種目をどの程度やるか等)は受講学生と相談して決定する。

履修上の留意点

○スポーツウェア(上下)、スポーツシューズ(室内用として履き分ける)の着用を厳守すること。

成績評価の方法

出欠席の状況、運動への積極性、授業態度、技術・体力などから総合的に評価する。

そ の 他

雨天の場合は、室内において補強トレーニングまたは視聴覚機材を用いて、ルールや競技の理解を深める。

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：(前期) 7月18日(日)～22日(木)
(後期) 12月21日(火)～25日(土)
7月18日及び12月21日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
- (2) 実施時間：10：00～12：00
13：00～15：30
- (3) 実施場所：玉川体育館
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備 考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
健康・スポーツ実習(再クラス) 集中授業コース(トレーニング)	やまぐちよしひろ 山口良博	全学科2・3・4年	2

講義のねらい

基礎的な体力要素である筋力、持久力、柔軟性、敏捷性を高めることを目的として、さまざまなトレーニングを実践する。また、自分の体力の特徴を知ることによって、それに応じたトレーニングの方法を学ぶことを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1日目 午前：オリエンテーション、体力測定
 1日目 午後：カイザーカムⅡの使用法の説明、最大筋力の測定
 2日目 午前：ストレッチ体操、トレーニング
 2日目 午後：トレーニング
 3日目 午前：ストレッチ体操、マッサージ法
 3日目 午後：トレーニング
 4日目 午前：ストレッチ体操、トレーニング
 4日目 午後：12分間走
 5日目 午前：ストレッチ体操、トレーニング
 5日目 午後：体力測定、まとめ

履修上の留意点

服装は、一般的なスポーツウェアを用意すること。実技は、おもに体育館地下のトレーニング場で行なうので、体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

出席状況、トレーニング内容、授業態度を総合的に判断して評価する。

その他

- 再クラス 集中授業コース実施について
 (1) 実施期間：(前期) 7月18日(日)～22日(木)
 (後期) 12月21日(火)～25日(土)
 7月18日及び12月21日更衣の上、午前10時に玉川体育館集合
 (2) 実施時間：午前 10:00～12:00
 午後 13:00～15:30
 (3) 実施場所：玉川体育館
 (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届(事前登録)』は集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。
 (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
保健理論(前期)	よしだみのる 吉田稔	放1必	2

講義のねらい

「健康とは、肉体的に、精神的および社会的に完全に良好(well-being)な状態であって、単に病気に罹患してないとか、病的ではないということではない」。これはWHO憲章によって定義された健康の概念である。今や我が国の平均寿命が世界一となり、健康状態は諸外国に比べ極めて良好といえる。しかしながら、我が国は21世紀には本格的な高齢化社会を迎えようとしており、老人問題が重要な課題となっている。今や時代のニーズに対応した保健活動のみならず将来を展望した保健活動が重要視されて来ている。ここでは現在そして将来の健康の確保に必要な諸問題について考える。

成績評価の方法

総合的評価は認知領域(知識)については論述試験と客観試験を定期試験の時にを行い、情意領域(態度・習慣)については出欠および授業中の態度で評価を行う。形成的評価については、授業中に小テストを行い、その結果を学生にフィードバックする。

教科書

鈴木庄助・久道茂編集『シンプル衛生・公衆衛生学』(改訂7版)(南江堂)2,400円

参考書等

『国民衛生の動向』厚生指標 臨時増刊(厚生統計協会)

II 專門教育科目

專門教育科目

Ⅱ. 専門教育科目

《必修科目》

解剖学	〈蜂屋順一〉	127
環境保健医学	〈吉田稔〉	127
電気工学	〈佐藤昌憲〉	128
放射線物理学	〈小山正希〉	128
診療画像技術学概論	〈西尾誠示〉	129
放射線機器概論	〈氏家盛通〉	130
放射線写真学	〈古川克治〉	131
応用数学	〈熊坂さつき〉	132
診療画像技術学実験	〈西尾誠示・熊坂さつき・長谷川武・原昌代・三浦康平〉	133
医用物理学実験	〈小山正希・小林久夫・佐藤昌憲・中北倫男・森啓〉	134
医用化学実験	〈山本裕右・櫃尾英次・高田健夫・原田和正・村上雅彦〉	135
医学概論	〈吉川宏起〉	136
臨床医学概論	〈吉川宏起〉	136
生理学	〈樋口雄三〉	137
病理学	〈吉川宏起〉	137
生化学	〈原田和正〉	138
電子工学	〈杉田徹〉	138
原子核物理学	〈永井喜則〉	139
放射化学	〈山本裕右〉	139
放射線生物学	〈早川吉彦〉	140
放射線計測学	〈青木清〉	141
診療画像技術学	〈西尾誠示〉	142
放射線機器工学	〈中北倫男〉	143
画像工学概論	〈高野正雄〉	143
医用画像工学	〈櫃尾英次〉	144
画像数学	〈志村一男〉	144
画像検査技術学基礎実習	〈西尾誠示・氏家盛通・谷口貴久・原昌代・吉川達生〉	145
電気電子工学実験	〈杉田徹・青木清・川副護・木村登・吉田正廣〉	146
放射線機器工学実験	〈櫃尾英次・一守俊寛・中北倫男・原昌代〉	147

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
解 剖 学 (後期)	はち や じゅん いち 蜂 屋 順 一	放1必	2

講義のねらい

からだの形態と構造を研究する解剖学は医学の基礎をなす重要な学問である。その膨大な内容のなかから臨床医学に特に関連のふかい事項をえらんで要点を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

骨格系、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、発生学

履修上の留意点

系統的学習であり、十分な予習、復習が必要となる。

成績評価の方法

定期試験

教科書

藤田恒夫著『入門人体解剖学』改訂第4版（南江堂）5,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
環 境 保 健 医 学 (後期)	よし だ みのもろ 吉 田 稔	放1必	1

講義のねらい

衛生・公衆衛生学は、人々を疾病から守り、健康を保持、増進および福祉の向上を目的とした学問である。しかも個人、家族、地域社会および全国民の健康を対象とし、疾病のみならずすべての健康からの偏りを予防、コントロールし、積極的な健康の達成を目指すものである。しかしながら、健康の保持には環境、病因、宿主の間のバランスが重要である。今日では地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨といった地球規模での環境破壊が健康保持に深刻な問題を投げかけている。ここでは公衆衛生が果たす役割のみならず環境問題についても学ぶ。

成績評価の方法

総括的評価は認知領域（知識）については論述試験と客観試験を定期試験の時に行い、情意領域（態度・習慣）については出欠および授業中の態度で評価を行う。形成的評価については、授業中に小テストを行い、その結果を学生にフィードバックする。

教科書

鈴木庄助・久道茂編集『シンプル衛生・公衆衛生学』改訂7版（南江堂）2,400円

参考書等

『国民衛生の動向』（厚生指針 臨時増刊）厚生統計協会
厚生省編『厚生白書』（厚生省統計協会）
環境庁編『環境白書』（大蔵省印刷局）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
電 気 工 学 (後期)	佐 藤 昌 憲	放1必	2

講義のねらい

交流回路理論の基礎知識を得ることを目的としている。この科目は、診療放射線技師国家試験科目であるので、十分な演習と中間テストも合わせて講義をする。

講義の内容・授業スケジュール

次の内容で授業を進める。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1) 交流回路の基礎 | 2) 交流の平均値・実効値 |
| 3) 正弦波交流の基本回路 | 4) 交流の直列回路 |
| 5) 交流の並列回路 | 6) 交流の電力 |
| 7) 複素数とベクトル | 8) 交流回路の計算 |
| 9) 相互インダクタンスを含む回路の計算 | 10) 三相交流の基礎 |
| 11) 三相の結線方法と電圧・電流の関係 | 12) 三相交流の電力と力率 |
| 13) 平衡三相交流回路の計算 | 14) 電気計測 (電圧・電流・電力の測定) |
| 15) 変圧器の基礎 | |

成績評価の方法

中間テストと定期テストの結果より評価する。また、授業の出席数や課題レポートも加味する。

教 科 書

- 『新電気基礎問題集』(綜文館) 800円
- 『電気基礎上』(東京電機大学) 2,472円
- 『電気基礎下』(東京電機大学) 2,369円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
放 射 線 物 理 学	小 山 正 希	放1必	2

講義のねらい

診療放射線学の基礎的概念である放射線(ここでは主として光子)と物質との相互作用を中心として、最も多用されているX線の発生機構を含めて、放射線とその作用効果の基本を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

主たる項目とその学習順序は凡そ次の通りである。

- | | |
|---|-----------------|
| 1) 放射線・放射能の定義と概念。 | 2) 放射線の種類と分類。 |
| 3) 光子(X線・γ線)の粒子性。 | 4) 光電効果。 |
| 5) 原子の構造・粒子の波動性。 | 6) X線回折・ブラッグ反射。 |
| 7) 軌道電子のエネルギー準位。 | 8) 輝線スペクトル。 |
| 9) 制動X線・特性X線の発生機構。 | 10) X線の線質。 |
| 11) 光子と物質との相互作用(光電効果・コンプトン効果・電子対生成効果・トムソン散乱など)。 | |
| 12) 吸収端現象とその応用。 | |
| 13) 電子と物質との相互作用(電離・励起・制動放射・チエレンコフ放射など)。 | |
| 14) 光子の減弱(吸収係数・再生係数・平均自由行程など)。 | |
| 15) 電子の飛程。 | 16) 放射線の単位。 |

X線による写真や電子機器を通して得られる人体に関する画像は総べてここで学習するX線と物質との相互作用に依っている。即ち放射線の利用も、また放射線による損傷効果も、その基本的過程は相互作用にあると言える。従ってこの科目の内容は診療放射学全体の理解に要する最も基本的な概念知識となっている。放射線の単位は、その内容が本科目での知識なしには理解し得ないので、最後に学ぶ事になるが、学習の各段階で折にふれ概要を説明する。

成績評価の方法

定期試験の他、2~3回行う中間試験および出席状況により評価する。

教 科 書

教科書は使用しないが、参考となる書籍とその部分については適宜紹介する。

そ の 他

授業の映像および毎時間ごとの内容が学内LANにより、また自宅からも復習できる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
診療画像技術学概論(後期)	にし 西 尾 誠 示	放1必	2

講義のねらい

医療の場において診療放射線技師の果たす役割とその関連事項、及び診療画像技術学を学ぶ上で基礎となる X 線画像の基礎知識について講義を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①医療社会と放射線技師
医療社会の構成、病院組織、関連職種、チーム医療などについて
- ②放射線技師の役割と医療人の条件
社会における診療放射線技師の役割、放射線学の歴史、将来の展望等について
- ③X 線撮影の基礎
X 線の発生、線質、減弱、物質との相互作用、写真効果などについて
- ④X 線画像の成り立ち
X 線照射によって生じる写真効果と画像の拡大、歪み、重責効果など
- ⑤画質の基礎知識
画質を評価するときの対象となるコントラスト、鮮鋭度、粒状性について
- ⑥良い画像と画質を左右する要因
管電圧、フィルター、散乱線とグリッド、フィルム・増感紙などについて
- ⑦撮影条件の設定と考え方
最適な画像を得るための理論的な考え方、課題と改善策について
- ⑧体の基準線と名称
医療画像検査を行う上で重要な基準線、名称および体表解剖について
- ⑨画像検査の種類
単純撮影、造影法、特殊検査の原理と検査の基礎的知識について

履修上の留意点

講義は Power Point とプリントを用いるが、必ずノートをとること。

成績評価の方法

テーマ毎の小試験と定期試験を基準にするが、授業態度も採点に加える。

教 科 書

立入弘著『診療放射線技術』（南江堂）6,800円

参 考 書 等

講義用 CD 及びプリント

そ の 他

授業は講義形式であるが、内容により質問あるいは意見を求める。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放射線機器概論(前期)	うじ いえ ちり みち 氏 家 盛 通	放1必	1

講義のねらい

診療放射線業務を行うには医療用放射線機器や器具が必要である。それらのうち診療用の各種 X 線機器・装置・用具の構造・動作原理や取扱い方法・精度維持や安全管理に必要な知識について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 診療 X 線機器：X 線機器の概要、X 線管の構造、用具・感光材料の基礎知識。
- (2) 一般撮影装置：X 線装置・X 線発生装置、X 線制御装置。
- (3) X 線源装置：X 線用高電圧ケーブル、X 線高電圧発生装置、電源設備。
- (4) X 線機械装置：透視撮影装置、保持装置・撮影台、その他の特殊装置。
- (5) 関連用品：散乱 X 線除去用グリッド、フィルムカセット、イメージング装置。
- (6) 診断用 X 線装置：外科系、消化器系、呼吸器系、頭部系等撮影装置。
- (7) 特殊 X 線装置：乳房用 X 線装置、泌尿器・婦人科系 X 線装置、乳幼児撮影装置。
- (8) X 線断層撮影装置：X 線間接撮影装置、X 線拡大撮影法・立体撮影法。
- (9) 循環器系 X 線検査装置：連続撮影装置、X 線シネ装置と関連機器。
- (10) X 線 CT 装置：原理と画像再構成、前処理と補正、X 線 CT 走査方式。
- (11) X 線 CT 検出器：寝台、X 線発生装置、X 線管、コンピュータシステム。
- (12) X 線 CT 装置の特徴：スリッピング方式、画像記録装置、画像記憶・表示装置。

履修上の留意点

診療放射線技師として必要な X 線装置などの基礎的知識について教科書を用いて講義する。

成績評価の方法

定期試験の結果および出席状況による。

教 科 書

『診療放射線技術』上巻（南江堂）7,004円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放射線写真学(後期)	ふる かわ かつ はる 古 川 克 治	放1必	2

講義のねらい

画像診断の根幹をなす、各種医用画像の画像形成につき、感光材料、感熱材料等のX線センサー科学とその最新技術につき理解を深める。
また、近年話題が高まっている環境問題についても学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

i) 講義項目

- ① 感光材料(湿色フィルム)概論
- ② 感光理論・現像理論
- ③ X線写真の成り立ち・各種X線センサーの特性
- ④ X線画像とその評価、センシトメトリー、鮮鋭度、粒状性
- ⑤ ドライ感光材料とその記録方式・各種モダリティ画像
- ⑥ 放射線写真に関係する環境問題

ii) スケジュール

感光材料/感光理論 H16/9~10
画像の成り立ち、画像とその評価 H16/10~11
ドライ感材/環境関連 H16/11~12

履修上の留意点

- ① 期中3回前後のミニテスト実施予定。出席点は重視しない。
- ② 教科書、参考書、文献等(OHP、Video、PC)で理解を深める。
- ③ 各種臨床写真を供覧し、理論と写真を一体化させ、理解を深める。

成績評価の方法

期末試験を重視。出席状況、ミニテストを参考に最終評価する。
追試のみ実施。再試は「無」。

教 科 書

『放射線写真学』(富士フィルムメディカル㈱) 5,700円

参 考 書 等

- ① 日本写真学会編『改訂 写真工学の基礎 [銀塩写真編]』(コロナ社)
- ② 友田宜忠著『写真科学』(通商産業研究社)
- ③ 笹井明『写真の化学』(写真工業出版社)
- ④ 内田勝『放射線画像情報工学 (I) (II)』(通商産業研究社)
- ⑤ T. H. James *The Theory of the Photographic Process, 4th Ed.* '77 (Macmillan Co.)
- ⑥ T. S. Curry et al *Christensen's Introduction to the Physics of Diagnostic Radiology, 3rd Ed.* (Lea & Febiger '84)
- ⑦ 日本医用画像工学会監修『医用画像工学ハンドブック』(篠原出版)' 94
- ⑧ 環境法研究会編『環境六法 平成14年版』(中央法規)

そ の 他

授業方法：講義…Video、OHP、PC、臨床写真を活用

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 数 学 (後期)	くま さが 熊 坂 さつき	放1必	2

講義のねらい

放射線技術者として、将来必要になるであろう画像数学の基礎知識について学ぶ。内容は基礎数学を終了したものが理解できるスケジュールとなっている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 微分の応用
 - ・極限と微分
 - ・ロルの定理、コーシーの平均値の定理
 - ・ロピタルの定理
 - ・マクローリン展開
 - ・近似値の求め方
 - ・その他
2. 積分の応用
 - ・有理関数の積分
 - ・ $\sin x$ 、 $\cos x$ の有理関数の積分
 - ・ $e^x \sin x$ の積分
 - ・偶関数、奇関数の定積分
 - ・広義積分と無限積分
 - ・多重積分
 - ・シンプソンの公式
 - ・その他
3. 三角関数の応用
 - ・オイラーの公式
 - ・ド・モアブルの公式
 - ・その他

成績評価の方法

試験（1又は2回/年）、レポート

教 科 書

氏原真代『画像数学入門』（東洋書房）、プリント

参 考 書 等

『応用数学—1工学専攻者のための』（内田老鶴園新社）
 英保茂『医用画像処理』（朝倉書店）
 今里悠一『画像処理』（昭晃堂）
 和達三樹『微分積分』（岩波書店）
 矢嶋信男『常微分方程式』（岩波書店）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
診療画像技術学実験	西尾 誠示・熊坂 さつき 長谷川 武・原 昌代 三浦 康平	放1必	1

講義のねらい

X線装置及び周辺機器の構造を理解し、正しい使用法を習得する。
X線画像を左右する要因と基礎的な画質評価について実験を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① X線量と写真濃度
被検体からより多い情報を得るための適切な線量を求める。ファントムを用いて、照射を行いX線の吸収と写真濃度を理解する。
- ② 撮影条件表の作成
アクリル板を用い、その厚さの変化に対する適正な線量、電圧を求め、条件表を作成する。
- ③ 照射野の線量分布と撮影距離
X線照射野とフィルム・X線焦点間距離を変化させ写真濃度を測定し、照射野内のX線分布を把握する。
- ④ フィルムの特性曲線の作成
距離の逆二乗則を利用した距離法にて複数の特性曲線を作成する。特性曲線と相対線量の関係を理解するとともに、その利用方法を学ぶ。
- ⑤ 撮影電圧とコントラスト
電圧とフィルター厚を変化させ、線質の違いが画質に及ぼす影響を調べる。
X線吸収差の少ない被写体のコントラスト、微小検体の描出度を評価する。
- ⑥ 増感紙の感度
フィルムの特性曲線を作成し、各種増感紙の相対感度を求める。増感紙とフィルムの正しい組合せ、および感度と被曝線量の関係について学習する。
- ⑦ フィルム・増感紙の鮮鋭度/解像力
矩形波チャートを用いたコントラスト法にて、フィルム・増感紙のMTFを求める。マイクログラフメータの取扱いを習得する。
- ⑧ 散乱線の評価
上記の特性曲線を用いて、鉛ディスク法による散乱線含有率を求める。被写体厚と照射野を変化させて散乱線の量を測定し、臨床における量を把握する。
- ⑨ グリッドの性能評価
鉛ディスク法にて散乱線透過率、直接線透過率、全X線透過率から露出倍数、コントラスト改善度、選択度を求め、グリッドの基本的性能を評価する。

履修上の留意点

授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。

成績評価の方法

定期試験、実技試験、学習意欲、レポートについて総合的に判定する。

教 科 書

実験マニュアルを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
医 用 物 理 学 実 験	<small>こやま</small> 小山 正希・ <small>こはやし</small> 小林 久夫 <small>さとう</small> 佐藤 昌憲・ <small>なかに</small> 中北 倫男 <small>もり</small> 森 啓	放1必	1

講義のねらい

多くの学生にとっては初めての実験であると思われるので、前半・後半と分けて、前半は器具・機器の扱い方の練習をする。後半はデーターを処理する方法を扱う実験を用意してある。現象を通じて理論を理解することも同時に身に付けてもらいたい。

講義の内容・
授業スケジュール

内容は手引書を製作してあるのでこれを参照すること。少人数で実験をするために班分けをする。そのためにスケジュールは個人によって異なる。入学後のガイダンスの際に班分けによるスケジュールを発表する。

成績評価の方法

1. レポート 2. 実験 3. 質疑応答 4. 調査・検索について点数化して総得点で評価する。

教 科 書

放射線科でいくつかの実験のために用意した手引書を制作してある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
医 用 化 学 実 験	やまもと 山本 裕右・榎尾 英次 たかだ たか 高田 健夫・原田 和正 らうかみ 村上 雅彦	放 1 必	1

講義のねらい

医療分野において必要な化学に関する実験を通して、化学の基本原理や概念を理解すると共に、化学実験における基本操作、薬品取扱時の基礎知識を学ぶ。また、実験で得られたデータを客観的に評価し、分子レベルで化学的に考察してレポートにまとめる能力を育成する。

化学実験は常に危険を伴うが、その危険は実験前の下調べ、正しい実験操作および実験中の注意深い観察により避けることができるし、また、得られた実験結果に伴う誤差には原因があり、その原因を突き止め、誤差をいかに最小限にとどめるかは、実験者の洞察力と腕の見せ所である。これらのことは、実際に実験を行ってのみ経験でき、養えることである。

必ずしもよい結果だけを追いかける必要はない。失敗もまた次への大きな手がかりとなる。

講義の内容・授業スケジュール

1. ガイダンス
2. ガラス細工、器具の洗浄
3. 容量、重量の測定、試薬の調製法
4. ハロゲン化銀の感光性と現像、定着試薬との反応
5. 中和滴定による酸の定量
6. 薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離・同定
7. 分子模型実習
8. pHメータによる緩衝能の測定
9. 硫酸銅(II)五水和物の合成
10. ヨウ素滴定による銅(II)の定量
11. ϕ -フェナントロリン法による鉄(II)の比色分析
12. イオン交換樹脂の交換容量の測定

履修上の留意点

- ・欠席しないこと：実験操作を段階的、体系的に学習できるようにテーマを設定してあるので、欠席をすると次の実験に支障をきたす。
- ・遅刻しないこと：冒頭で実験についての注意事項を説明する。遅刻すると、これらの説明を聞かないで実験することになり、操作の誤りや、事故を起こしかねないので危険である。したがって、遅刻者には当日の実験を許可しない。
- ・予習、下調べをして実験のフローチャートを作製してくること：実験の詳細はプリントして2週間前に配布するので、当日までにフローチャートを作り、使用する薬品の性質、器具の使用方法について下調べをしておく。
- ・実験室内での規則を守ること：化学実験には危険や事故が付きまとう。これらをできる限り排除するように努力すべきである。そのためにはガイダンスでの注意事項を厳守する必要がある。
- ・レポートの提出：各テーマごとに実験終了1週間後にレポートを提出する。ガイダンスで説明する形式が守られていない場合、内容に誤りがあるか不十分な場合は再提出となる。最終的にレポートが受理されて初めてその実験が終了となる。

成績評価の方法

平常点、レポート、定期試験により評価する。

教科書

プリント使用。

参考書等

新版『実験を安全に行うために—事故・災害防止編』(化学同人) 800円+税
 新版『(統)実験を安全に行うために—基本操作・基本測定編』(化学同人) 700円+税
 以上2冊は、実験時に常に持参すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
医 学 概 論 (前期)	よし <small>かわ</small> こう <small>ま</small> 起 吉 川 宏 起	放 2 必	2

講義のねらい

現代医学で行われている実際の医療について幅広く理解し、その中での放射線医学の役割について理解する。さらに医療従事者として必要な人権を尊重した医療倫理について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

病院や診療所で行われている医療について、医療現場の構造やそこで働く医療従事者の役割分担について具体例を挙げながら概説する。この医療全般の中における放射線医学、すなわち放射線診断学、核医学、放射線治療学それぞれの役割について解説する。とくに個々の分野で使用されるモダリティー (X線撮影装置、X線CT (computed tomography; コンピュータ断層撮影)、MRI (magnetic resonance imaging; 磁気共鳴映像法)、超音波装置、核医学装置、放射線治療装置など) についてその原理や特徴の概略を解説する。さらに医療従事者として必要とされる医療倫理およびそれに裏打ちされたマネージメントケアについて解説する。

履修上の留意点

広範囲にわたる放射線医学について理解を深めることが重要で、数多くの放射線診断あるいは放射線治療モダリティーの特徴、これらの臨床的有用性と限界について理解することが重要である。

成績評価の方法

定期の筆記試験。

参 考 書 等

日野原重明著『医学概論』(医学書院) 1,600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
臨 床 医 学 概 論 (後期)	よし <small>かわ</small> こう <small>ま</small> 起 吉 川 宏 起	放 2 必	2

講義のねらい

医学概論で学んだ知識を基に、更に一步進んで主要疾患に対する核医学を含めた放射線診断法あるいは放射線治療法について解説する。IVR (interventional radiology) や近年、注目を浴びている遺伝子治療の中での放射線医学の役割についても概略を解説する。

講義の内容・授業スケジュール

中枢神経系および循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿生殖器系、運動器系の疾患について放射線診断法あるいは放射線治療法について解説する。放射線医学で使用される各種診断モダリティーおよび核医学装置、放射線治療装置の有用性と限界について概説する。またX線造影剤およびMRI (磁気共鳴映像法) 用造影剤の種類と使用方法について概略を解説する。近年、急速な発展を遂げている血管あるいは血管以外におけるIVRの現況や放射線学における遺伝子治療についても概説する。

履修上の留意点

診療放射線技師として必要な種々の疾患の概念を習得し、実際の臨床に結びつく放射線医学(放射線診断学、核医学、放射線治療学)の基礎的知識を獲得することが重要である。

成績評価の方法

定期の筆記試験。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 理 学 (前期)	樋 口 雄 三 <small>ひぐちゆうぞう</small>	放 2 必	1

講義のねらい

生命現象がホリスティックに恒常性が維持されていることを理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 生命・健康・環境 | 7. 内分泌 |
| 2. 体液・血液 | 8. 脳・神経系 |
| 3. 循環系 | 9. 筋・運動系 |
| 4. 消化・吸収 | 10. 感覚 |
| 5. 代謝・体温 | 11. 生殖 |
| 6. 排泄 | 12. 免疫系 |

履修上の留意点

授業に出席し、ノートを整理すること。

成績評価の方法

定期試験、出席状況、態度などにより総合評価する。

教 科 書

下 正宗他『人体の構造と機能』(医学書院)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
病 理 学 (後期)	吉 川 宏 起 <small>よしかわこうき</small>	放 2 必	2

講義のねらい

ヒトの疾病の原因・経緯・結果を追求し、人体組織の形態学的な変化および機能的変化を理解することを目標とする。病理学総論では各種疾患の分類について理解し、各論では疾病(疾患)を臓器(組織)別に、原因・経緯・結果を追求し、臓器特異性変化を踏まえた上で理解することを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

体の健康な状態を学ぶ生理生化学や解剖学の知識を基礎として、各臓器での疾病(疾患)(奇形、炎症、外傷、血管性病変、腫瘍など)の原因と病態、治癒あるいは進行過程について、できるだけ多くのイラストや画像を用いた講義をめざす。近年、急速な発展を遂げている遺伝子解析と疾患との関係についても概説する。

履修上の留意点

病理学は生理生化学や解剖学での知識の上に成り立つ学問である。解剖名や病名など膨大な記憶力が求められているため、繰り返しの履修が必要となるが、重要なポイントは記憶前段階での確実な理解である。

成績評価の方法

定期的筆記試験。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 化 学 (前期)	ほら だ かず まさ 原 田 和 正	放 2 必	1

講義のねらい

生化学の分野から、診療放射線技師にとって最低限必要と思われる項目に重点を置いて学習する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 細胞 2. 酵素とビタミン 3. 代謝 4. 核酸と遺伝子 5. タンパク質の生合成

成績評価の方法

定期試験の結果と平常点で評価する。

教 科 書

猪飼篤著『化学入門コース8生化学』（岩波書店）2,913円

参 考 書 等

林典夫・廣野治子編『シンプル生化学』（南江堂）2,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
電 子 工 学	すぎ た とおる 杉 田 徹	放 2 必	2

講義のねらい

電子工学の主役は「電子」である。電子工学はまず電子の挙動を制御する素子の理解に始まり、その展開上に回路技術を習得する。現在、電子工学は医療分野に於ける基礎技術として考えなければならない。そのような観点から、次に掲げる項目に従い講義を進める。

講義の内容・授業スケジュール

1. 電子の性質
2. 場との相互作用
3. 素子への展開と周辺技術
4. 基礎的な回路技術
5. 電子応用機器の概論

履修上の留意点

時間的制約があり概論的な講義になるが、基本的な知識の修得を心掛けて欲しい。

成績評価の方法

中間試験、定期試験、出席状況により成績評価を行う。

教 科 書

宇佐美品、曾根福保共著『テキストブック・電子工学概論』（日本理工出版会）2,500円

そ の 他

国家試験該当科目である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
原子核物理学	なが い よし のり 永井喜則	放2必	2

講義のねらい

放射線物理学で学習した内容を基礎とし、原子核と放射線に関する講義を行う。特に α ・ β 壊変と γ 線放射は、今後、放射性同位元素の応用を考える上での基礎となるものである。正確な理解をすると共に、他の科目との関連を意識しながら受講すること。

講義の内容・授業スケジュール

1. 原子核の性質（構成粒子、質量、結合エネルギー、核力、核模型、磁気モーメント）
2. 放射性壊変（放射能、 α ・ β ・ γ 線、壊変図）
3. α 壊変（ α 線のエネルギー、ガイガーヌッタルの法則、トンネル効果）
4. β 壊変（ β -壊変、 β +壊変、 β 線のエネルギー、電子捕獲、カリブプロット）
5. γ 線放射（ γ 線の角運動量、核異性体、内部転換、メスbauer効果）
6. 核反応（核反応の種類、Q値、しきい値、核反応断面積、複合核、光核反応）
7. 中性子（中性子の性質、中性子発生源、エネルギーによる分類）
8. 原子炉（核分裂と放出エネルギー、中性子の減速、原子炉の構造、中性子捕捉療法）

履修上の留意点

講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするように心がけてほしい。講義の後には、短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法

定期試験以外に中間試験を2回行い、その結果から成績を評価する。出席は重視する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書等

上原周三著『放射線物理学』（南山堂） 田島英三著『原子核物理概論』（地人書館）

その他

授業の中では演習問題も出題する。電卓を用意しておくこと。

科目名	担当者名	配当学科	単位
放射化学	やま もと ゆう すけ 山本裕右	放2必	2

講義のねらい

診療放射線技師として必要な放射性同位元素の化学について学ぶ。
本講義では、すでに1年次に学んだ「基礎化学」および「放射線物理学」、さらに2年次で並行して学ぶ「原子核物理学」で得た、化学的、物理的知識を基に、放射性同位元素の化学について解説する。またここで学ぶ事柄は、3年次の「核医学検査技術学基礎実習」を履修するための必要不可欠な学問的基礎となるものであると同時に、「核医学」、「放射線管理学」に必要な放射化学的知識の基礎となるものである。
なお、診療放射線技師国家試験科目として「放射化学」がある。

講義の内容・授業スケジュール

- 上記の観点から以下の内容について講義する。
1. 天然に存在する放射性同位元素
 2. 放射能、放射壊変および壊変則
 3. 放射平衡
 4. 放射性同位元素の製造
 5. 放射性同位元素の分離、精製
 6. 放射能を利用する分析法
 7. 放射性標識化合物の合成法

成績評価の方法

中間試験、学年末試験および平常点により評価する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書等

データブックとして 日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』（日本アイソトープ協会 1,600円+税）を使用する。講義には必ず持参すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放射線生物学(後期)	はやかわよしひこ 早川吉彦	放2必	1

講義のねらい

放射線が生物に及ぼす影響を、分子や細胞のレベルから個体や集団のレベルにわたって総合的に理解する。専門基礎分野の科目として、今後治療技術学や安全管理学を学んでいく上での基礎となる「被ばくの影響を正しく評価するための知識」を身につける。

ここ四半世紀に及ぶ遺伝子工学の時代に、生物への放射線影響の解析は著しく進歩した。この講義では、高線量及び低線量の放射線の生物影響研究の最新の知識を伝えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

次の各項目よりなる。

- 1 放射線生物学の基礎：細胞、遺伝子
- 2 生物作用の初期過程：物理・化学・生化学的作用
- 3 放射線による細胞死、細胞の生存率曲線とその解析
- 4 放射線影響の修飾：LETとRBE、線量率、分割照射、酸素効果、温度効果、細胞周期、増感剤・防護剤
- 5 DNA損傷と細胞への影響、DNA修復、遺伝子突然変異と染色体異常
- 6 組織・臓器への影響：早期障害と後期障害、確定的影響と確率的影響
- 7 放射線による発がん遺伝的影響、胚と胎児への影響
- 8 腫瘍の放射線生物学：感受性とその修飾、分割照射効果と4R、高LET放射線と生物学的効果、温熱療法
- 9 放射線被ばくのリスクと防護

履修上の留意点

授業開始時刻厳守のこと。

成績評価の方法

期末に筆記試験を行う。

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書等

江島洋介、木村博編、放射線技術学シリーズ『放射線生物学』（オーム社）2002年

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
放射線計測学	あおき きよし 青木 清	放2必	2

講義のねらい

放射線にはいろいろな種類があり、物質との相互作用もそれぞれ異なっている。さらに、同じ種類の放射線であっても、エネルギーにより振るまいが異なる。このような多様な放射線を計るため、たくさんの検出器が考案されている。正確な測定を行うにはこれらの検出器を目的に応じて使い分けることが大切である。本講義ではこれらのことを念頭に置いて、代表的な検出器の動作原理と特徴、ならびに測定結果の評価法を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期)
- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| (1)放射線の検出原理 | (2)放射線検出器の全体像と分類 |
| (3~5)電離箱型検出器の基本原理と特性 | (6・7)電離箱型検出器の出力回路と動作モード |
| (8~10)各種電離箱型検出器の原理と特徴 | (11~13)電離箱型検出器による線量計測 |
- (後期)
- | | |
|---|-------------------|
| (14~18)各種計数管 (GM、比例、シンチレーション計数管など) の原理と特性 | |
| (19~21)パルス計測の基本と応用 | (22~24)計測データの統計処理 |
| (25・26)半導体検出器の原理と応用 | |

履修上の留意点

講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするよう心がけてほしい。講義の後には短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法

中間試験、定期試験ならびに出席状況により評価する。

教科書

教科書は使用しない。

参考書等

『放射線計測学』（南山堂）2,800円、『放射線計測学』（オーム社）4,700円、『放射線計測学』（コロナ社）5,200円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
診 療 画 像 技 術 学	にし お せい し 西 尾 誠 示	放 2 必	4

講義のねらい

画像技術学はX線解剖学や基礎的な画像工学を元にした幅広い分野から構成される。体表解剖、解剖・生理を裏付けとした整位、及び理論的な撮影条件を始めとして臨床画像の評価まで含めて講義を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①X線撮影の基礎的知識
- ②頭部の撮影技術
- ③側頭骨・聴器の撮影技術
- ④副鼻腔・眼窩・顔面の撮影技術
- ⑤椎骨の撮影技術
- ⑥胸郭その他の骨の撮影技術
- ⑦四肢骨の撮影技術
- ⑧胸部の特殊性と胸部撮影の理論
- ⑨胸部撮影技術と画像
- ⑩腹部の特徴とその撮影技術
- ⑪乳腺・軟X線撮影の理論と技術
- ⑫上部消化管検査の技術
- ⑬小腸・大腸の検査について
- ⑭肝・胆・脾の画像検査について
- ⑮泌尿器系の画像検査について
- ⑯心臓・大血管及び冠動脈の検査について
- ⑰腹部の血管造影検査について
- ⑱脳神経系の画像検査について
- ⑲小児科領域の撮影技術

履修上の留意点

講義はPower Pointを用いるが、必ずノートをとること

成績評価の方法

定期試験及び中間試験が基準であるが、各自の学習意欲、授業態度も採点に加える。

教 科 書

稲本一夫編『放射線画像技術学』（医歯薬出版）4,800円

参 考 書 等

『診療画像技術学』（日本放射線技術学会出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放 射 線 機 器 工 学	なか きた つね お 中 北 倫 男	放 2 必	2

講義のねらい

診療用 X 線発生装置および X 線映像装置の構成、構成要素の構造、機能、特性、装置の動作原理、動作特性などについて学び、装置を取り扱うための基礎知識を身に付ける。

講義の内容・授業スケジュール

X 線発生装置は、X 線管部、直流高電圧発生部および制御部などから構成される。直流高電圧の発生形式により、自己整流式、単相ならびに三相全波整流式、インバータ式およびコンデンサ式などの種別がある。また X 線映像装置として X 線 TV 装置とミラーカメラ装置がある。前期は X 線管装置から単相ならびに三相全波整流式 X 線装置について講義し、後期はインバータ式、コンデンサ式および自己整流式 X 線装置と、X 線 TV 装置およびミラーカメラ装置ならびにこれら装置に関わる自動制御について講義する。

履修上の留意点

X 線発生装置は、高電圧応用機器の一種でさまざまな技術要素を内包する。また X 線映像装置はエレクトロニクスと光学の応用機器である。したがって、この教科をよく理解するには、電気工学、電子工学、物理学、化学などを併せ履修することが望ましい。教科の内容については、基本的事項を理解し身に付けることが第一で、さらに、原理や特性のほか、因果関係・論理の筋道を重視したい。

成績評価の方法

年度内に行う試験（中間試験、定期試験）および出席状況により評価する。

教 科 書

青柳泰司ほか著『新版 放射線機器学 (I) 診療画像機器』（コロナ社）4,700円
内容の誤りや誤植がいくつかあるので、講義の中で指摘訂正する。

参 考 書 等

岡部哲夫ほか編「放射線診断機器工学」第 2 版（医歯薬出版株式会社）5,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
画 像 工 学 概 論 (前 期)	たが の まさ お 高 野 正 雄	放 2 必	1

講義のねらい

医用画像形成システムに使われている画像情報の理論を理解し、画質の解析と評価、画像の処理、医療画像情報システム等に関する知識を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 医用画像情報の役割
2. X 線画像の形成
アナログとデジタル画像
3. Fourier 変換
4. 画質の評価
入出力特性、解像度、ノイズ特性、DQE、ROC
5. デジタル画像の処理
ファイル、フィルタリング、実際に使用されている処理
6. 医療画像情報システム
PACS、RIS、HIS、Tele-Radiology

履修上の留意点

講義の内容が多いので、自習を心がけてください。

成績評価の方法

レポート、定期試験の総合点。

教 科 書

桂川茂彦編『医用画像情報学』（南山堂）3,300円

参 考 書 等

必要となる資料はプリントを配布します。

そ の 他

理解を深めるために、演習を行います。欠席しないように。

科目名	担当者名	配当学科	単位
医用画像工学(後期)	かしの櫃 尾 英 次	放2必(診療)	1

講義のねらい

医用画像工学は、工業に利用されている画像工学および画像処理工学と共通する部分が多いため、その基礎を導入として学ぶ。次に医用画像診断機器で利用されている画像処理法について学修する。また、医用画像管理システムについても、その概要を紹介する。

講義の内容・授業スケジュール

前半に画像工学と画像処理工学を学び、後半で医用画像工学について学修する。

第1回 画像の表現	第2回 画像処理システム
第3回 画像情報処理	第4回 濃淡画像処理
第5回 2値画像処理	第6回 画像認識
第7回 3次元画像処理	第8回 核医学システム
第9回 臨床プログラム	第10回 C T画像の再構成
第11回 3次元医用画像表示法	第12回 医用画像管理システム

履修上の留意点

画像処理工学の教科書により講義の予習と復習を行うこと。画像を扱う実験や画像診断機器の講義では、画像工学の講義との関連について学修してほしい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教科書

メカトロニクス教科書シリーズ9『画像処理工学』(コロナ社) 3,000円
必要に応じて教材用プリントを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
画像数学(後期)	しの志 村 一 男	放2必(画像)	1
		放2選(診療)	

講義のねらい

画像数学は画像研究の基礎となる学問、科学である。X線写真、CT、MRといった様々な医用画像の画質評価、また画像強調、データ圧縮、画像認識といった各種の画像処理は全てその基礎となる画像数学の上に成立している。本講義を通じて画像数学を理解する事により、画質評価や画像処理の本質を把握してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

画像のデジタル化における数学
画質評価における数学
フィルタ処理における数学
データ圧縮における数学
画像間演算における数学
画像認識における数学

成績評価の方法

年度末試験、学習状況、出席等により評価する。

教科書

授業内容に関するプリントを随時配布する。

参考書等

ローゼンフェルド、カク『デジタル画像処理』(近代科学社)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
画像検査技術学基礎実習	西尾 誠示・氏家 盛通 谷口 貴久・原 昌代 吉川 達生	放 2 必	1

講義のねらい

X線装置等を用い、実際に人体ファントムを撮影する。実際の検査手順と体表解剖学を踏まえた撮影手技を学び、撮影法と得られた画像の関係について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- ①頭部 X 線撮影法
頭部ファントムを用い、頭部の撮影法を学ぶと共に、頭部の画像解剖を理解する。
- ②耳鼻科領域の撮影法
頭部ファントムを用いて副鼻腔及び聴器の撮影法を学び、画像解剖を理解する。
- ③椎骨、骨盤の X 線撮影法
頸椎、腰椎骨盤ファントムを用い、頸椎、腰椎の撮影技術を習得する。
- ④四肢骨の撮影法
手関節、肘関節、膝関節、足関節のファントムを用い、撮影技術を習得する。
- ⑤胸部の撮影技術と感光材料
胸部ファントムを用い、胸部の撮影手技を学び最適な撮影条件と検出系を選択する。
- ⑥乳腺の X 線撮影 (Mammography)
乳房用 X 線装置、乳房ファントムを用いて照射条件毎の画像の変化を評価する。撮影に用いる機器類、感光材料から軟線撮影の特殊性を理解する。
- ⑦胃造影検査法
X 線 TV 装置の操作法を習得するとともに、造影剤とファントムを用い透視・撮影法を学ぶ。特に体位と画像評価について学ぶ。
- ⑧X 線 CT 検査法
X 線 CT 装置の原理と構造を理解し、ファントムを用いた検査手技、撮像法を習得する。
- ⑨超音波検査法
超音波診断装置を使用し、ファントムと生体にて超音波の原理と撮像技術を学ぶ。
- ⑩CR の取扱法と画像処理
上記の実験と平行して CR (コンピューテッド・ラジオグラフィー) 装置の原理・構造と基礎的な画像処理について学ぶ。

履修上の留意点

授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。

成績評価の方法

定期試験、学習意欲、レポート・試問について総合的に判定する。

教科書

実験マニュアルを配布する。参考：稲本一夫編『放射線画像技術学』（医歯薬出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
電 気 電 子 工 学 実 験	<small>すぎた</small> 杉田 <small>かわがわ</small> 川副 <small>よしだ</small> 吉田 <small>とおる</small> 徹 <small>あおき</small> 青木 <small>まもる</small> 護 <small>まさひろ</small> 正廣 <small>きよし</small> 清 <small>のぶる</small> 登 <small>きよし</small> 清 <small>のぶる</small> 登	放 2 必	1

講義のねらい

電気電子工学分野の実際を経験する。数人のグループ構成で行うものと、各自が行うものがある。

講義の内容・授業スケジュール

下記の項目について実験を行う。

1. 直列共振・並列共振
2. 電磁誘導回路
3. RC回路
4. 三相12ピーク整流回路
5. コンデンサの充放電
6. 整流回路
7. 半導体素子
8. 集積回路
9. パーソナルコンピュータ I
10. パーソナルコンピュータ II

履修上の留意点

出来る限り遅刻、欠席はしないこと。
レポートは期限内に提出すること。

成績評価の方法

レポートの結果と定期試験、出席状況を加味して評価する。

教科書

『電気電子工学実験』（授業の時に配布）

その他

パーソナルコンピュータの実験は総合情報センターで行う。
前期、後期のはじめにガイダンスを行うので必ず出席のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
放射線機器工学実験	<small>かしお</small> 榎尾 英次・一守 <small>としひろ</small> 俊寛 <small>なかきた</small> 中北 倫男・原 昌代	放2必	1

講義のねらい

放射線機器工学で学修する理論を、実験を通じて理解させることに主眼を置き、併せて各種装置・機器の取扱法を習熟させることを目的としている。眼底カメラについては、眼底写真の撮影法を実習し、後日眼科医による臨床講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

実験を遂行する上で必要な説明を加えながら、以下のテーマについて実験を行う。

- 1) X線管焦点寸法の測定
- 2) X線管電圧、X線管電流の測定
- 3) 眼底カメラによる眼底写真撮影
- 4) 撮影時間の測定
- 5) インバータ式X線装置の特性
- 6) X線CT装置によるファントム測定

履修上の留意点

実験は結果の修得のみを目的として行うものではなく、あくまでも関連する理論の学修を助け、より確実な知識の修得を図る目的で設置された科目である。実験中はすでに学修済みの内容の確認、理論との間に生じる問題点などの把握に心掛けてほしい。

報告書（レポート）の作成に当たっては、所定の書き方によるのは当然であるが、書かれている内容を理解することが最も重要であることを認識してほしい。報告書の提出時の試問は、記載内容の理解度を確認し、評価するために行っているもので、理解度が極めて低い場合には再提出を求められることがある。

成績評価の方法

実験態度、報告書、試問、中間試験および定期試験などの結果によって総合評価する。

教 科 書

配布プリントを使用する。

参 考 書 等

『JISハンドブック 39放射線（能）』（日本規格協会）最新版

そ の 他

実験科目の単位取得には所定のテーマを全て終了することが必要で、やむをえない理由により欠席した場合は、追実験を受けなければならない。

專門教育科目

Ⅲ 「日本語」・「日本事情」科目

「日本事情」
「日本語」

Ⅲ 「日本語」・「日本事情」科目

《日本語科目》

日 本 語	I	〈佐野典子〉	153
日 本 語	I	〈多田羅哲子〉	153
日 本 語	II	〈佐野典子〉	153
日 本 語	II	〈多田羅哲子〉	154
日 本 語	III	〈多田羅哲子〉	154
日 本 語	III	〈湯村礼子〉	155
日 本 語	IV	〈石川守〉	155
日 本 語	IV	〈湯村礼子〉	156
日 本 語	V	〈石川守〉	156
日 本 語	V	〈多田羅哲子〉	157
日 本 語	VI	〈石川守〉	157
日 本 語	VI	〈多田羅哲子〉	158

《日本事情科目》

日本事情 I	〔地理〕	〔前期〕	〈高橋健太郎〉	158
日本事情 II	〔自然〕	〔前期〕	〈清水善和〉	159
日本事情 III	〔歴史〕	〔後期〕	〈浅倉直美〉	160
日本事情 IV	〔思想〕	〔前期〕	〈赤羽由規子〉	160
日本事情 V	〔社会〕	〔後期〕	〈川本勝〉	161
日本事情 VI	〔政治・法律〕	〔後期〕	〈三竹直哉〉	161
日本事情 VII	〔文学〕	〔後期〕	〈近衛典子〉	162
日本事情 VIII	〔文化・芸術〕	〔後期〕	〈赤羽由規子〉	162
日本事情 IX	〔経済〕	〔前期〕	〈吉田敬一〉	163
日本事情 X	〔経営〕	〔前期〕	〈永田智則〉	163

「日本事情」
「日本語」

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 I	佐野典子	全学科	2

講義のねらい

本講義は、留学生を対象とし、日本語の聴解力、及び読解力の向上を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、テレビドラマのVTRを教材に、実際に話される日本語がどのようなものか学習し、同時に、書き言葉、話し言葉の違いを把握する。

履修上の留意点

教材は、担当者が用意する。

成績評価の方法

成績は、提出物（毎週）、小試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 I	多田羅哲子	全学科	2

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。
漢字の正確な読み、語彙の様々な意味・使い方、表現等を知ること、日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- ・まず常用漢字を基本とした語句の読み方を覚え、様々な使い方を知る。
- ・それらを使った例文を通してかたい文章を読むことにも慣れる。
- ・また用例から助詞・機能語・慣用表現・文法等の復習もする。

成績評価の方法

平常点（出席、授業への参加度、小テスト）および期末テスト等で総合的に評価する。

教科書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文科系教科の概論・入門書・新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 II	佐野典子	全学科	2

講義のねらい

本講義は、留学生を対象とし、日本語のみならず、広く日本文化の把握を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業は、前期は、日本の映画を中心に、日本語を勉強する。後期は、同じテーマを持った、外国の映画との、比較を通して、日本文化の特質を探る。

履修上の留意点

教材は、担当者が用意する。

成績評価の方法

成績は、提出物（毎週）、小試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	たたらあきこ 多田羅 哲子	全学科	2

講義のねらい

- 話すことを中心に日本語の運用能力を養う。
- ・教室活動を通して正しく適切な表現を用いて言いたいことが自由に話せるようになることを目指す。
 - ・発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。
 - ・短時間で文章が書けるようにする。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・説明、意見・提案などのスピーチ、その内容について質疑応答・意見交換・討論、ディベートなどを行う。
- ・テープで自分が話した日本語を聞く。
- ・話の内容、感想、意見などを限られた時間内で文章にまとめる。

履修上の留意点

授業活動が大切なので毎時間出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

必要に応じてコピーを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 III	たたらあきこ 多田羅 哲子	全学科	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて日本語で聞き取り、その内容や自分の考えを口頭および文章での的確に表現できるようになることを目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・今話題になっているテーマについてビデオを使って内容を把握し、必要に応じて細部まで理解する。
- ・その内容を口頭で説明したり自分の考えを述べたり討論したりする。
- ・また、書き言葉でも表現する。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加し毎時間提出物を出すこと。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

ビデオを使用。プリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 Ⅲ	湯 村 礼 子 <small>ゆむら れい こ</small>	全学科	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに高め、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、意見を持ち、発表・説明ができるようになることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読む。読んだ後に、意見を出し合い、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出する。後期は、各自分担を決めて、調べたり資料を収集したりして発表を行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

テスト（漢字・語彙テストなど）、小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の話の聴き方、授業態度など）を総合的に評価する。

教科書

授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 Ⅳ	石 川 守 <small>いし かわ まもる</small>	全学科	2

講義のねらい

日本の多くのことわざのもとになっている「いろはかるた」を使って日本語の中上級の文法・表現・文法・アクセントなどを勉強していく。

講義の内容・授業スケジュール

- 本年度は、「ぬ」から行っていくことにする。
1. 「盗人の昼寝」
 2. 「糠に釘」
 3. 「瑠璃も玻璃も照らせば光る」
 4. 「類をもって集まる」
 5. 「老いては子に従う」

履修上の留意点

受身の立場ではなく、できるだけ発言することが望ましい。

成績評価の方法

授業へのとりくみ（出席と授業への参加態度）と期末試験等で総合的に評価する。評価の比率は、50：50ほど。

教科書

授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	湯 村 礼 子 <small>ゆむら れい こ</small>	全学科	2

講義のねらい

書くことを中心に授業を進める。大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義、そして実践し、原稿用紙に書く。書いたものを再度見なおす。

履修上の留意点

講義・授業中の活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文（5回程度）
授業活動（発言、授業態度、提出物など）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 V	石 川 守 <small>いし かわ まもる</small>	全学科	2

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、自作プリントを使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、呼称からはじめ、指示詞、場所関係の表現、形容詞・形容動詞、テンスとアスペクト、依頼、などの順で進んでいく。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は、基礎的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度・態度など＝質問への答え）の二つで評価する。比率は50：50ぐらいである。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行なっていく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 V	たたら あきこ 多田 羅 哲 子	全学科	2

講義のねらい

来日後間もない人を対象に、日本で生活する上で必要な基本的日本語を中心に、総合的に学習する。

講義の内容・
授業スケジュール

初中級レベルからスタートし、話すことを中心に進める。また、聞く、必要に応じて読み・書き（漢字）も練習する。

履修上の留意点

出席して、積極的に授業に参加すること。

成績評価の方法

平常点を中心に判断する。

教 科 書

後日、授業時に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全学科	2

講義のねらい

日本語 V で学習した基礎文法の残りを学習していく。

講義の内容・
授業スケジュール

日本語 V で学習した内容は引き続き、更にその残りの文法と中上級全般とのかかわりを中心に講義を進めていく。

主たる項目は以下の通りである。

- ・目的の表現
- ・試みの表現
- ・条件の表現 「と」「たら」「なら」
- ・原因・理由の表現
- ・逆接の表現
- ・依頼の表現
- ・使役の表現と用法
- ・受身の表現
- ・自動詞と他動詞
- ・使役の受身
- ・～てしまうの用法

その他

順番は必ずしも上の通りとはならない。

履修上の留意点

授業は学生への質問という形をとって進めていくので、積極的に発言すること。

成績評価の方法

期末試験の成績と平常点（出席・授業態度＝授業への参加度）、比率は50：50ほど。

教 科 書

コピーを配布する。

参 考 書 等

随時、教室で指示する。

そ の 他

特になし。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 VI	多田羅 哲子 <small>たたら あきこ</small>	全学科	2

講義のねらい

- ・読解能力を向上させる。
- ・文章を読むことを通して、文法や適切な表現・語彙の使い方を確かめ、表現力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- ・さまざまな種類の文章を、自分で調べながら読んでいく。
- ・そこに出てくる表現、語彙の使い方、文法などを確かめ、必要なものについてはより適切に使えるよう練習する。

履修上の留意点

出席するだけでなく、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点と筆記試験

教科書

プリント配布

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情 I〔地理〕 (前期)	高橋 健太郎 <small>たか へし けんたろう</small>	全学科	2

講義のねらい

空間的側面と関連づけて、人々の生活や地域社会の仕組みと変化について考えるという人文地理学の視点から、日本の諸地域に対する理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

日本の文化や人々の生活、地域社会の取り組みについて、主に以下の項目について検討する予定である。◇日本の地域性、◇農山村の生活と地域振興、◇都市の構造、◇観光開発、◇地図と地名。
また、日本の地域的な特徴についての理解を深めてもらうために、統計資料の計算や地図作りなどの作業も取り入れる。

履修上の留意点

第1回目に授業の案内を行うので必ず出席のこと。

成績評価の方法

頻繁に教場で作成してもらう小レポートと学期末の筆記試験で評価。

教科書

使用しない。授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 Ⅱ〔自然〕 (前期)	し み ず よ し か ず 清 水 善 和	全学科	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り亜熱帯の沖縄まで、約3,000kmの細長い国土を有している。四季の季節変化が明瞭で梅雨や台風、日本海の多雪のような独特な気象現象もみられる。また、37万平方キロメートルの狭い国土の中に、山脈、丘陵、河川、湖沼、平野、海岸が箱庭のように組み合わせ、多種多様な地形が形成されている。さらに、日本は複数のプレートの境界域にあたるため、世界でも有数の火山・地震地帯となっており、これらによる自然災害も多い。このような多様な自然環境を反映して、日本には独特の生物相が発達している。

本講義では日本の自然を位置、気候、地質・地形、生物の4章に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジア全体の自然の中に日本を位置付ける、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながりを重視する、(3)自然と日本人の生活、文化との関わりにも注目する。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることにより、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。なお、日本の自然破壊の歴史や自然保護のあり方等についても適宜言及する。

講義の内容・授業スケジュール

第Ⅰ章 位置

1. 国土の範囲
2. 行政区分
3. 位置の特徴

第Ⅱ章 気候

1. 気候帯
2. 日本近海の海流
3. 気候の特徴
4. 気団と季節
5. 気象観測
6. 気候と文化

第Ⅲ章 地質・地形

1. 弧状列島
2. 変動の歴史
3. 多様な地形
4. 火山
5. 地震

第Ⅳ章 生物

1. 気候帯と植生帯
2. 生物多様性
3. 生物地理区
4. 里山の生物
5. 帰化生物

第Ⅴ章 自然保護の諸制度

1. レッドデータブック
2. 国内の法律
3. 国際条約

成績評価の方法

レポート（2回）と出席回数に基づいて評価する。

教科書

講義のアウトラインを記したweb版教科書（清水執筆）を紹介する。

参考書等

web版教科書で分野ごとの参考書を紹介する。

その他

必要な図表をまとめた補助教材のプリントを適宜配布する。講義は日本語で行い、板書には漢字も使用する。漢字にはできるだけ読みがなをつける。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅲ〔歴史〕 (後期)	あさ くら なお み 浅 倉 直 美	全学科	2

講義のねらい

日本の歴史を学ぶにあたって、とくに日本史上の大変革期である16世紀から17世紀前半を取り上げ、テーマを設けて、日本の諸事情および朝鮮半島・中国大陸と日本との関係について考えていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 京と江戸
- (2) 織田信長と室町幕府の滅亡
- (3) 豊臣秀吉と天下一統
- (4) 城
- (5) 中世後期の文化
- (6) 古文書
- (7) 徳川家康と江戸幕府
- (8) 環日本海と鎖国
- (9) 江戸の大店と長屋
- (10) 江戸の町人文化 など

成績評価の方法

出席日数を評価の参考とし、レポートを提出してもらいます。

教科書

随時プリントを配布します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅳ〔思想〕 (前期)	あか ぼ ゆ き こ 赤 羽 由 規 子	全学科	2

講義のねらい

日本人が古くから伝承してきた民族音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。民族音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参考書等

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅴ〔社会〕 (後期)	かわもと まさる 川本 勝	全学科	2

講義のねらい

日本社会にはどのような特質があるかを考えてみたい。情報化が進展し日本社会は変貌している。それにともない、日本人の人間関係、社会的行動、社会生活も変化してきている。それらの様相と問題点を検討してみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 変貌する日本の社会－都市化社会、高度情報社会の出現－
2. 生活環境の変容と生活行動－情報環境の変容と情報行動を中心として－
3. 新しい時代の人間関係と社会生活
4. まとめ－日本社会の特徴とは何か－

履修上の留意点

講義内容に関連する社会事象を見つけて発表してもらいます。さまざまな社会問題等に関心を持つよう心がけ、積極的に参加、発言することが望まれる。

成績評価の方法

授業時間内での発表等の平常点とレポートによって評価する。

参考書等

その都度紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅵ〔政治・法律〕 (後期)	み たけ なお や 三 竹 直 哉	全学科	2

講義のねらい

この授業は、留学生のみなさんとともに、日本の政治について、楽しく考える授業です。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容は、最初の回に、履修するみなさんにアンケートをとり、みなさんが、日本政治のどういう点に興味や疑問をもっていて、どういうことを授業でディスカッションしたいかを把握してから決めます。

人数にもよりますが、みなさん自身で、日本の政治について、調べてきてもらったり、発表してもらったりすることもあります。

履修上の留意点

辞書を使いながらでよいので、日本語で新聞を読むこと、また、日本語で政治についてディスカッションできることを前提条件とします。
また、日頃から、日本の新聞やテレビで、日本の政治についての情報に接していることも条件とします。

成績評価の方法

平常点（発言点など）と期末試験を総合して素点を出します。

教科書

今のところ使う予定はありません。

参考書等

適宜、授業中に紹介します。

その他

たくさん発言してください。
最新情報は、下記のホームページで確認してください。
<http://homepage2.nifty.com/mitakezemi/>

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 Ⅶ〔文学〕 (後期)	この え のり こ 近 衛 典 子	全学科	2

講義のねらい

本講義は、日本語を母語としない留学生を対象に、問題発見能力の涵養と、日本文学・日本語に対する理解を深めることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文学作品を読み進めながら、年中行事、日本の美意識の変遷、文学と絵画の関係など、幅広く日本文化のあり方を考える。各自がテーマを選定し、調査研究して発表する、という方法で授業を進める。

履修上の留意点

受身でなく積極的な姿勢で臨むこと。第1回目にオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。

成績評価の方法

出席・提出物・発表・授業態度

教 科 書

その都度指示する。

参 考 書 等

その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 Ⅷ〔文化・芸術〕 (後期)	あか ば ゆき こ 赤 羽 由 規 子	全学科	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。

また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参 考 書 等

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅹ〔経済〕 (前期)	よし だ けい いち 吉 田 敬 一	全学科	2

講義のねらい

第2次世界大戦に破れ、廃墟の中から経済復興に挑戦し、80年代には「Japan as No.1」と称されるに至った経済発展の秘密を、できるだけ分かりやすく説明し、留学生諸君が母国に帰った後で役に立つ経済的知識を身につけてもらうことが、この講義の目的です。

講義の内容・授業スケジュール

- I 日本経済入門の入門
- II 戦後日本の高度経済成長の秘密
- III 経済大国日本とバブル景気
- IV 空洞化問題に苦しむ日本
- V 21世紀の日本経済の課題

履修上の留意点

難しい経済学の予習・復習は必要ありませんが、日々の経済動向に対する鋭い感受性を磨くことが必要です。そこで受講生は、新聞やテレビの経済報道に関心を持つことが望ましい。

成績評価の方法

定期試験とレポートで評価します。再・追試験は実施しません。

教科書

教科書は使用せず、ノート講義の形式で授業を行ないます。必要に応じてプリント資料を配布します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅹ〔経営〕 (前期)	なが た とも のり 永 田 智 則	全学科	2

講義のねらい

いかなる国も海外との交易を遮断して経済を発展させることはできません。この視点から本講義では、日本の貿易に焦点をあて、東アジア経済の変貌と日本経済について概説します。

講義の内容・授業スケジュール

- 1. 日本経済と国際貿易、
- 2. 為替変動と日本経済、
- 3. 東アジア経済の発展と日本の貿易構造、

履修上の留意点

授業では講義に関連する世界の出来事を取り上げ、ディスカッションの場を設けます。活発に発言し積極的に授業に参加することを期待しています。

成績評価の方法

課題レポートを参考に、授業への出席を重視して平常点で評価します。

教科書

教材は、プリントを配布します。

参考書等

適宜紹介します。

「日本事情」
「日本語」